

茨城県教育財団文化財調査報告第154集

主要地方道下館つくば線緊急地方道路  
整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

中根十三塚遺跡

平成 11 年 7 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

210,231

A33

(NK)

茨城県教育財団文化財調査報告第154集

主要地方道下館つくば線緊急地方道路  
整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

なかね じゅうさんつか  
中根十三塚遺跡

平成 11 年 7 月



茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

00665678

## 序

茨城県は、県内の主要な都市間をおよそ60分で連絡する道路網の整備を目的とする「県土60分構想」の実現のため、高速道路やこれを補完する国道や主要地方道等の幹線道路網の整備をはかっています。主要地方道下館つくば線緊急地方道路整備改良工事も、そうした交通体系の整備と県土の一体的な振興を図るため、計画され整備が行われているものです。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県と埋蔵文化財の発掘調査事業について委託契約を結び、平成10年10月から翌年3月まで中根十三塚遺跡の調査を実施いたしました。この調査によって貴重な遺構、遺物が確認され、郷土の歴史を解明する上に多大な成果をあげることができました。

本書は、中根十三塚遺跡の調査成果を取録したものであります。本書が、学術的な研究の資料としてはもとより、郷土の歴史の理解を深め、ひいては教育、文化の向上の一助として広く御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県からいただいた多大なる御協力に対し、心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、明野町教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただいたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成11年7月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 齋藤佳郎

## 例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により財団法人茨城県教育財団が平成10年度に発掘調査を実施した、茨城県真壁郡明野町大字中根字赤町前に所在する中根十三塚遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。  
調 査 平成10年10月1日～平成11年3月31日  
整 理 平成11年4月1日～平成11年7月31日
- 3 本遺跡の発掘調査は、調査第1課長沼田文夫の指揮のもと、調査第2班長中山忠久、主任調査員野田良直、川村満博が平成10年10月1日から平成11年3月31日まで担当した。
- 4 本遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理課長川井正一の指揮のもと、主任調査員野田良直が平成11年4月1日から平成11年7月31日まで担当した。
- 5 本書の作成にあたり、旧石器の特徴は、千葉県立中央博物館上席調査員の橋本勝雄氏にご指導いただいた。中世の遺構と遺物の特徴については、栃木県立佐野高等学校教諭の齊藤弘氏に御教示をいただいた。
- 6 発掘調査及び整理に際し、ご指導、ご協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

# 凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標Ⅱ系座標を原点とし、X軸 = +26,400m, Y軸 = +19,920mの交点を基準点(A1a1)とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C, ……西から東へ1, 2, 3, ……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa, b, c ……j, 西から東へ1, 2, 3, ……0とし、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。

2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。






遺構 住居跡-SI 土坑-SK 井戸-SE 溝-SD 道路状遺構-SF ビット-P

遺物 土器・陶器-P 土製品-DP 石製品-Q 金属製品・古銭-M

木製品・木片-W 瓦-T 拓本土器-TP

土層 擾乱-K

3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

 粘土  焼土  竈・炉  黒色処理  炭化材・炭化物

● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 ▲ 金属製品 \* 火葬骨片

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 遺構・遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、次のとおりである。

- (1) 遺跡の全体図は縮尺約200分の1とし、各遺構の実測図は、60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 「主軸方向」は、長径方向とし、その軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E, N-10°-W)。なお、[ ]を付したものは推定である。
- (4) 土器の計測値は、A-口径 B-器高 C-底径 D-高台径 E-高台高 F-つまみ径 G-つまみ高とし、単位はcmである。なお、現存値は( )で、推定値は[ ]を付して示した。
- (5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。
- (6) 遺物番号については、土器、拓本のみ掲載の土器片、土製品、石製品、金属製品、木製品、瓦ごとに通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に付した番号は同一とした。

## 抄 録

ふりがな	しゅうろくはどうしむだてつばせんきんきゅうちほうどうろせいびじょうちないまいそうふんかざいちちうたほうこしよ							
書名	主要地方道下館つくば線緊急地方道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書							
副書名	中根十三塚遺跡							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第154集							
著者名	野田 良直							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行年月日	1999(平成11)年7月30日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
中根十三塚遺跡	茨城県真壁郡 明野町大字中根 字赤町前642番 地ほか	08502 - 152	36度 14分 2秒	140度 3分 21秒	22 ~ 24m	19981001 ~ 19990331	10,494㎡	主要地方道下館 つくば線緊急地 方道路整備事業 に伴う事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
中根十三塚遺跡	包含層	旧石器			ナイフ形石器, 剥片		弥生時代から中・近世 にかけての複合遺跡で ある。特に, 15世紀から 16世紀にかけての大 規模な墓域跡であり, 土師質土器片が多数出 土している。	
	集落跡	弥生	竪穴住居跡	3軒	壺, 紡錘車			
		古墳	竪穴住居跡	1軒	土師器(高坏, 甕, 埴)			
			平安	竪穴住居跡	1軒	土師器(甕), 須恵器 (坏), 灰釉陶器		
墓跡	中世	方形竪穴状遺構	10基 地下式墳 1基 土壌墓・土坑 242基 火葬墓 6基 井戸跡 22基 溝 38条		土師質土器(内耳土器, 小皿, 播鉢), 管状土 錘, 陶器(甕, 壺, 播 鉢, 卸し皿), 石製品(砥 石, 石臼, 硯), 木片, 骨片, 瓦(丸瓦)			
その他	時期不明	竪穴状遺構	2基	道路状遺構	1条	ビット群	4か所	縄文土器片, 弥生土器 片, 土師質土器片(内 耳土器, 小皿), 陶器 片, 磁器片, 土製品(泥 面子), 石製品(砥石, 石臼), 鉄製品(刀子, 釘)

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序の検討	9
第3節 遺構と遺物	10
1 旧石器時代の遺物	10
2 弥生時代の遺構と遺物	16
(1) 竪穴住居跡	16
3 古墳時代の遺構と遺物	22
(1) 竪穴住居跡	22
(2) 土 坑	24
4 平安時代の遺構と遺物	25
(1) 竪穴住居跡	25
5 中世の遺構と遺物	28
(1) 方形竪穴状遺構	28
(2) 地下式墳	38
(3) 土 墳 墓	39
(4) 火 葬 墓	50
(5) 土 坑	55
(6) 井 戸 跡	73
(7) 溝	87
6 その他の遺構と遺物	113
(1) 竪穴状遺構	113
(2) 道路状遺構	114
(3) ビット群	115
7 遺構外出土遺物	116
第4節 ま と め	122
写真図版	

## 挿 図 目 次

第 1 図 中根十三塚遺跡周辺遺跡分布図……………6	第 29 図 土墳墓群実測図 (3)……………43
第 2 図 中根十三塚遺跡調査区劃図……………8	第 30 図 土墳墓群実測図 (4)……………44
第 3 図 基本土層図……………9	第 31 図 土墳墓群実測図 (5)……………45
第 4 図 第 1 号石器および石材集中地点平面図 ……………11・12	第 32 図 土墳墓群実測図 (6)……………46
第 5 図 第 1 号石器および石材集中地点出土遺物 実測図 (1)……………13	第 33 図 土墳墓群 (7)・道路状遺構実測図 ……47
第 6 図 第 1 号石器および石材集中地点出土遺物 実測図 (2)……………14	第 34 図 土墳墓群実測図 (8)……………48
第 7 図 第 1 号石器および石材集中地点出土遺物 実測図 (3)……………15	第 35 図 土墳墓群実測図 (9)……………50
第 8 図 第 1 号住居跡実測図……………17	第 36 図 第 1 号火葬墓実測図……………51
第 9 図 第 1 号住居跡出土遺物実測図……………18	第 37 図 第 2 号火葬墓実測図……………52
第 10 図 第 2 号住居跡実測図……………19	第 38 図 第 3・4 号火葬墓実測図……………52
第 11 図 第 2 号住居跡出土遺物実測図……………19	第 39 図 第 5 号火葬墓実測図……………53
第 12 図 第 3 号住居跡実測図……………20	第 40 図 第 6 号火葬墓実測図……………54
第 13 図 第 3 号住居跡出土遺物実測図……………21	第 41 図 第 14 号土坑・出土遺物実測図……………55
第 14 図 第 5 号住居跡実測図……………22	第 42 図 第 32A 号土坑・出土遺物実測図……………56
第 15 図 第 5 号住居跡出土遺物実測図……………23	第 43 図 第 75 号土坑・出土遺物実測図……………57
第 16 図 第 305 号土坑・出土遺物実測図 ……24	第 44 図 第 76 号土坑・出土遺物実測図……………57
第 17 図 第 4 号住居跡実測図……………26	第 45 図 第 79 号土坑・出土遺物実測図……………58
第 18 図 第 4 号住居跡出土遺物実測図……………27	第 46 図 第 97 号土坑・出土遺物実測図……………59
第 19 図 第 1 号方形堅穴状遺構実測図……………29	第 47 図 第 107 号土坑・出土遺物実測図 ……60
第 20 図 第 2 号方形堅穴状遺構実測図……………30	第 48 図 第 139 号土坑・出土遺物実測図 ……61
第 21 図 第 3～7 号方形堅穴状遺構 実測図 (1)……………32	第 49 図 第 147 号土坑・出土遺物実測図 ……61
第 22 図 第 3～7 号方形堅穴状遺構・出土遺物 実測図 (2)……………33	第 50 図 第 161 号土坑・出土遺物実測図 ……62
第 23 図 第 8 号方形堅穴状遺構実測図……………35	第 51 図 第 189 号土坑・出土遺物実測図 ……63
第 24 図 第 9 号方形堅穴状遺構・出土遺物 実測図……………36	第 52 図 第 196 号土坑・出土遺物実測図 ……63
第 25 図 第 10 号方形堅穴状遺構実測図……………37	第 53 図 第 201 号土坑・出土遺物実測図 ……64
第 26 図 第 1 号地下式墳・出土遺物実測図……………38	第 54 図 第 223 号土坑・出土遺物実測図 ……65
第 27 図 土墳墓群実測図 (1)……………40	第 55 図 第 236 号土坑・出土遺物実測図 ……66
第 28 図 土墳墓群実測図 (2)……………41・42	第 56 図 第 257 号土坑・出土遺物実測図 ……67
	第 57 図 第 261 号土坑・出土遺物実測図 ……67
	第 58 図 第 1 号井戸跡実測図……………73
	第 59 図 第 1 号井戸跡出土遺物実測図……………74
	第 60 図 第 3 号井戸跡・出土遺物実測図……………75
	第 61 図 第 7・8 号井戸跡実測図……………76
	第 62 図 第 7 号井戸跡出土遺物実測図……………77
	第 63 図 第 8 号井戸跡出土遺物実測図……………79



第 64 図	第11・12号井戸跡実測図……………80	第 82 図	第 9 号溝出土遺物実測図 (2) ……99
第 65 図	第11号井戸跡出土遺物実測図……………80	第 83 図	第19・20号溝実測図 ……100
第 66 図	第12号井戸跡出土遺物実測図……………81	第 84 図	第19号溝出土遺物実測図 ……101
第 67 図	第13号井戸跡実測図……………81	第 85 図	第20号溝出土遺物実測図 (1) ……102
第 68 図	第13号井戸跡出土遺物実測図……………82	第 86 図	第20号溝出土遺物実測図 (2) ……103
第 69 図	第22号井戸跡実測図……………82	第 87 図	第20号溝出土遺物実測図 (3) ……104
第 70 図	第22号井戸跡出土遺物実測図……………83	第 88 図	第20号溝出土遺物実測図 (4) ……105
第 71 図	井戸跡実測図 (1) ……84	第 89 図	第27号溝実測図 ……107
第 72 図	井戸跡実測図 (2) ……85	第 90 図	第27号溝出土遺物実測図 (1) ……109
第 73 図	井戸跡実測図 (3) ……86	第 91 図	第27号溝出土遺物実測図 (2) ……110
第 74 図	第 1 号溝出土遺物実測図……………88	第 92 図	第27号溝出土遺物実測図 (3) ……111
第 75 図	第 1～3・5～9・13～15号溝 実測図 (1) ……89・90	第 93 図	溝土層実測図 ……111
第 76 図	第 1～3・5～9・13～15号溝 実測図 (2) ……91	第 94 図	第 1 号竪穴状遺構・出土遺物実測図…113
第 77 図	第 5 号溝出土遺物実測図 (1) ……92	第 95 図	第 2 号竪穴状遺構・出土遺物実測図…114
第 78 図	第 5 号溝出土遺物実測図 (2) ……93	第 96 図	第 1 号道路状遺構土層実測図 ……114
第 79 図	第 5 号溝出土遺物実測図 (3) ……94	第 97 図	第 1 号ピット群実測図 ……115
第 80 図	第 8 号溝出土遺物実測図……………96	第 98 図	遺構外出土遺物実測図 (1) ……117
第 81 図	第 9 号溝出土遺物実測図 (1) ……98	第 99 図	遺構外出土遺物実測図 (2) ……118
		第 100 図	遺構外出土遺物実測図 (3) ……119
		付 図	中根十三塚遺跡遺構全体図

## 表 目 次

表 1	中根十三塚遺跡周辺遺跡一覧表……………7	表 5	中根十三塚遺跡土墳墓・土坑一覧表……………68
表 2	中根十三塚遺跡住居跡一覧表……………28	表 6	中根十三塚遺跡井戸跡一覧表……………87
表 3	中根十三塚遺跡方形竪穴状遺構一覧表……37	表 7	中根十三塚遺跡溝一覧表 ……112
表 4	中根十三塚遺跡火葬墓一覧表……………55	表 8	竪穴状遺構一覧表 ……114

## 写真図版目次

PL 1	中根十三塚遺跡遠景，中根十三塚遺跡調査 区域全景	住居跡完掘状況，第 3 号住居跡完掘状況， 第 4 号住居跡完掘状況，第 4 号住居跡竪穴 完掘状況，第 1 号方形竪穴状遺構	
PL 2	中根十三塚遺跡土墳墓・土坑群，第 5 号火 葬墓遺物出土状況	PL 4	第 3 号方形竪穴状遺構，第 6 号方形竪穴 状遺構，第 10 号方形竪穴状遺構，第 1 号地下 式塚，第 1 号火葬墓遺物出土状況，第 3 号
PL 3	テストピット土層断面，第 1 号住居跡完掘 状況，第 1 号住居跡遺物出土状況，第 2 号		

- 火葬墓, 第6号火葬墓遺物出土状況, 第305号土坑遺物出土状況
- PL 5 第12号土坑遺物出土状況, 第45・50~53号土坑, 第55・59・61・66号土坑, 第121・122号土坑, 第127~129号土坑, 第126・130号土坑, 第132・133号土坑, 第151・252号土坑
- PL 6 第174号土坑, 第175号土坑, 第176・178号土坑, 第210号土坑, 第216号土坑, 第240~242号土坑, 第273・275・276号土坑, 第277~283号土坑
- PL 7 第1号井戸跡遺物出土状況, 第2号井戸跡遺物出土状況, 第3号井戸跡遺物出土状況, 第4号井戸跡, 第6号井戸跡, 第9号井戸跡, 第15号井戸跡遺物出土状況, 第16号井戸跡
- PL 8 第5号溝, 第5号溝遺物出土状況, 第9号溝遺物出土状況, 第20号溝遺物出土状況, 第25号溝, 第26・32号溝, 第27号溝, 第30号溝
- PL 9 第31号溝, 第33・34号溝, 第1号堅穴状遺構, 第2号堅穴状遺構, 第1号石器および石材集中地点出土状況, 旧石器グリット調査状況, 第1号ビット群, 第2号ビット群
- PL 10 第1・3~5号住居跡, 第9号方形堅穴状遺構, 第1号地下式掘, 第79・97・139号土坑出土遺物
- PL 11 第161・201・223・257・305号土坑, 第1・7・8・11・22号井戸跡, 第1・5号溝出土遺物
- PL 12 第5・8・9号溝出土遺物
- PL 13 第9・19・20号溝出土遺物
- PL 14 第20・27号溝出土遺物
- PL 15 遺構外出土遺物
- PL 16 住居跡, 土坑, 井戸跡, 溝, 堅穴状遺構, 遺構外出土遺物
- PL 17 第1号石器および石材集中地点, 第1号住居跡, 第5・20号溝, 遺構外出土遺物
- PL 18 第1号石器及び石材集中地点, 第1・7号井戸跡, 第9・27号溝, 遺構外出土遺物
- PL 19 第5号火葬墓, 第79号土坑, 第8・12号井戸跡, 第5・20号溝, 遺構外出土遺物

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経過

県道下館つくば線は、下館市を起点とし、つくば市とを結ぶ路線で、県西地域と県南地域を結ぶという重要な役割を果たしてきた主要地方道である。県内の産業活動の活性化に伴い、その基盤ともなる交通体系の整備は県勢発展の基本として取り組まれてきた。交通量の緩和と道路網の整備を図るため、明野町中根地区において現在の道路に並行して新たに道路を建設することとなった。

当遺跡のある中根地区についても、平成9年6月6日、茨城県土木部道路建設課（下館土木事務所）から茨城県教育委員会あてに、主要地方道下館つくば線新設改築計画区域となっている真壁郡明野町大字中根字赤町前地内の埋蔵文化財の有無及びその取扱いについて照会した。これに対して茨城県教育委員会は、平成9年9月16日に現地踏査を行った。平成9年12月2日、茨城県教育委員会から茨城県土木部道路建設課（下館土木事務所）あてに、主要地方道下館つくば線改築工事予定地内に「中根十三塚遺跡」が所在する旨回答した。平成10年3月2日茨城県土木部道路建設課（下館土木事務所）から茨城県教育委員会あてに、主要地方道下館つくば線改築工事予定地内に「中根十三塚遺跡」の取扱いについて協議があり、文化財保護の立場から再三協議を重ねた。その結果、現状保存が困難であることから、平成10年3月13日、茨城県教育委員会から茨城県土木部道路建設課（下館土木事務所）あてに、「中根十三塚遺跡」を記録保存とする旨回答し、調査機関として、財団法人茨城県教育財団が紹介された。

## 第2節 調査経過

中根十三塚遺跡の発掘調査を、平成10年10月1日から平成11年3月31日までの半年間にわたって実施した。以下、調査経過について、その概要を記述する。

- 10月 1日発掘調査を開始するため、現場倉庫の設置、調査器材の搬入・補助員募集等の諸準備を行い、事務所を開設し、12日から補助員を投入して表探・試掘を開始した。20日に発掘調査の円滑な推進と安全を祈願して、安全祈願祭を実施した。23日に1区の人力による表土除去及び遺構確認を開始した。
- 11月 1区の人力による表土除去・遺構確認を引き続き行い、中世にともなう土坑・井戸跡・溝等を確認した。4区の一部について人力表土除去を行い、旧石器時代の石器が出土した。11日から2～4区の重機による表土除去と遺構確認を開始し、2区では、多数の土坑・溝・井戸跡等を確認し、3区では、住居跡5軒を確認した。3区にテストピットの掘り込みを行った。
- 12月 8日に、方眼杭打ちを開始した。1区の土坑の掘り込みを行った。土坑84基、溝3条、井戸跡4基までの調査をほぼ終了した。
- 1月 5日から作業を再開し、1月下旬には2区の土坑170基、溝20条、井戸跡7基を調査終了した。2区中央部の溝や井戸跡の遺構上層からは、多数の土師質土器片（内耳鍋、小皿）が出土した。
- 29日に中根十三塚遺跡で確認された「遺構・遺物」について、栃木県立佐野高等学校教諭の斉藤 弘氏を招いて研修を行った。
- 2月 14日に当遺跡の現地説明会を行った。

15日から、2区の第2次調査面の一部に重機でトレンチを入れ、調査を続けた。2月下旬までに、3区の住居跡5軒、土坑10基、溝3条、4区の第1号石器及び石材集中地点の調査を終了した。2区については、土坑（土塚墓）100基、溝10条、井戸跡13基を調査し終了した。

3月 12日には航空写真撮影を実施し、18日から撤収の準備を開始した。19日には遺構調査が終了した。現場事務所では諸帳簿や諸記録の点検、調査区では安全対策を行い、24日には現場事務所を閉鎖した。

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

中根十三塚遺跡は、茨城県真壁郡明野町大字中根字赤町前642番地ほかに所在している。

明野町は、茨城県の西部に位置する。町域は東西約6.5km、南北約10kmで、面積は46.98km<sup>2</sup>である。東は桜川をへだてて、真壁町とつくば市に接し、西は、小貝川を境として関根町と下妻市に接する。南はつくば市と下妻市高道祖に接する。北は下館市、協和町と境する。

明野町の地形は、北は茨城県と福島県境にある八溝山から南に伸びる八溝山地の西端部に位置する筑波山を中心とする筑波山塊に接し、東側を南流して霞ヶ浦に流入する桜川と、西端を緩流して利根川に合流する小貝川の低地、及びそれらに挟まれた、桜川低地・真壁台地からなる。

明野町域は洪積台地と、沖積平野によって地勢が形成され、洪積台地には、畑地帯を中心に平地林が点在し、沖積低地には肥沃な穀倉地帯が帯状にひらけている。

中根十三塚遺跡が立地するのは、真壁台地から桜川低地にかかる中位段丘である。その構成層は、関東ロームをおおっている下に青灰色から灰色を呈する粘土ないし砂質粘土層の茨城粘土層である。その下の下位面を構成しているのが、砂礫層である。これらの地層はいずれもほぼ水平層である。

当遺跡は、桜川にそそぐ観音川の左岸の標高約22~24mの微高地に立地している。この微高地は、東は観音川、西を大川に挟まれ、筑波学園都市北部まで南東方向に細長く舌状に伸びている。両河川の沖積低地は、主に水田に利用されている。調査前の現況は、陸田・畑地・山林である。

#### 参考文献

- ・蜂須紀夫『茨城県 地学ガイド』1986年11月
- ・明野町史編さん委員会『明野町史』1985年7月
- ・茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 真壁』1983年1月

### 第2節 歴史的環境

明野町は、東側に桜川、西側に小貝川が流れ、その両河川にはさまれた東西に長い長方形の町域である。その中で、河川にはさまれた低地や台地を生かした地域に遺跡は分布している。特に、遺跡数では小貝川を望む台地西縁部・桜川から延びる支谷に面した台地縁部部に圧倒的に多く存在している<sup>(1)</sup>。

ここでは、中根十三塚遺跡周辺の主な遺跡について、大きく中世以前と中世の二つに分けて、述べることにする。

#### (1) 中世以前の歴史的環境

明野町には、旧石器時代から生活の痕跡を残している遺跡がある。特に古墳時代から平安時代にかけては遺跡の分布が密である。古墳群や大小の集落跡が点々と確認されている。当遺跡〈1〉の南西側には、旧石器時代を代表する倉持遺跡<sup>(2)</sup>〈3〉がある。生活の痕跡を残すナイフ形石器や尖頭器が出土している。今回調査した当遺跡でも、ナイフ形石器や剥片が出土している。明野町のローム層は、堆積が薄く、出土層位を把握することは困難な状況である。倉持遺跡は、縄文時代中期以降の生活の跡も残している。網漁法の存在を暗示する

石鍾・土器片鍾が出土したり、埋藏遺構が7基確認されている。また、骨粉が検出された土坑も数多く出土している。倉持遺跡の北側には、縄文時代中期から晩期にかけての遺物が多数出土している山王堂遺跡(4)がある。各時期とも遺物が豊富に出土し、当時の繁栄の様子がしのばれる。両遺跡とも、中根十三塚遺跡の西側に隣接している。平成10年度に茨城県教育財団が調査した上白畑遺跡(18)からは、縄文時代中期を中心とした土器片が遺物包含層から多数出土していることが確認されている。

弥生時代から古墳時代になると、さらに遺跡数も多くなり、生活の痕跡もはっきりしてくる。

弥生時代の遺跡は、現在16か所確認されており、このうち住居跡が確認されたのが倉持遺跡1か所である。今回調査した当遺跡の弥生時代住居跡(3軒)から出土した二軒屋式に比定される土器片が、えんのみ古遺跡や宮山遺跡(5)からも出土している。昭和55年から昭和57年にかけて町が実施した遺跡分布調査では、岡山遺跡(11)・宮前遺跡(17)・鶴田石薬山遺跡・堂ノ下遺跡(2)・鷲鳥遺跡・我仁内前遺跡(19)・駒込遺跡(9)などから弥生時代後期の土器片が採集されている。古墳時代の遺跡は、台畑古墳、灯火山古墳、宮山観音古墳(7)などが確認されている。平成2年の灯火山古墳の確認調査では、古墳時代前期の壺形土器が出土している。明野町に隣接する真壁町における古墳及び古墳群は、加波山麓群・筑波山麓群・観音川流域群の3群に分かれている。町域に隣接する筑波山麓群のなかには、大柳古墳(22)や松石古墳群(23)などがある。平成5年度に茨城県教育財団が調査した小山・八幡前遺跡(21)は、大柳古墳と同じ台地上にあり、古墳群が形成されていたことが考えられる。両遺跡からは、古墳時代の堅穴住居跡が27軒検出され、土師器や甕壺等が出土している。

奈良・平安時代の集落は、現在確認されているだけでも103か所ある。小貝川の氾濫もあつたかと考えられるが、この時代の集落は、水田管理に適した場所で、低地に集落を集中して設けている傾向にある。平安時代の町域のことを伝える文献類的なものはないが、平将門にかかわる伝承が多く、平将門の乱の初期の舞台として挙げられ、東石田には平国香の居館があつたと言われている。当時代を代表する遺跡は、天神遺跡(8)・駒込遺跡・船野遺跡(12)などが確認されている。寺院跡には、源法院廃寺(20)があり、鬘斗瓦が多く出土していることが確認されている。

## (2) 中世の歴史的環境

中世は、当遺跡と深い関わりを持つ中心的な時期と考えられる。海老ヶ島、倉持、宮山、山王堂、翁島、宮後、上西郷谷、東石田、押尾などの地名は、中世史料にその初見をもつ中世村落であり、特に15世紀以降の室町・戦国時代期に集中して村落が発展してきている。当遺跡からは、多数の土壌が検出され、この時期に関わりを持つ庶民の大規模な墓域であることが確認された。当遺跡の南側には、赤町遺跡(13)、狭間遺跡(14)、台遺跡(15)、堂前遺跡(16)があり、中世以降の土師質土器がそれぞれの遺跡周辺から少量表面採集されている。また、当遺跡の東側を流れる桜川の右岸には、椎尾城跡(24)などがある。椎尾城跡は、真壁町の真壁城跡に関連する城跡である。12世紀半ば頃の「安楽寺院古文書」によれば、村田荘が常陸国筑波郡内(現明野町周辺域)にあつたと言われているが、不明点が多い。

村田荘内には、現大字吉田に残る村田館・四保城(村田城)と比定される南北朝期の城館跡があり、小山氏の支流の村田氏の居城であつたと考えられる。南北朝時代になると、小田、関、下妻、結城氏などがこの地方を支配し、明野町域もその支配下におかれた。また、室町期には海老ヶ島城(6)が築城されたと考えられ、海老ヶ島城は平坦な地に築城され、東西300m、南北400mの広さで、物見塚や馬場跡、空堀が残存している。城主には結城氏系の海老原氏、その後には小田氏家臣の平塚長信がついたと言われている。また、当遺跡の存在する中根地区では、1564年に上杉氏・佐竹氏らの連合軍と小田氏で合戦が行われたという記録がある。

※ 文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図の該当番号と同じである。

註

- (1) 明野町史編さん委員会『明野町史』1985年7月
- (2) 明野町史編さん委員会『明野町の遺跡と遺物』（『明野町史資料』第7集）1983年2月
- (3) 明野町教育委員会『灯火山古墳 確認調査報告書』1990年12月
- (4) 明野町教育委員会『倉持遺跡』1983年3月

参考文献

- ・茨城県『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』1979年3月
- ・茨城県『茨城県史料 考古資料編 弥生時代』1991年3月
- ・茨城県『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』1991年3月
- ・茨城県『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』1995年3月
- ・茨城県『茨城県史料 中世編』1986年3月
- ・茨城県教育委員会『茨城県遺跡地図』1990年3月
- ・茨城県教育財団「(仮称) 真壁町南椎尾地区住宅団地事業地内埋蔵文化財調査報告書」（『茨城県教育財団文化財調査報告』第99集）1995年3月



第1図 中根十三塚遺跡周辺遺跡分布図



表1 中根十三塚遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代					番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安				中近世以降	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世以降
①	中根十三塚遺跡		○		○	○	○	○	13	赤町遺跡	6165				○	○	○
2	堂ノ下遺跡	2228		○		○			14	狭間遺跡	6170	○			○	○	○
3	倉持遺跡	2229	○	○	○	○	○	○	15	台遺跡	6171				○	○	○
4	山王堂遺跡	2230		○		○	○	○	16	堂前遺跡	6172						
5	宮山遺跡	2232		○	○	○	○	○	17	宮前遺跡	6176			○	○	○	○
6	海老ヶ島城跡	2233						○	18	上白畑遺跡	6229	○	○	○	○	○	○
7	宮山観音古墳	4033				○			19	我仁内前遺跡	6220						○
8	天神遺跡	6128		○		○	○	○	20	源法院廃寺	2304	○	○		○	○	
9	駒込遺跡	6133		○	○	○	○	○	21	小山・八幡前遺跡		○	○	○	○	○	○
10	向台遺跡	6138				○	○	○	22	大柳古墳	2296				○		
11	岡山遺跡	6159		○	○	○	○	○	23	松石古墳群	2297				○		
12	館野遺跡	6164		○		○	○	○	24	椎尾城跡	2309						○



第2図 中根十三塚遺跡調査区設定図

## 第3章 調査の成果

### 第1節 遺跡の概要

中根十三塚遺跡は、町域の東側に流れる桜川、西側に流れる小貝川にはさまれた長方形の微高地の南東側に位置する。当遺跡は、町の南東部側のつくば市寄りの標高約22~24mの台地上に立地している。今回の発掘調査区域は、この台地を南北に弓形状に走る長さ約300mである。中世における大規模な墓域が、調査区域の南側を中心に確認された。調査区は、総面積10,494㎡である。便宜上、調査区を1~4区に分けた。現況は山林及び畑地、陸田である。

今回の調査によって、旧石器時代の遺物、弥生時代の住居跡3軒、古墳時代の住居跡1軒、土坑1基、平安時代の住居跡1軒、中世の方形竪穴状遺構10基、地下式塚1基、火葬墓6基、土壇墓・土坑242基、井戸跡22基、溝38条、時期不明の竪穴状遺構2基、道路状遺構1条、ピット群4か所が検出された。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に60箱出土している。遺物の大部分は中世の土師質土器である。その他の遺物として、管状土錘、土製紡錘車、陶磁器片、石臼、木片、瓦、骨片などが出土している。

### 第2節 基本層序の検討

調査3区内(C2a3区)にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った(第3図)。

第1層は、35~40cmの厚さの耕作土層で、暗褐色をしている。

第2層は、10~15cmの厚さで、褐色をした黒色粒子を含む第1黒色帯である。

第3層は、15~25cmほどの厚さで、明黄褐色をしたATを含む層であると考えられる。

第4層は、10~20cmほどの厚さで、明黄褐色をしたハードローム層である。

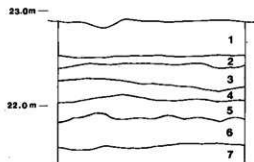
第5層は、15~20cmほどの厚さで、褐色をした黒色粒子を含む第2黒色帯である。

第6層は、30~35cmほどの厚さで、砂を多量含む褐色をした砂質粘土層である。

第7層は、15~20cmほどの厚さで、砂を中量含むにぶい褐色をした砂質粘土層である。

旧石器の遺物は、第2~3層にかけて出土している。

住居跡などの遺構は、第1~2層で確認した。



第3図 基本土層図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 旧石器時代の遺物

当遺跡における旧石器時代の調査は、A1h0を基点とし、東に20m、北に12mの範囲に4×4mのグリッド15か所を設定し調査した。その後、遺物が出土した地点を中心に掘り下げ、調査を進めた。

調査の結果、石器および石材等の遺物が48点出土した。これらの遺物は、ほとんどが1か所から集中して出土しており、調査4区中央部の標高約23mの平坦部に位置する。

#### 第1号石器および石材集中地点（第4図）

位置 調査4区の南西部、A2f1区を中心に出土している。出土遺物の平面分布及び垂直分布については、第4図に示したとおりである。

規模 石器および石材等の集中地点は、南北約12m、東西約18mの不定形の範囲内にある。遺物のまともりは、中央部から西部にかけて認められる。

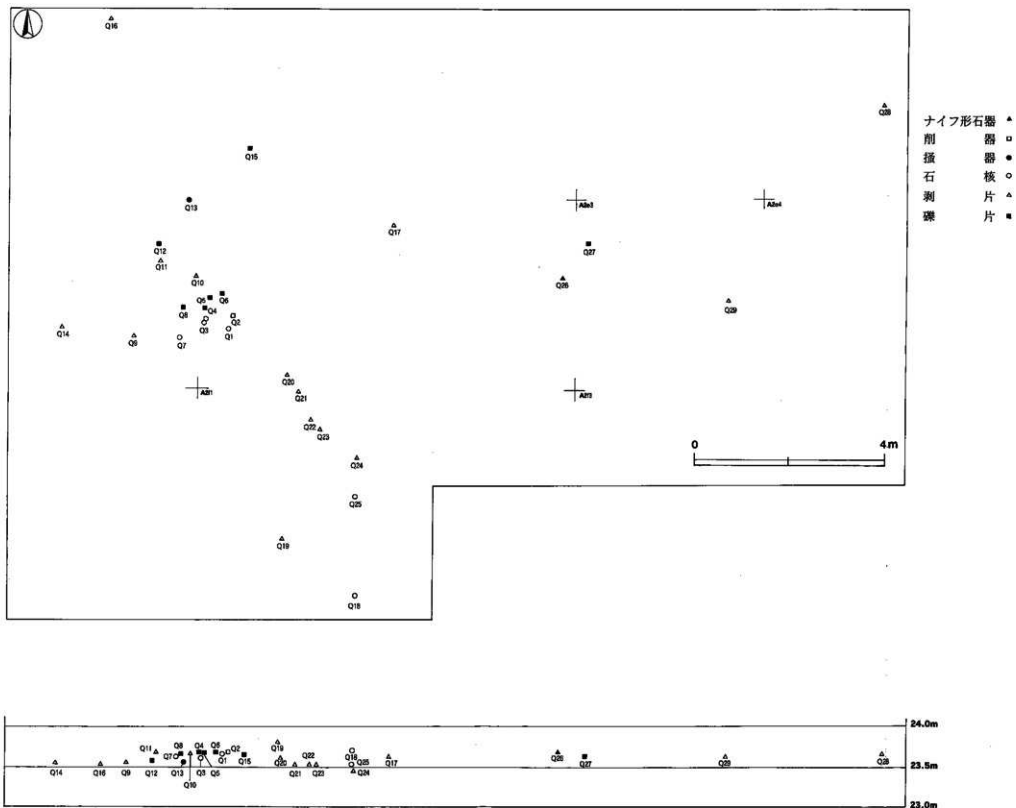
確認土層 確認面から深さ30cm、第2～3層であるAT層の上層及び第1ブラックバンド層の範囲に集中して見られた。

遺物 集中地点からの出土石器等の総数は48点である。内訳はナイフ形石器1点、削器3点、掻器1点、剥18点、石核5点、礫20点で、石質はホルンフェルス2点、ガラス質黒色安山岩14点、安山岩6点、珪質凝灰岩4点、珪質頁岩11点、チャート1点、砂岩6点等である。第5～7図1の石核は、底面が平で山形の打面を持つ自然礫を素材にして横長剥片を剥離している石核である。26のナイフ形石器は、一側刃と鋭利な素材の刃で尖頭部を形成している石器である。

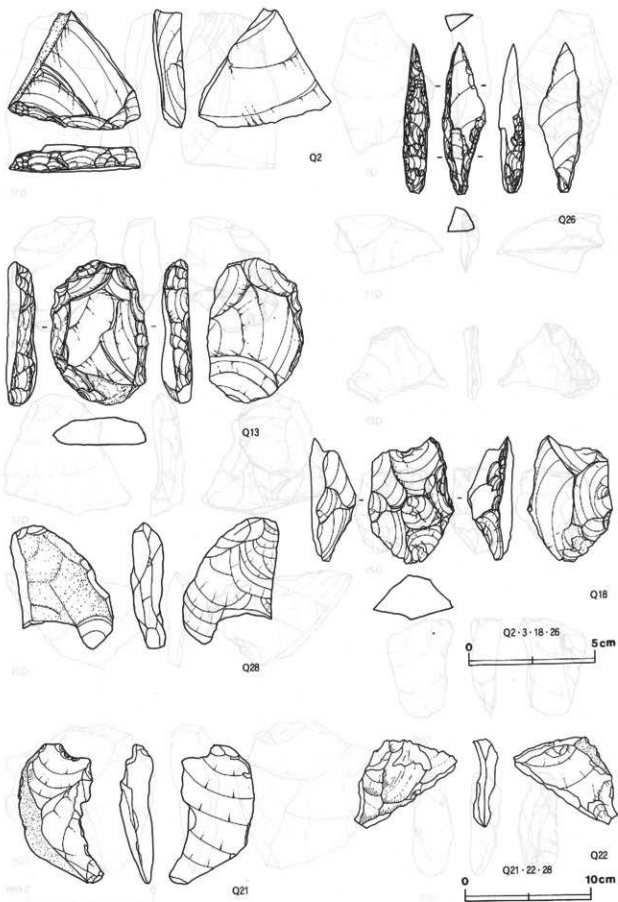
所見 石器及び石材との材質をみると、珪質頁岩・安山岩が主体となっており、旧石器の素材として、当地点にも持ち込まれ使用されたものと考えられる。その性格については不明であるが、剥片などが出土していることから石器製作が行われていた可能性も考えられる。

第1号石器および石材集中地点出土遺物観察表

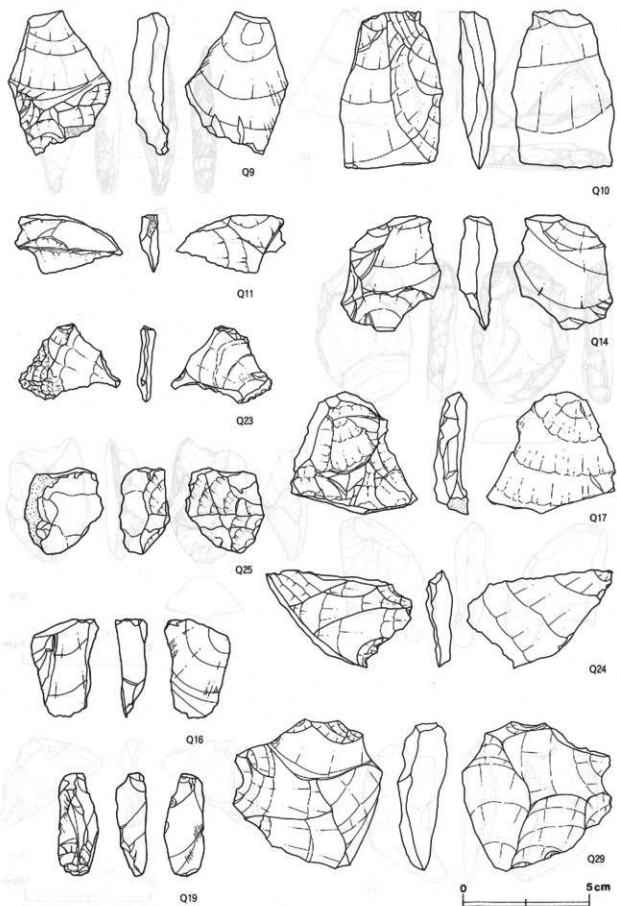
図版番号	種別	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第7図Q 1	石核	10.3	10.2	8.0	794.8	ホルンフェルス	PL17
第5図Q 2	削器	4.7	5.2	1.2	26.3	ガラス質黒色安山岩	PL18
第7図Q 3	石核	15.2	10.2	8.4	1461.2	ホルンフェルス	PL17
Q 4	礫	7.8	4.5	3.3	130.6	安山岩	
Q 5	剥片	5.8	3.8	2.8	51.7	珪質頁岩	
Q 6	礫	4.5	3.8	3.5	91.5	チャート	
Q 7	石核	5.5	4.0	1.4	34.9	珪質頁岩	
Q 8	礫	5.3	5.0	3.4	82.1	安山岩	
第6図Q 9	剥片	5.6	4.0	1.6	22.6	珪質凝灰岩	PL17
Q 10	剥片	6.4	4.0	1.4	35.9	安山岩	
Q 11	剥片	2.3	4.3	0.8	4.8	ガラス質黒色安山岩	
Q 12	礫	8.2	3.8	3.5	90.9	安山岩	



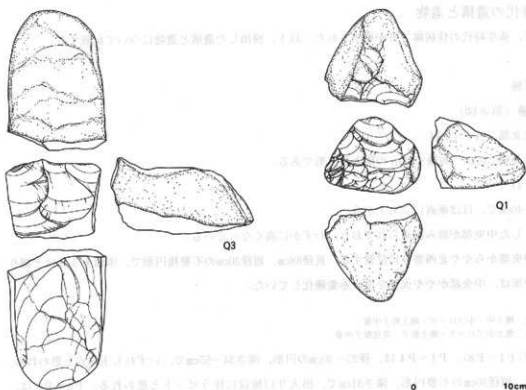
第4図 第1号石器および石材集中地点平面図



第5図 第1号石器および石材集中地点出土遺物実測図(1)



第6図 第1号石器および石材集中地点出土遺物実測図(2)



第7図 第1号石器および石材集中地点出土遺物実測図(3)

図版番号	種別	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第5図Q 13	核	5.7	3.8	1.2	32.4	安山岩	PL18
第6図Q 14	剥片	4.5	3.7	1.4	18.2	珪質頁岩	
Q 15	核	7.0	5.2	4.0	161.4	安山岩	
Q 16	剥片	3.9	2.7	1.3	11.9	珪質頁岩	
Q 17	剥片	4.8	4.8	1.3	24.6	ガラス質黒色安山岩	PL17
第5図Q 18	石核	5.0	3.3	1.8	23.5	珪質頁岩	
第6図Q 19	剥片	4.1	1.6	1.3	6.4	珪質頁岩	PL18
Q 20	剥片	4.5	2.4	1.0	15.3	ガラス質黒色安山岩	
第5図Q 21	剥片	11.9	6.3	2.2	140.0	ガラス質黒色安山岩	PL17
Q 22	剥片	6.8	8.9	2.1	85.0	ガラス質黒色安山岩	PL17
第6図Q 23	剥片	4.0	3.0	0.7	3.5	珪質頁岩	
Q 24	剥片	6.1	3.2	1.1	15.3	ガラス質黒色安山岩	
Q 25	石核	3.5	3.1	2.0	19.8	ガラス質黒色安山岩	
第5図Q 26	ナイフ形石器	5.8	1.7	1.0	6.3	珪質頁岩	PL18
Q 27	核	4.5	3.0	0.8	11.7	砂岩	
Q 28	二次加工の剥片	9.8	8.0	2.7	215.6	砂岩	PL17
第6図Q 29	剥片	6.4	5.8	1.3	46.7	砂岩	



## 2 弥生時代の遺構と遺物

今回の調査で、弥生時代の住居跡3軒が検出された。以下、検出した遺構と遺物について記載する。

### (1) 竪穴住居跡

#### 第1号住居跡(第8図)

位置 調査3区北部, A2j3区。

規模と平面形 長軸5.07m, 短軸3.58mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-41°-W

壁 壁高は30~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 炉を中心とした中央部が踏み固められており、わずかに高くなっている。

炉 1か所。中央部からやや北西寄りに位置する。長径88cm, 短径30cmの不整形円形で、床面を5cmほど掘り込んでいる。炉床は、中央部がやや火熱を受け赤変硬化していた。

#### 炉土層解説

- 1 ぶい赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子中量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量

ピット 8か所(P1~P8)。P1~P4は、径25~30cmの円形、深さ34~55cmで、いずれも主柱穴と思われる。

P5は長径34cm, 短径30cmの不整形円形、深さ31cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P6~P8は、

主柱穴の外側にあり、直径20~22cmの円形、深さ15~20cmで、補助柱穴と思われる。

#### P1土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、砂微量

#### P2土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・砂微量

#### P3土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・砂微量

#### P4土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量、砂微量

#### P5土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・砂少量

貯蔵穴 南側中央部に設置され、平面形は径50cmの不整形円形で、床面を25cmほど掘り込んでいる。底面の断面形は、逆台形で、壁は外傾して立ち上がる。

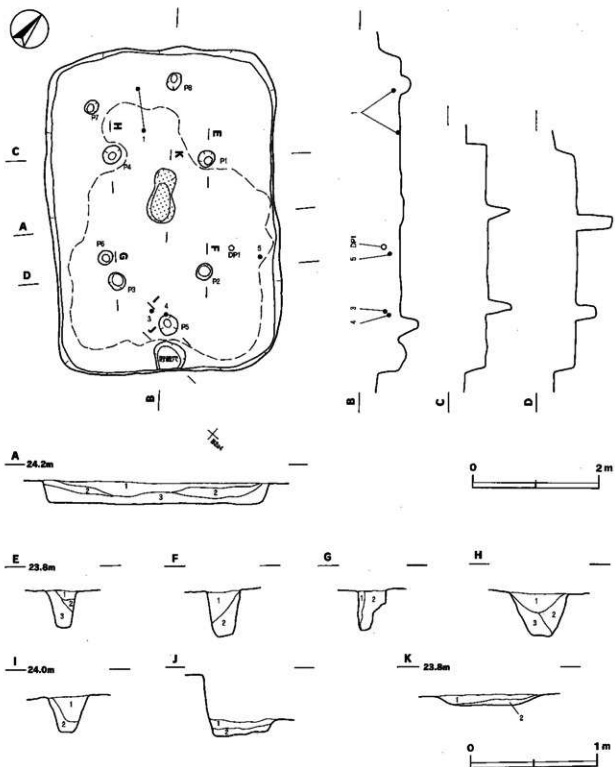
#### 貯蔵穴解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

覆土 3層からなる。上層にはロームブロックを含む褐色土が堆積し、下層にはローム粒子や焼土粒子を含む暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

#### 土層解説

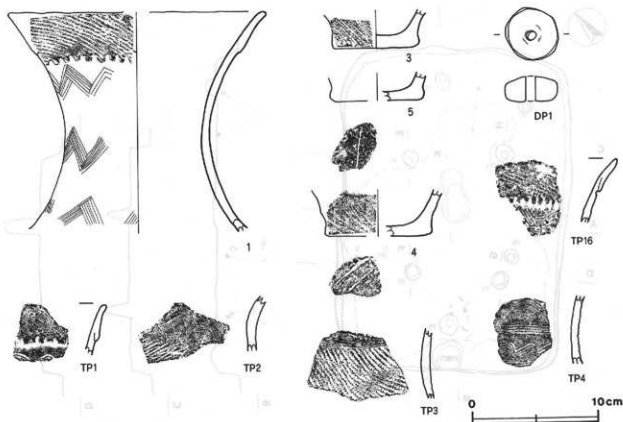
- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・砂少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・砂少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量



第8図 第1号住居跡実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第9回 1	灰口壺 珠生土器	A [20.2] B (17.4)	口縁部から胴部上半にかけての破片。口縁端部には縄文原体による押圧がある。口縁部は2段の複合口縁で、附加条一種（附加2条）の縄文が施され、段の下縁には、棒状工具による押圧がある。胴部には、網杵状工具による山形文が3条施されている。	長石・石英・雲母 10% 灰い橙色 普通	PL10 北西部覆土下層



第9図 第1号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第9図 3	壺 弥生土器	B ( 3.0) C 6.4	底部から胴部にかけての破片。胴部には、附加条一種（附加2条）の縄文が施されている。底部無文。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	5% PL10 南東部覆土中層
4	壺 弥生土器	B ( 3.7) C [ 8.6]	底部から胴部にかけての破片。胴部には、附加条一種（附加2条）の縄文が施されている。底部には木葉痕がある。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	5% PL10 南東部覆土中層
5	壺 弥生土器	B ( 2.2) C [ 7.4]	底部から胴部にかけての破片。胴部は外面摩滅。底部には木葉痕がある。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	5% 東部覆土中層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第9図DP1	土製紡錘車	4.3	0.7	1.1~2.0	2.0	東部覆土中層	100% PL17

遺物 弥生土器片218点，土製品1点，流れ込みによる縄文土器片17点が出土している。主な弥生土器片は東部を中心に出土している。第9図1の広口壺は，北西部の覆土下層から出土している。3の壺の底部片は，南東部の覆土中層から出土している。4の壺の底部片は，底部に木葉痕が施され，南東部の覆土中層から出土している。5の壺の底部片は，底部に木葉痕が施され，東部壁側の覆土中層から出土している。TP1とTP16の壺の口縁部片は，南東部の覆土中層から出土している。TP2の壺の頸部片は，南東部の覆土上層から出土している。TP3の壺の頸部から胴部片は，北東壁際の覆土下層から，TP4の壺の頸部片は，櫛歯状工具による波状文が施され，南東部の覆土上層から，それぞれ出土している。DP1の土製紡錘車は，東部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や広口壺片類の特徴から弥生時代後期前半と考えられる。

第2号住居跡(第10図)

位置 調査3区北部, B2a4区。

規模と平面形 長軸3.22m, 短軸2.28mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-88°-W

壁 壁高は4~12cmで, 緩やかに立ち上がる。

床 中央部がよく踏み固められている。

ピット 2か所(P1・P2)。P1・P2は, 径20cmほどの円形, 深さ35cmで, 床面中央部に2か所の柱穴が検出された。性格は不明である。

P1土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・砂微量

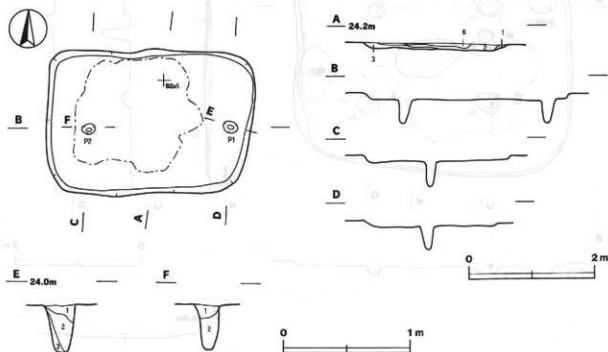
P2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

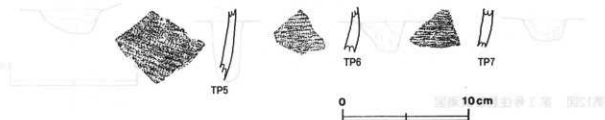
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量



第10図 第2号住居跡実測図



第11図 第2号住居跡出土遺物実測図

遺物 弥生土器細片 8点が出土している。第11図 TP5 の壺の胴部片が北部の覆土下層から出土している。TP6 と TP7 の壺の胴部片は、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期を決定する資料が少なく、限定することは困難であるが、出土遺物の特徴から弥生時代後期と思われる。

### 第3号住居跡 (第12図)

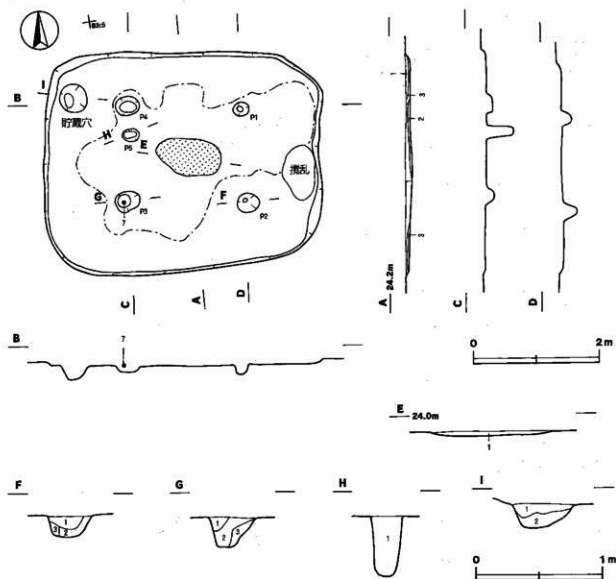
位置 調査3区北部, B2c5区。

規模と平面形 長軸4.35m, 短軸3.47mの隅丸方形である。

主軸方向 N-78°-W

壁 壁高は4~11cmで、緩やかに立ち上がる。

床 炉を中心とした中央部と支柱穴付近が踏み固められており、わずかに高くなっている。



第12図 第3号住居跡実測図

炉 中央部にあり、平面形は長径105cm、短径58cmの楕円形で、床面を5cmほど掘り込んでいる。炉床は、火熱を受け、赤変酸化していた。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量

ピット 5か所（P1～P5）。P1は、径24cmほどの円形、深さ16cm、P2～P4は、長径34～38cm、短径30～32cmの楕円形で、いずれも支柱穴と思われる。P5は長径25cm、短径18cmの楕円形、深さ31cmで、補助柱穴と思われる。

P2土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子・砂少量、炭化粒子微量  
3 褐色 ローム粒子・砂少量

P3土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量  
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量  
3 褐色 ローム粒子中量、砂少量

P5土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

貯蔵穴 北西コーナー部に設置され、平面形は長径45cm、短径42cmの円形で、床面を36cmほど掘り込んでいる。底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子、炭化粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

覆土 3層からなる。覆土が浅く、正確に堆積状況をつかめないが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量  
2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量  
3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量



第13図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第13図 7	壺 弥生土器	B (2.4) C [ 6.0]	底部から胴部にかけての破片。胴部には、附加糸一種（附加2条）の縄文が施されている。底部には木葉痕がある。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	5% PL10 南西部覆土上層
8	壺 弥生土器	B (2.4) C [ 7.6]	底部から胴部にかけての破片。胴部には、附加糸一種（附加2条）の縄文が施されている。底部には木葉痕がある。	長石・石英・雲母 スクリア にぶい褐色 普通	5% PL10 覆土中

遺物 弥生土器片36点、礫石1点が出土している。第13図7・8、TP8～10の弥生土器片が南西部を中心に出土している。7の壺の底部片は、南西部の覆土上層から出土している。8の壺の底部片は、覆土中から出土している。TP8の壺の胴部片は、西部の覆土上層から出土している。TP9とTP10の壺の胴部片は、覆土中から出土している。

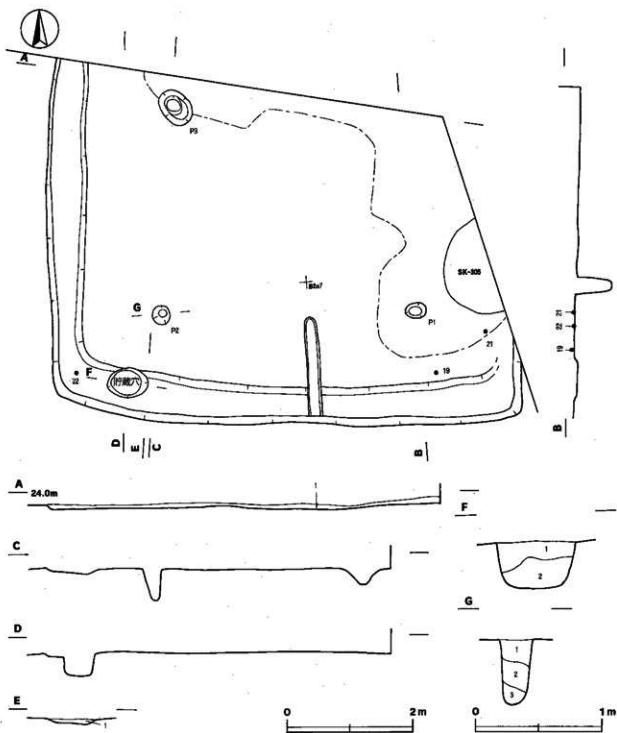
所見 本跡の時期を決定する資料が少なく、限定することは困難であるが遺構の形態や出土遺物の特徴から弥生時代後期と思われる。

### 3 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で、古墳時代の遺構としては、住居跡1軒と土坑1基が検出された。以下、検出した遺構と遺物について記載する。

#### (1) 竪穴住居跡

#### 第5号住居跡（第14図）



第14図 第5号住居跡実測図

位置 調査3区北東コーナー部、A2j6区。

規模と平面形 北東部が調査区域外にかかり、正確な規模と平面形は不明であるが、長軸7.44m、短軸(5.35)mの方形であると推定される。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は8~18cmで、わずかに外傾して立ち上がる。

床 中央部周辺が踏み固められており、わずかに高くなっている。壁から10~15cm内側に、幅50~60cmの溝状の掘り方が廻っている。溝状掘り方内は、ローム粒子、焼土粒子を少量含み、全体的にしまりがある。また、壁下から中央部に向かって延びる溝1条を検出した。上幅20~25cm、下幅14~18cm、深さ8~10cmである。

溝状掘り方土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

ピット 3か所(P1~P3)。P1は、長径35cm、短径25cmほどの楕円形、深さ54cm、P2は、径25cmほどの円形、深さ50cm、P3は、長径63cm、短径43cmほどの楕円形、深さ25cmで、いずれも主柱穴と思われる。

P2土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

2 褐色 ローム粒子微量

3 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・砂微量

貯蔵穴 南西コーナーに設置され、平面形は長径65cm、短径50cmほどの楕円形で、床面を34cmほど掘り込んでいます。底面は逆台形で、壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

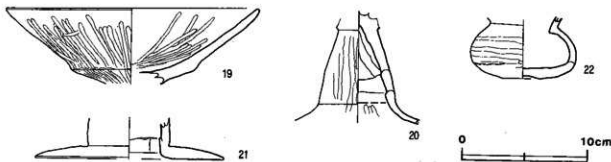
1 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、砂微量

2 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・砂微量

覆土 攪乱がひどく、1層のみの確認である。ロームブロックや炭化粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中・小ブロック・炭化粒子・砂微量



第15図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第15図 19	高坏土師器	A 20-1 B (5.0)	坏部の破片。坏部は内摩して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に襷を有する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英・雲母にぶい橙褐色 普通	50% PL10 南東部覆土下層
20	高坏土師器	B (8.7)	頸部から脚部にかけての破片。脚部から頸部にかけてラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ磨き。脚部内面ヘラナデ。襷模み痕有り。	長石・石英にぶい赤褐色 普通	20% PL10 覆土中
21	高坏土師器	B (3.2) D [14.8]	脚部破片。脚部は頸部にかけてラッパ状に開くと思われる。	脚部内面ヘラナデ。襷模み痕有り。	長石・石英・雲母にぶい黄褐色 普通	10% 南東コーナー覆土 中層



図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 22	埴 土器	B (4.7) C 2.4	底面から口縁部にかけての破片。 平底。体部は扁平な球状を呈し、 最大径を中位に持つ。	体部外面へラ磨き、内面へラナデ。 輪履み痕有り。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	80% PL10 南西コーナー覆土 下層

遺物 土師器片23点、礫2点が出土している。第15図19の土師器高坏の坏部は、南東部の覆土下層から正位で出土している。20の土師器高坏脚部片は、覆土中から出土している。21の土師器高坏の脚部片は、南東コーナー部の覆土下層から出土している。22の土師器埴は、南西コーナー部の覆土下層から正位で出土している。

所見 本跡の時期は、コーナー部の覆土下層から出土している高坏や埴の特徴などから古墳時代中期中葉と考えられる。

## (2) 土 坑

### 第305号土坑 (第16図)

位置 調査3区北東部、B2a7区。

重複関係 本跡が第5号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模と平面形 確認できたのは長径1.48m、短径(0.76)mで、楕円形と思われる。

長径方向 N-13°-W

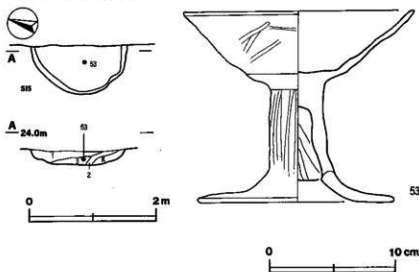
壁面 壁高は15~20cmで、わずかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層からなる。ロームブロックや炭化粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中・小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量



第16図 第305号土坑・出土遺物実測図

遺物 土師器片16点、礫2点、流れ込みによる縄文土器片2点、弥生土器片2点が出土している。第16図53の土師器高坏は、中央部覆土中層から横位の状態で出土している。

所見 本跡の時期を決定する資料が少なく、限定することは困難であるが、高坏の特徴から古墳時代中期と考えられる。

第305号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第16図 53	高 杯 土 師 器	A 18.4 B 15.0 D 15.2 E 6.6	底部一部欠損。脚柱部はエンクシス状を呈し、裾部はなだらかに開く。杯部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。杯部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面摩滅。杯部外面斜位のヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラ磨き。輪積み痕有り。	長石・石英・雲母 橙色 普通	80% PL11 中央部覆土中層

4 平安時代の遺構と遺物

今回の調査で、平安時代の遺構としては、住居跡1軒が検出された。以下、検出した遺構と遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第4号住居跡(第17図)

位置 調査3区中央部, C2 a3区。

規模と平面形 長軸5.12m, 短軸4.84mの方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は40~45cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 棚状部を除いて、巡っている。上幅15~25cm, 下幅4~11cm, 深さ4~8cmで、断面形はU字形である。

床 竈南側の中央部周辺が踏み固められており、わずかに高くなっている。

住居内土坑 住居内土坑1は北側中央部に掘り込まれており、長径98cm, 短径86cmの楕円形, 深さ48cmで、断面形は浅いU字形をしている。灰や焼土を溜めておく施設と考えられる。

住居内土坑1土層解説

- 1 褐色 焼土粒子少量, ローム中・小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子・灰少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・灰少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量, 灰少量

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ140cm, 袖幅140cm, 壁外への掘り込みは30cmで、平面形は逆U字形である。上部は攪乱を受けており、両袖部の遺存状態は悪いが、一部に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は長径50cm, 短径36cmの楕円形で、浅く掘りくぼめられている。煙道部は、火床部奥から約20度の角度で立ち上がる。

竈の両側に長軸4.94m, 短軸0.69mで、深さ4cmの棚状施設が袖に付くようにある。ロームを掘り込んで構築され、底面は一部硬化している。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 5 にぶい赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量

ピット P1は、南壁から約30cm内側に位置し、竈と同一線上に並んでいる。径35cmほどの円形, 深さ25cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

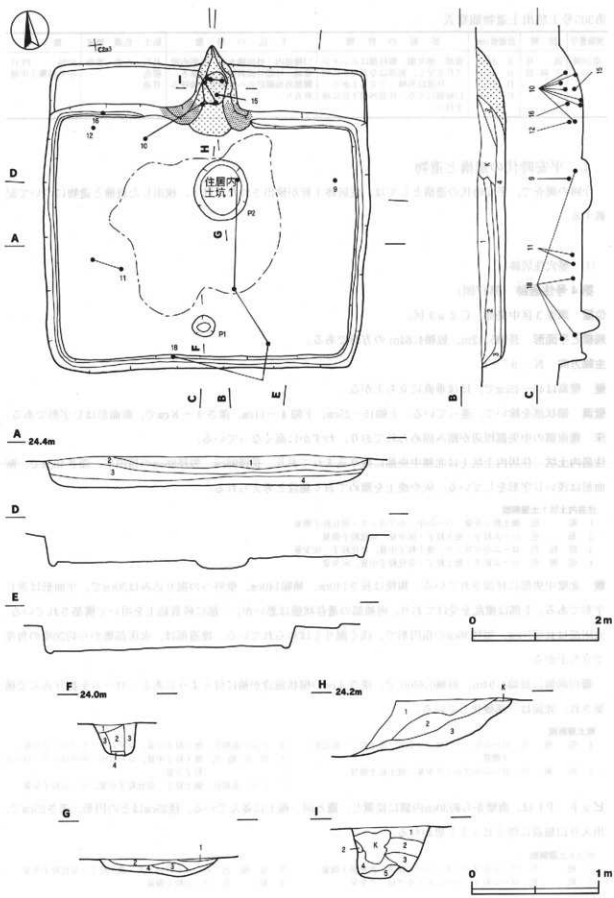
ピット土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム中・小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子微量

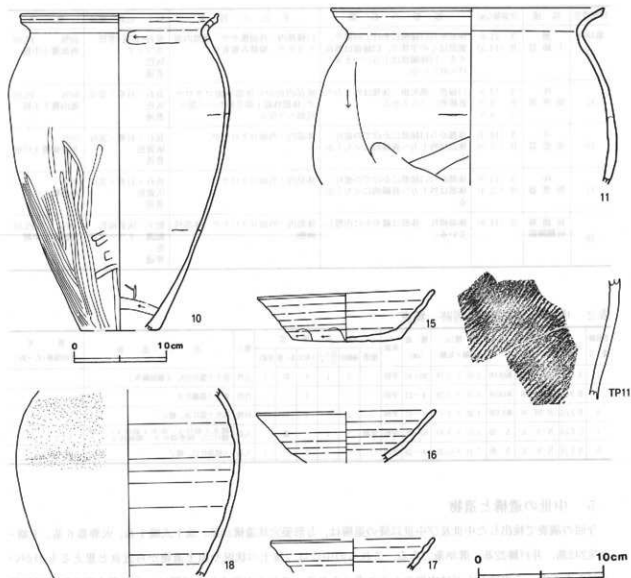
覆土 4層からなる。ロームブロックや炭化粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量



第17图 第4号住居跡実測图



第18図 第4号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片57点, 須恵器片8点, 陶器片1点が出土している。第18図10の土師器甕は, 甕内の覆土中層から出土している。11の土師器甕は, 西部の覆土中層から出土している。15の須恵器器環は, 甕内中央部覆土下層から逆位で出土している。16の須恵器器環は, 北西部の壁溝覆土中層から出土している。17の須恵器器環は, 南部の覆土中から出土している。18の灰軸陶器長頸瓶の体部片は, 南部から中央部にかけての覆土中層から出土している。TP11の須恵器甕体部片は, 中央部の覆土上層から出土し, 外面に斜位の平行叩きが施されている。所見 本跡は, 甕の両側にいわゆる「棚状施設」を有している。本跡の時期は, 甕内覆土中から10の土師器の甕や15の須恵器の環が出土していることなどから, 8世紀末から9世紀初頭と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 10	甕 土師器	A 20.4 B 33.5 C [ 8.2]	体部から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状で, 口縁部は外反する。口縁端部は上方につまり上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。輪痕み痕有り。	石英・雲母に多い黄褐色 普通	50% PL10 甕左縁部覆土中層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 11	甕 土 器	A 21.8 B (14.5)	体部から口縁部にかけての破片。 頸部はくの字状で、口縁部は反折する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。輪模み痕有り。	長石・石英・雲母・スコリア 灰色 普通	10% PL10 西部覆土中層
15	坏 須 器	A 13.9 B 4.0 C 8.5	口縁部一部欠損。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	底部内面から体部外面口ロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	90% PL10 東内覆土下層
16	坏 須 器	A [14.0] B (4.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	20% PL10 北西側覆土中層
17	坏 須 器	A [13.0] B (2.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外上方へ直線的に立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	40% PL10 西部覆土中
18	長瀬原 灰粘陶器	B (14.8)	体部破片。体部は緩やかに内彎している。	体部内・外面口ロナデ。体部外面輪。	胎土 灰黄色 釉面 オリーブ黄色 普通	5% PL10 南部覆土中層

表2 中根十三塚遺跡住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主(長)軸 方 向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁 高 (cm)	基底 形状	内 部 設 置						備 考		
							土	柱	礎	礎	礎	礎		礎	礎
1	A 2 j9	N-41°-W	長軸形	5.07 × 3.58	30~40	平掘	-	3	1	4	伊	1	自然	体土上層片23, 土製縄文土器1	
2	B 2 a4	N-80°-W	長軸形	3.22 × 2.26	4~12	平掘	-	-	-	2	-	-	自然	体土上層片3	
3	B 2 c5	N-76°-W	長軸形	4.35 × 2.47	4~11	平掘	-	1	-	4	伊	1	自然	体土上層片36, 磨石1	
4	C 2 a2	N-9°-E	方 形	5.12 × 4.84	40~45	平掘	全周	-	1	-	礎	-	人為	礎土上層片4, 体土上層片4, 土製縄文土器片57, 灰部包片6, 陶器片1	
5	A 2 j8	N-9°-E	方 形	7.44 × (5.35)	8~15	平掘	-	-	-	3	-	1	人為	土製器片23, 漆2	本跡-SK305

## 5 中世の遺構と遺物

今回の調査で検出した中世及び中世以降の遺構は、方形竪穴状遺構10基、地下式竪1基、火葬墓6基、土壊・土坑242基、井戸跡22基、溝38条である。これらの中には、覆土の状況や出土遺物から近世と思えるものもいくつかあるが、そのほとんどは中世のものと考えられる。これらが営まれた時期は、土師質土器や陶磁器類等の出土遺物から、15~16世紀が中心であるとされる。土壊墓や井戸跡等は、1区北部から2区中央部にかけて密集し、それらは溝によって区画されている。以下、検出した遺構と遺物について記載する。

### (1) 方形竪穴状遺構

#### 第1号方形竪穴状遺構 (第19図)

位置 調査2区中央部, F1 j9区。

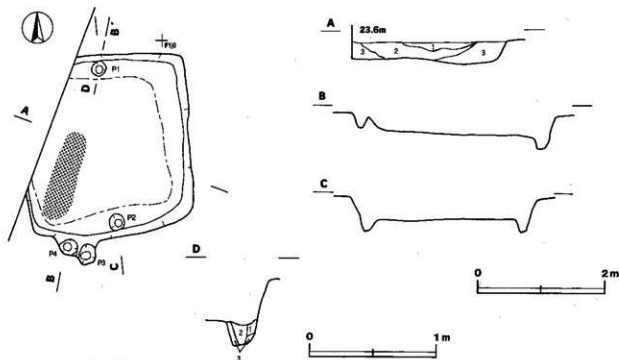
規模と平面形 西側の一部が調査区域外のため規模や平面形は明らかではないが、確認できたのは長軸2.92m、短軸2.60mで長方形と推定される。

長軸方向 [N-6°-W]

出入り口 南壁側西部に「U」字状の張り出し部を持ち、配置から出入り口施設と考えられる。

壁 壁高は22~32cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 中央部が踏み固められており、わずかに高くなっている。



第19図 第1号方形竪穴状遺構実測図

ピット 4か所(P1～P4)。P1・P2は、径24～27cmほどの円形、深さ20cmで、いずれも主柱穴と思われる。P3は長径30cm、短径26cmの楕円形で、P4は長径30cm、短径25cmの楕円形で、それぞれの深さは20～24cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

**P1 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

覆土 3層からなる。ロームブロックや炭化粒子を含む暗褐色土が堆積していることから、人為堆積と思われる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム大・中・小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム大・中・小ブロック微量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、ローム中・小ブロック・ローム粒子微量

遺物 覆土中から土師質土器細片が少量出土している。覆土下層で、炭化物が存在した。

所見 本跡は、出土した遺物も細片のため時期を確定するのは困難であるが、遺構の形態等から中世の方形竪穴状遺構と考えられる。

**第2号方形竪穴状遺構 (第20図)**

位置 調査2区中央部、G2d2区。

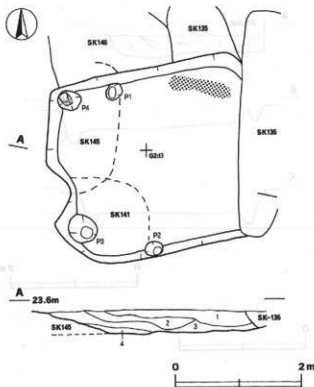
重複関係 本跡が、第135・146号土坑を掘り込み、第136号土坑に掘り込まれていることから、第135・146号土坑より新しく、第136号土坑より古い。第141・145号土坑とも重複しているが、新旧は不明である。

規模と平面形 長軸(3.08)m、短軸2.94mの長方形である。

長軸方向 N-7°-W

壁 壁高は20～22cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、全体的に踏み固められている。北側床面直上に木片と考えられる炭化物が存在していた。



第20図 第2号方形竪穴状遺構実測図

第3号方形竪穴状遺構 (第21・22図)

位置 調査2区中央部西側, G1b0区。

重複関係 本跡が, 第6号方形竪穴状遺構を掘り込み, 第6号井戸に掘り込まれていることから, 第6号方形竪穴状遺構より新しく, 第6号井戸より古い。

規模と平面形 長軸2.45m, 短軸1.60mの長方形である。

長軸方向 N-10°-W

壁 壁高は21cmほどで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 硬くしまっている。

ピット 2か所(P1・P2)。P1・P2は, 長径25cm, 短径20cmの楕円形で, 深さが32cmの主柱穴と思われる。

P1土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

覆土 他の遺構と複雑に重複していたため, 確認できなかった。

遺物 覆土中から土師質土器細片が出土している。

所見 時期を推定する遺物は出土していないが, 遺構の形態等から中世の方形竪穴状遺構と考えられる。

第4号方形竪穴状遺構 (第21・22図)

位置 調査2区中央部西側, G1c0区。

重複関係 本跡が, 第24号溝を掘り込んでいるので, 第24号溝より新しい。第154号土坑とも重複しているが, 新旧は不明である。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P4は, 長径13~25cm, 短径11~21cmの楕円形で, それぞれの深さが16~30cmである。P4の下層からは, 礎石と考えられる安山岩が出土した。柱穴と考えられるものもあるが, 性格は不明である。

覆土 4層からなる。各層ともロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック微量
- 3 褐色 炭化物中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 覆土中から土師質土器細片が出土している。

所見 本跡は, 出土した遺物も細片のため時期を確定するのは困難であるが, 遺構の形態等から中世の方形竪穴状遺構と考えられる。

規模と平面形 長軸2.45m, 短軸2.33mの方形である。

長軸方向 N-80°-E

壁 壁高は24~34cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 4か所(P1~P4)。P1・P2は、長径41~52cm, 短径33~41cmの楕円形、深さ45~52cmで、いずれも主柱穴と思わる。P3は長径47cm, 短径37cmの楕円形、深さ27cm, P4は長径25cm, 短径18cmの楕円形、深さが25cmである。両方とも性格不明である。

**P1 土層解説**

- 1 板 暗 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 褐 色 ローム粒子少量

**P2 土層解説**

- 1 板 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

**P3 土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 板 暗 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

**P4 土層解説**

- 1 褐 色 ローム小ブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量

覆土 4層からなる。ロームブロックや炭化粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

**土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム中・小ブロック・炭化粒子少量
- 3 褐 色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム小ブロック少量

遺物 覆土中から土師質土器細片が出土している。

所見 時期を推定する遺物は出土していないが、遺構の形態等から中世の方形竪穴状遺構と考えられる。

**第5号方形竪穴状遺構 (第21・22図)**

位置 調査2区中央部西側, G1b9区。

重複関係 本跡は、第166号土坑に掘り込まれているので、第166号土坑より古い。第177号土坑とも重複するが、新旧関係については不明である。

規模と平面形 西側の一部が調査区域外のため規模や平面形は明らかではないが、長軸 [3.00]m, 短軸2.61mの方形と推定される。

長軸方向 N-70°-E

壁 壁高は24~35cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部の一部が踏み固められている。

ピット 確認できなかった。

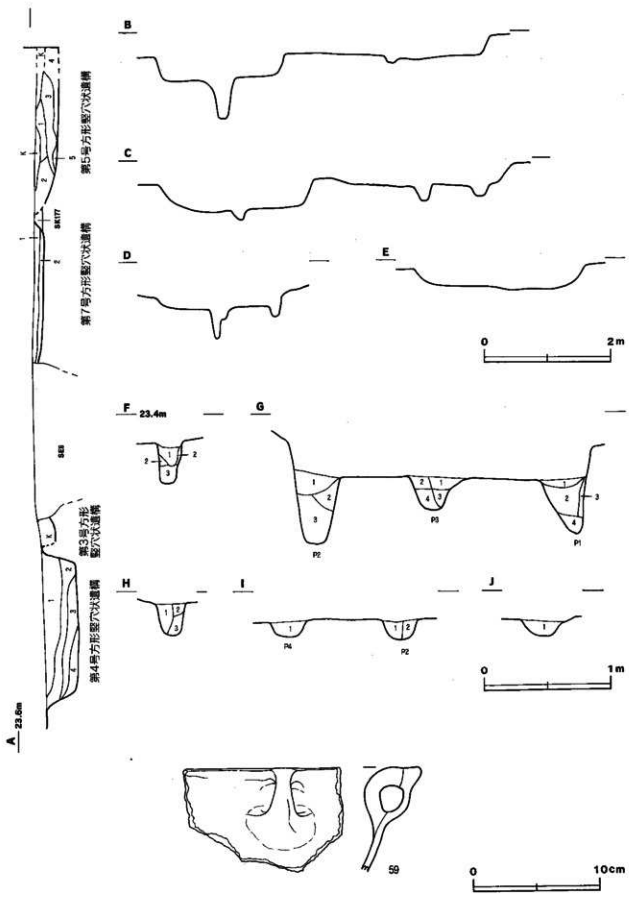
覆土 5層からなる。各層ともロームブロックを含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

**土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム大ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム大ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム大・中・小ブロック中量, ローム粒子少量
- 5 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量







第22图 第3~7号方形竖穴状遗构·出土物实测图(2)

遺物 覆土中から内耳鍋や陶器片が出土している。第22図59の土師質土器の内耳鍋は、東側の覆土中から出土している。

所見 本跡は、出土した遺物も少なく時期を確定するのは困難であるが、出土遺物や遺構の形態から中世の方形堅穴状遺構と考えられる。

第5号方形堅穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 59	内耳鍋 土師質土器	B 8.3	体形から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内はやや薄く、 口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・礫 にふい褐色 普通	5% 外室露付着 覆土中

### 第6号方形堅穴状遺構 (第21・22図)

位置 調査2区中央部西側，G1b0区。

重複関係 本跡は、第154号土坑と第3号方形堅穴状遺構に掘り込まれているので、第154号土坑と第3号方形堅穴状遺構より古い。

規模と平面形 長軸2.90m，短軸2.82mの方形である。

長軸方向 N-85°-E

壁 壁高は8~24cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部の一部が踏み固められている。

ピット 8か所(P1~P8)。P1・P5・P6・P8は、長径25~36cm，短径21~29cmの楕円形，深さ24~29cmで、いずれも壁際にある。P7は、長径40cm，短径19cmの楕円形，深さ15cmで、覆土中に礎石と思われる安山岩があり、柱穴の可能性があると思われる。P2~P4は、長径30~31cm，短径20~27cmの楕円形，深さ19~22cmである。いずれも性格不明である。

#### P2土層解説

1 褐色褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子少量

#### P4土層解説

1 褐色 ローム中・小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

#### P7土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

覆土 他の遺構と複雑に重複していたために、確認できなかった。

遺物 覆土中から土師質土器細片が出土している。

所見 時期を推定する遺物は出土していないが、遺構の形態から中世の方形堅穴状遺構と考えられる。

### 第7号方形堅穴状遺構 (第21・22図)

位置 調査2区中央部西側，G1c9区。

重複関係 本跡は、第6号井戸と第166号土坑に掘り込まれているので、第6号井戸と第166号土坑より古い。

規模と平面形 長軸2.82m，短軸2.70mの方形である。

長軸方向 N-0°

壁 壁高は4~12cmで、緩やかに立ち上がる。

床 平坦で、中央部の一部が踏み固められている。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は、径27cmの円形、深さ62cm、P2は、径30cmの円形、深さ20cmで、いずれも支柱穴と思われる。

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 覆土中から土師質土器細片が少量出土している。

所見 本跡は、出土した遺物も細片のため時期を確定するのは困難であるが、遺構の形態から中世の方形竪穴状遺構と考えられる。

第8号方形竪穴状遺構 (第23図)

位置 調査2区中央部西側、G1a0区。

重複関係 本跡は、第15号井戸に掘り込まれているので、第15号井戸より古い。

規模と平面形 長軸2.84m、短軸2.60mの方形である。

長軸方向 N-80°-E

壁 壁高は25~30cmで、緩やかに立ち上がる。

床 平坦である。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P5は、長径30~48cm、短径27~33cmの楕円形、深さ32~42cmであり、いずれも壁際にある。柱穴と考えられるものもあるが、その性格は不明である。

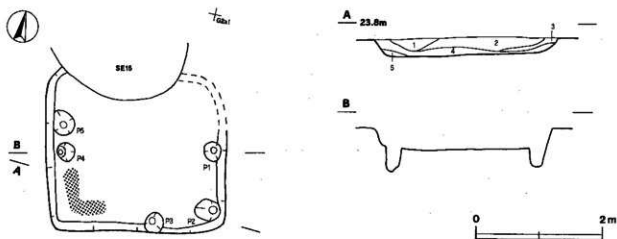
覆土 5層からなる。ロームブロックを含んでいる層が多いことから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小・中ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 覆土下層で炭化物が存在した。

所見 時期を推定する遺物は出土していないが、遺構の形態から中世の方形竪穴状遺構と考えられる。



第23図 第8号方形竪穴状遺構実測図

第9号方形竪穴状遺構 (第24図)

位置 調査2区中央部西側, G2a2区。

重複関係 本跡は, 第237・245B・266号土坑, 第20号井戸に掘り込まれているので, 第237・245B・266号土坑, 第20号井戸より古い。

規模と平面形 長軸(3.10)m, 短軸(2.62)mの長方形と推定される。

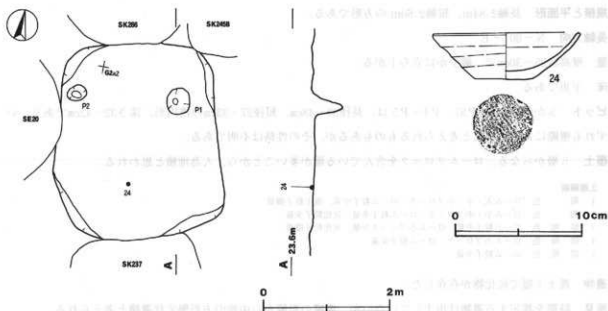
長軸方向 [N-20°-W]

壁 壁高は4~24cmで, 緩やかに立ち上がる。

床 平坦である。

ピット 2か所(P1・P2)。P1・P2は, 長径35~40cm, 短径23~35cmの楕円形, 深さ45~49cmで, いずれも性格不明のピットである。

覆土 他の遺構と複雑に重複していたために, 確認できなかった。



第24図 第9号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図

遺物 覆土中から土師質土器細片や土師質土器の小皿が出土している。第24図24の土師質土器の小皿は, 南部中央の床面から正位で出土している。

所見 本跡は, 出土遺物も少なく時期を確定するのは困難であるが, 出土遺物や遺構の形態から中世の方形竪穴状遺構と考えられる。

第9号方形竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第24図 24	小皿 土師質土器	A 11.6 B 3.5 C 4.6	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり, 中段に強い縞を持つ。	体部内・外面クロナア。底部同。転系切り。底部内面ナア。	雲母・スコリア・小礫 淡褐色 普通	70% PL10 南側中央床面 16世紀前半

### 第10号方形竪穴状遺構 (第25図)

位置 調査2区中央部, G2e2区。

重複関係 本跡が, 第127号土坑を掘り込んでいるので, 第127号土坑より新しい。

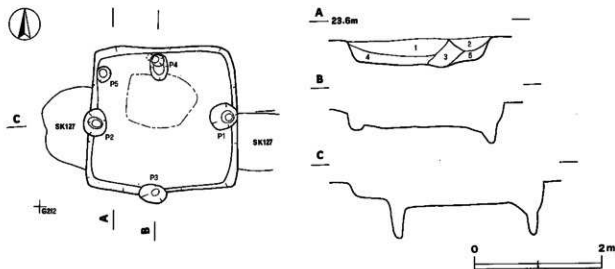
規模と平面形 長軸2.38m, 短軸2.28mの方形である。

長軸方向 N-90°-E

壁 壁高は30~36cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 北側中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1・P2は, 長径40~41cm, 短径34~41cmの楕円形, 深さ51cmで, いずれも主柱穴と思われる。P3~P5は, 長径25~42cm, 短径20~30cmの楕円形, 深さ13~31cmで, 性格不明のピットである。



第25図 第10号方形竪穴状遺構実測図

覆土 5層からなる。各層ともロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム小・中ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 覆土中から土師質土器細片が出土している。

所見 本跡は, 出土した遺物も少なく時期を確定するのは困難であるが, 遺構の形態から中世の方形竪穴状遺構と考えられる。

表3 中根十三塚遺跡方形竪穴状遺構一覧表

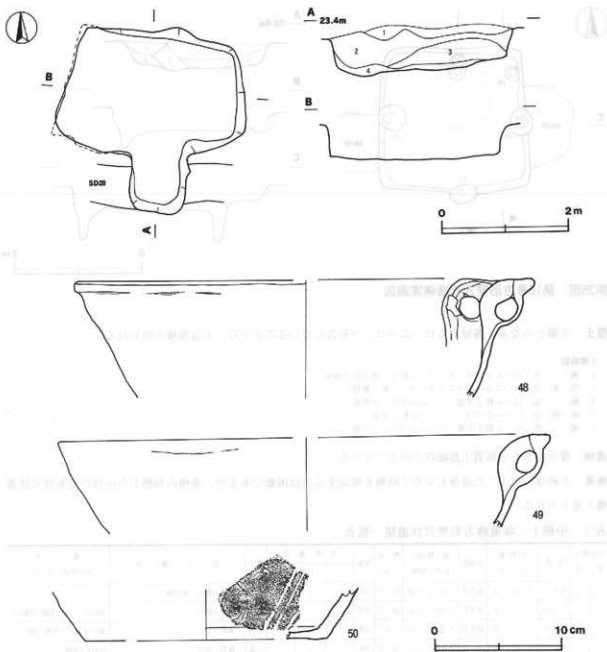
方形竪穴 番号	位置	主(長)軸 方 向	平面形	規 模(m) (長軸×短軸)	壁 高 (cm)	床面	内 部 構 造			覆土	用 土 遺 物	備 考 新旧関係(古-新)
							ピット	主柱穴	入 口			
1	F1j9	N-6°-W	長方形	2.92 × 2.60	22~32	平坦	-	2	2	人為	土師質土器片, 炭化物	
2	G2d2	N-7°-W	長方形	3.083 × 2.94	20~22	平坦	4	-	-	人為	土師質土器片	SK125・146→本跡→SK126
3	G1b0	N-10°-W	長方形	2.45 × 1.60	21	平坦	-	2	-	不明	土師質土器片	第6号方跡→本跡→SK6
4	G1c0	N-80°-E	方 形	2.45 × 2.33	24~34	平坦	2	2	-	人為	土師質土器片	SK24→本跡

方形竈穴 番号	位置	主(長)軸 方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	高さ (cm)	床面	内部施設 ピット 主柱穴 入口	積土	出土遺物	備考 新前期(古→新)
5	G 1 b9	N-70°-E	方形	3.00×2.61	24~35	平相	- - -	人為	土師質土器片, 陶器片	本跡→SK166
6	G 1 b0	N-85°-E	方形	2.90×2.82	8~24	平相	3 5 -	不明	土師質土器片	本跡→第3号方形, SK154
7	G 1 c9	N-0°	方形	2.82×2.70	4~12	平相	- 2 -	自然	土師質土器片	本跡→SK166, SE 6
8	G 1 a0	N-80°-E	方形	2.84×2.60	25~30	平相	5 - -	人為	土師質土器片, 炭化物	本跡→SE15
9	G 2 a2	[N-30°-W]	長方形	3.10×(2.62)	4~24	平相	2 - -	不明	土師質土器片	本跡→SK27-243-266, SE20
10	G 2 e2	N-90°-E	方形	2.38×2.28	30~36	平相	3 2 -	人為	土師質土器片	SK127→本跡

(2) 地下式竈

第1号地下式竈(第26図)

位置 調査2区北側中央部, F 2 e4 区。



第26図 第1号地下式竈・出土遺物実測図

重複関係 本跡が、第28号溝を掘り込んでいるので、第28号溝より新しい。

主軸方向 N-6°-E

竪坑 竪坑、主室ともに崩落しているため、明確な区分はできない。竪坑の上面は長軸 [0.95]m, 短軸0.89mで、方形と思われる。深さ78cmである。底面は、長軸 [0.78]m, 短軸0.74mの方形で、平坦である。

主室 底面は、長軸 [2.70]m, 短軸1.80mの長方形で、平坦である。確認面から底面までの深さは、80cmである。竪坑に向かって、緩やかなスロープ状に上がっている。

壁 主室、竪坑ともにほぼ垂直に立ち上がる。

覆土 4層からなる。ロームブロックや粘土を含む黒褐色土が堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム大・中・小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 3 黒色 黒色土多量, ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 粘土粒子多量, ローム粒子微量

遺物 土師質土器片161点, 陶器片2点, 礎3点が出土している。第26図48, 49の土師質土器の内耳鍋, 50の土師質土器の捕鉢が覆土中から出土している。

所見 本跡の性格については、南部に中世の土壌墓と思われる遺構が数多く確認されていることから、墓域と関連性があるものと思われる。時期は、出土遺物などから中世の後半と考えられる。

第1号地下式横出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 48	内耳鍋 土師質土器	A [36.3] B (9.4)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳2か所残存。器内はやや薄く、 口縁部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付 け。	長石・石英・雲母・ スコリア にふい褐色 普通	5% 外面塚付着 覆土中
49	内耳鍋 土師質土器	A [38.8] B (7.2)	内耳1か所残存。器厚はやや薄く、 口縁部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部部 ・部摩滅。耳貼り付け。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	10% 外面塚付着 覆土中
50	捕鉢 土師質土器	B (3.9) C [19.2]	底部から体部にかけての破片。体 部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。3条1單位の 粗い織り目。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	10% 外面塚付着 覆土中

(3) 土壌墓 (第27～35図)

土壌墓は、調査1区の北側及び調査2区の中央部にかけて密集している。これらの土壌墓は、いくつかの支群を形成している。土壌墓は、方形竪穴状遺構や井戸跡などと一緒に、複雑に重複している。土壌は、さまざま形態をしている。覆土の状況や類似等から墓であると考えられる。ここでは、形状や覆土の状態から、土壌墓の可能性のある92基について実測図を掲載し、その他については土壌墓・土坑一覧表にまとめた。

第23号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第24号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第25号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム大・中ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ローム中・小ブロック少量



第27号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量

第45号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック・炭化粒子微量

第49号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第51号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック微量

第55号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小・中ブロック微量

第61号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第66号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 炭化物極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第68号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第28号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム大・中ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック微量

第46号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第50号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

第52号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第57号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

第63号土坑土層解説

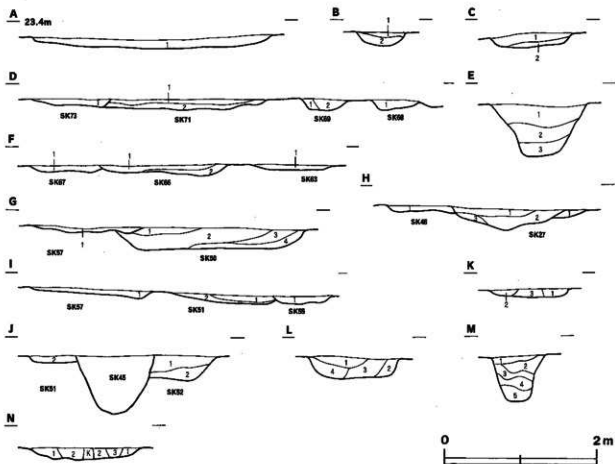
- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極微量

第67号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

第69号土坑土層解説

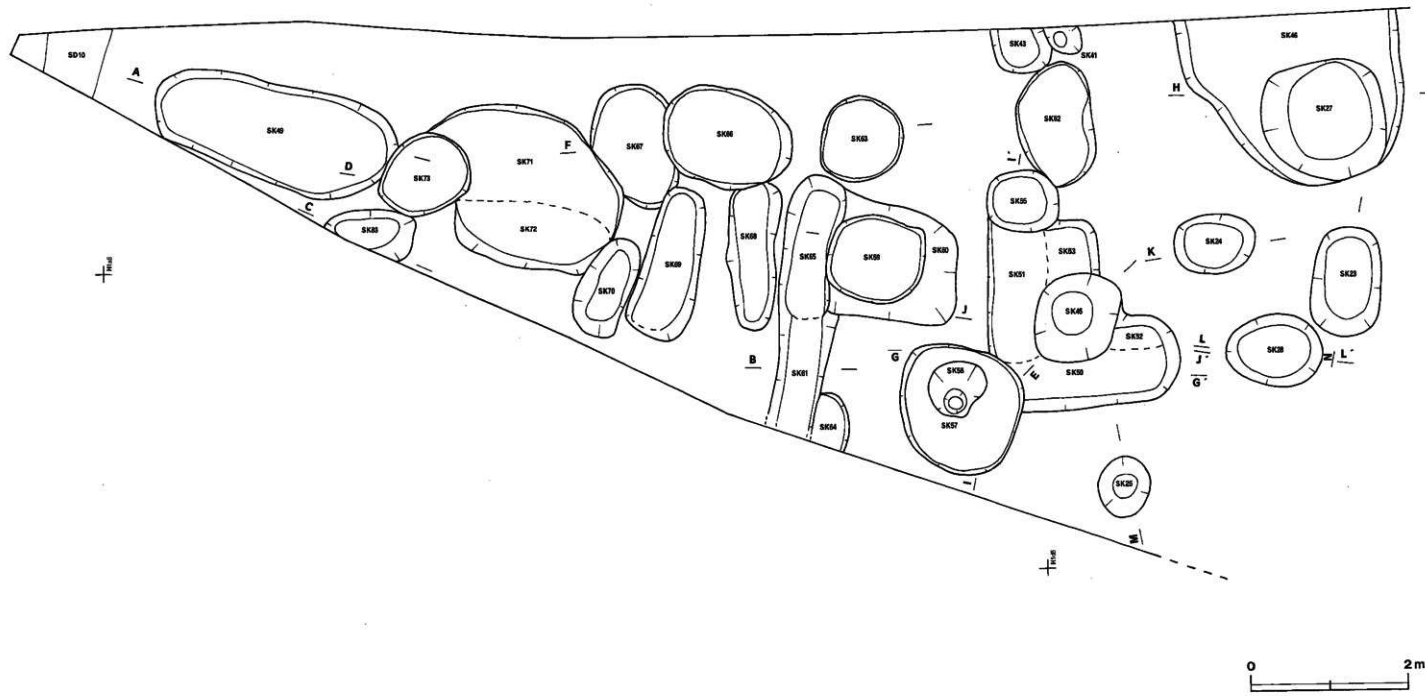
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量



第27図 土坑墓群実測図(1)



通 路



第28图 土坑墓群平面图(2)

第71号土坑土層解説

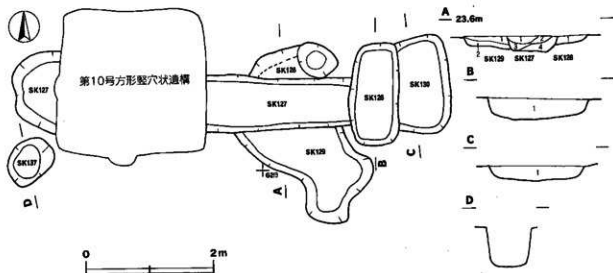
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子粒微量

第83号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量、焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第73号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量



第29図 土坑墓群実測図(3)

第126号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

第127号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第128号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量

第129号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量

第130号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量

第140号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第139号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

第172号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

第143号土坑土層解説

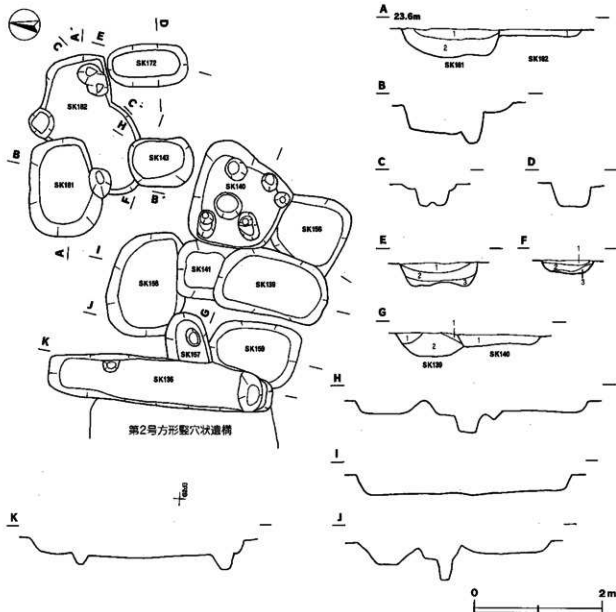
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第181号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第182号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量



第30図 土墳墓群実測図(4)

第167号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第169号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量

第174号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第175号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム中・小ブロック多量
- 4 黒褐色 ローム大・中ブロック中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量

第180号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

第168号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第170号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

第178号土坑土層解説

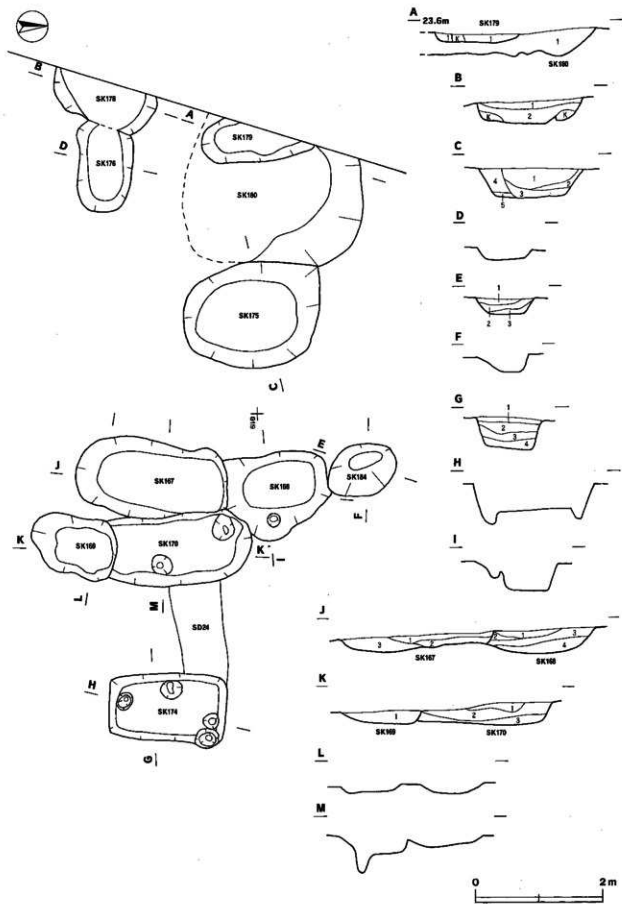
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック少量

第179号土坑土層解説

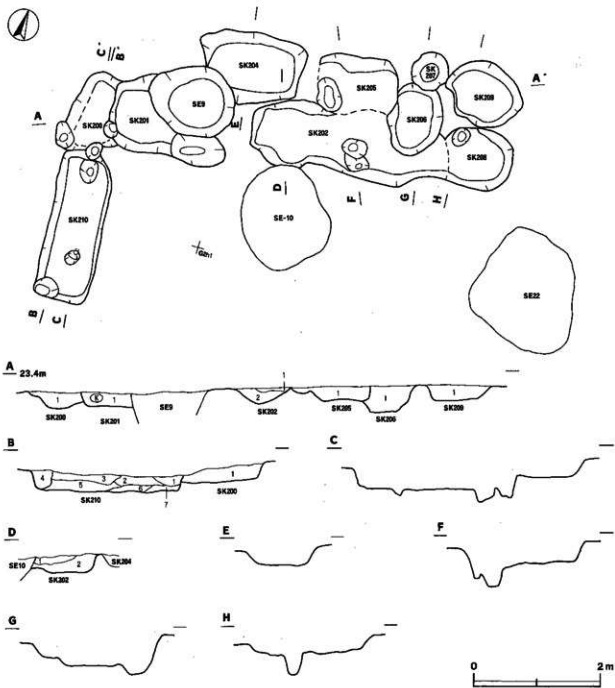
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

第184号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック少量



第31图 土坑墓群实例图(5)



第32図 土壌基群実測図(6)

第200号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第202号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック中量  
2 黒褐色 ローム中・小ブロック中量, ローム大ブロック微量

第206号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量

第209号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量

第201号土坑土層解説

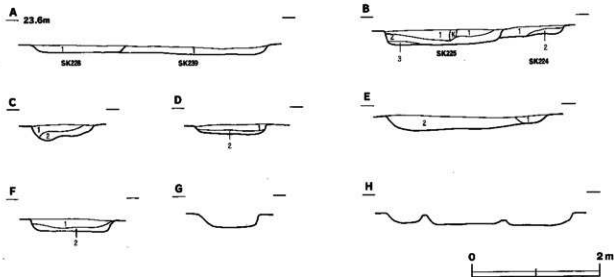
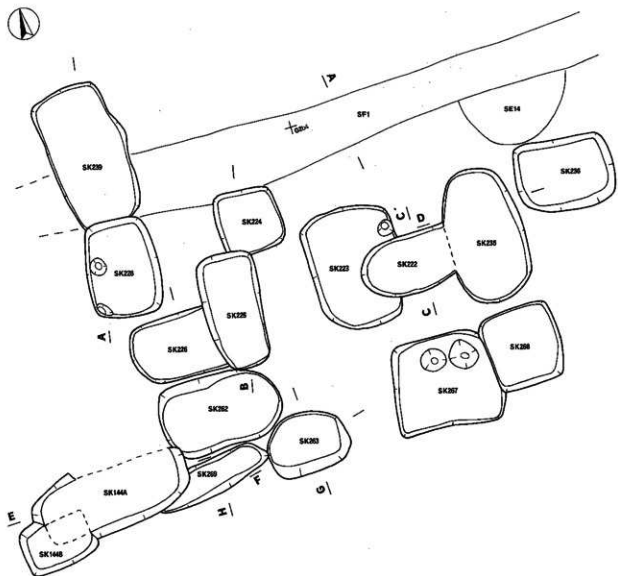
- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量

第205号土坑土層解説

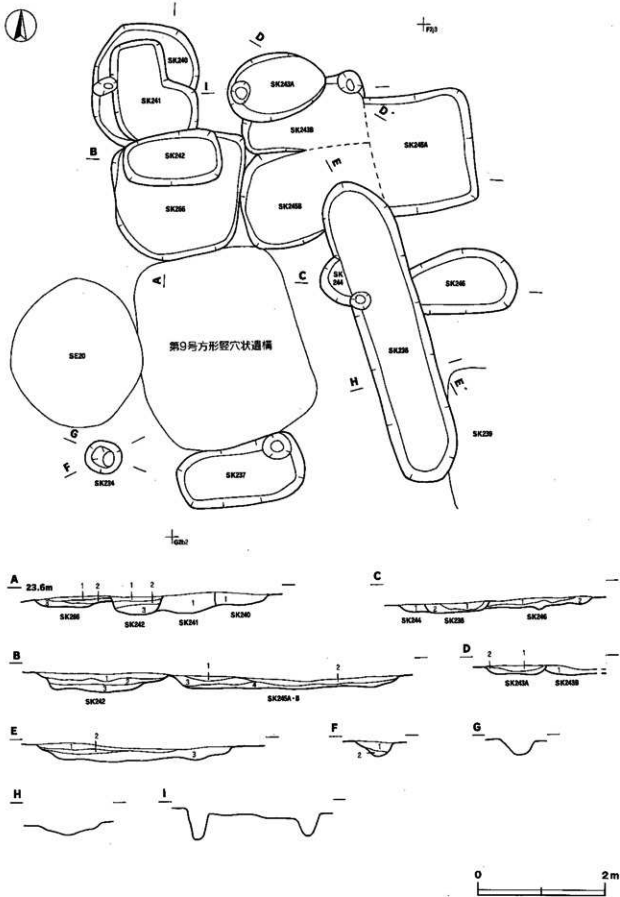
- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量

第210号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化物微量  
2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量  
3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量  
4 暗褐色 ローム大・中・小ブロック少量  
5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子微量  
6 暗褐色 ローム小ブロック少量  
7 暗褐色 ローム粒子少量



第33图 土壙墓群(7)・道路状遺構実測図



第34图 土墳墓群実測图(8)



**第144号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

**第224号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

**第228号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子微量

**第239号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

**第263号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

**第234号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

**第241号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量

**第243A号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

**第243B号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

**第245A・B号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

**第246号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

**第272号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

**第275号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

**第277号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

**第279号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

**第283号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

**第222号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

**第225号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

**第235号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

**第238号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

**第240号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

**第242号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

**第244号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

**第266号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

**第273号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

**第276号土坑土層解説**

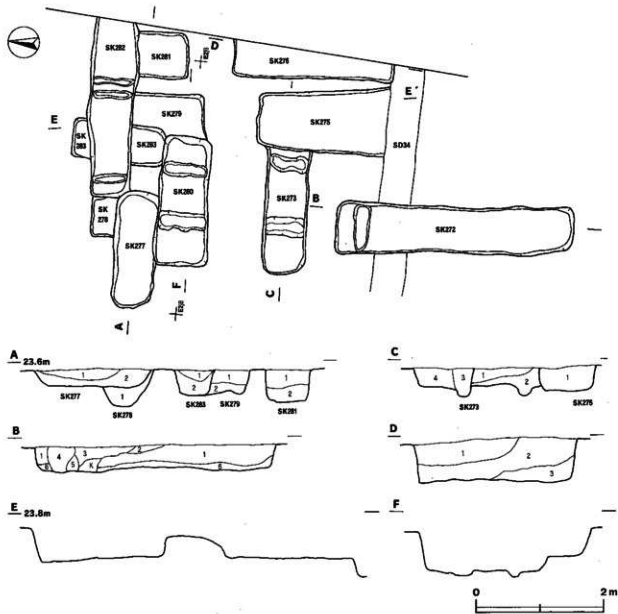
- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

**第278号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量

**第281号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量



第35図 土墳墓群実測図(9)

(4) 火葬墓

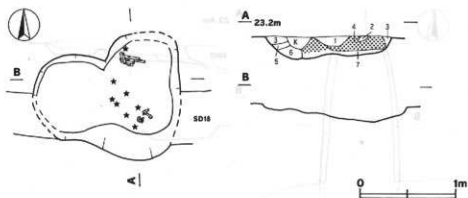
火葬墓については、次のような基準を設けた。土坑の中に、人骨（骨片、歯）・焼土・炭化物が遺存するもので、形態はT字形のものと瓢箪形のものを含む。火葬施設と火葬後そのまま埋葬されたとみられる遺構との区別がつきにくいものがあることから、両者を含めて火葬墓という名称を使う。火葬墓を構成している施設については、遺骸を火葬した燃焼部と燃焼部に空気を入れる通気溝と開口部の三つに分けて説明する。

第1号火葬墓（第36図）

位置 調査2区南部，H1f9区。

重複関係 本跡は、第18号溝に掘り込まれているので、第18号溝より古い。

規模と平面形 東側の燃焼部は長径[1.30]m，短径0.74mの楕円形，西側の開口部は長径 [0.91]m，短径0.78mの楕円形で，燃焼部に直行する形で，中央部に通気溝がある。



第36図 第1号火葬墓実測図

長径方向 N-82°-W

壁 東側の燃焼部の深さは22cmで、緩やかに立ち上がり、西側の開口部の深さは23cmで、外傾して立ち上がり、断面形はU字状をしている。

底面 燃焼部と開口部の底面は、平坦である。燃焼部の底面の一部は火熱を受け、赤変している。

覆土 7層からなる。焼土粒子や炭化物を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・炭化物多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物 覆土中層から上層にかけて火葬骨片及び炭化物の層が見られる。

所見 本跡は、北部に存在する中世土壌墓群と関連のある火葬墓と思われる。本跡を構成している燃焼部は、火葬骨片、炭化物及び焼土の検出状況から、遺骸を火葬したものと考えられる。本跡の時期は、遺構の形態などから中世と考えられる。

第2号火葬墓 (第37図)

位置 調査2区南部、G2i2区。

重複関係 本跡は、第23号溝に掘り込まれているので、第23号溝より古い。

規模と平面形 長径 [1.92]m、短径0.86mの楕円形と考えられる。

長径方向 N-7°-E

壁 深さは14cmで、緩やかに立ち上がり、断面形はU字状をしている。

底面 平坦であるが、一部に段差があり、燃焼部底面は火熱を受け、赤変している。

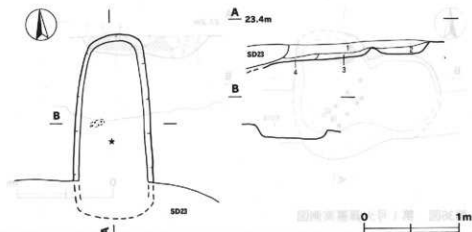
覆土 4層からなる。焼土粒子や炭化粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 に近い赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物 覆土中層から上層にかけて火葬骨片及び炭化粒子が見られる。

所見 本跡は、北部に存在する中世土壌墓群と関連のある火葬墓と思われる。火葬骨片、炭化物及び焼土の検出状況から、遺骸を火葬した土壌と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態などから中世と考えられる。



第37図 第2号火葬墓実測図

### 第3号火葬墓 (第38図)

位置 調査2区中央部, G1d2区。

重複関係 本跡は第193号土坑と重複するが, 新旧関係については不明である。  
規模と平面形 長径 [1.40]m, 短径0.80mの不整楕円形と推定される。

長径方向 N-86°-W

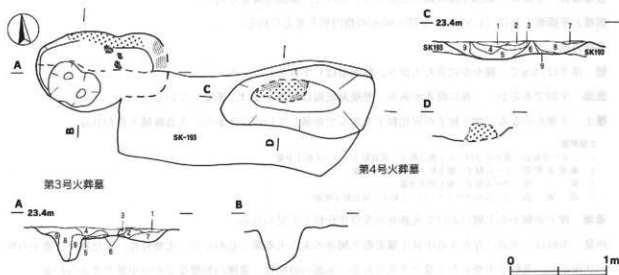
壁 深さは10~35cmで, 緩やかに立ち上がり, 断面形はU字状をしている。壁の一部に粘土が付着してある。

底面 平坦であるが, 一部はU字状にくぼみ, 全体的に火熱を受け, 赤変している。

覆土 9層からなる。焼土粒子や炭化物を含んで堆積していることから, 人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 灰褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土大ブロック多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
- 3 明赤褐色 焼土大ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 赤褐色 焼土大・中ブロック多量, 炭化粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土大・中ブロック微量
- 8 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・焼土小ブロック微量
- 9 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量



第38図 第3・4号火葬墓実測図

**遺物** 覆土中層から上層にかけて炭化物が見られる。  
**所見** 本跡は、中世土壌墓群と関連のある火葬墓と思われる。炭化物及び焼土の検出状況から、遺骸を火葬した土壌と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態などから中世と考えられる。

#### 第4号火葬墓 (第38図)

**位置** 調査2区中央部, G1d2区。

**重複関係** 本跡が、第193号土坑を掘り込んでいるので、第193号土坑より新しい。

**規模と平面形** 長径1.61m, 短径0.73mの楕円形である。

**長径方向** N-89°-E

**壁** 深さは19cmで、緩やかに立ち上がり、断面形はU字形をしている。

**底面** 平坦である。底面の一部は火熱を受け、赤変している。

**覆土** 9層からなる。焼土粒子や炭化物を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 焼土大・中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
- 2 暗赤褐色 焼土大・中・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 4 黒褐色 焼土中・小ブロック・炭化粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 にぶい赤褐色 焼土大・中・小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土大・中・小ブロック微量

**遺物** 覆土中層から上層にかけて炭化物が見られる。  
**所見** 本跡は、中世土壌墓群と関連のある火葬墓と思われる。炭化物及び焼土の検出状況から、遺骸を火葬した土壌と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態などから中世と考えられる。

#### 第5号火葬墓 (第39図)

**位置** 調査2区南部, G1j9区。

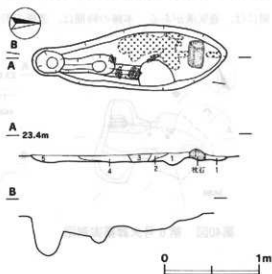
**規模と平面形** 北側の燃焼部は長径2.04m, 短径0.68m

の楕円形, 南側の開口部は長径0.35m, 短径0.31mの楕円形で、燃焼部と開口部の間に長さ0.80m, 上幅0.30m, 下幅0.10mの通気溝がある。南側から開口部, 通気溝, 燃焼部の順に構成された施設である。

**長径方向** N-3°-W

**壁** 開口部の深さは42cmで、外傾して立ち上がり、断面形はU字状をしている。燃焼部の深さは17cmで、緩やかに外傾して立ち上がり、断面形は浅いU字状をしている。

**底面** 燃焼部と開口部とも、凹凸があり、底面の一部は火熱を受け、赤変している。



第39図 第5号火葬墓実測図

覆土 5層からなる。焼土粒子や炭化物を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子多量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化材・炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 5 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量

遺物 覆土中層から上層にかけて火葬骨片及び炭化物の層が見られる。

所見 本跡は、北部に存在する中世土壌墓群と関連のある火葬墓と思われる。本跡を構成している燃焼部からは、枕石、火葬骨片、炭化物及び焼土を検出した。遺骸を火葬したものと考えられる。燃焼部と開口部は、火葬墓を構成する一つの施設と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態などから中世と考えられる。

第6号火葬墓 (第40図)

位置 調査2区南部, H1e9区。

重複関係 本跡の西側の一部が第284号土坑に掘り込まれているので、第284号土坑より古い。

規模と平面形 東側の燃焼部は長径0.85m, 短径0.43mの楕円形, 西側の開口部は長径[0.70]m, 短径0.65mの楕円形で、燃焼部と開口部の間に長さ1.01mほどの溝がある。燃焼部に直行する形で、中央部に通気溝と開口部がある。

長径方向 N-65°-E

壁 深さは20~42cmで、外傾して立ち上がり、断面形は逆台形をしている。

底面 凹凸であり、一部は火熱を受け、赤変している。

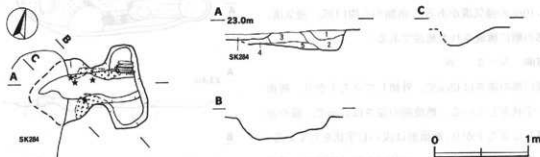
覆土 5層からなる。焼土粒子や炭化物を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 炭化材多量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 炭化材・炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 5 褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子微量

遺物 覆土中層から上層にかけて火葬骨片及び炭化物の層が見られる。

所見 本跡は、北部に存在する中世土壌墓群と関連のある火葬墓と思われる。本跡を構成している燃焼部と開口部は、火葬骨片、炭化物及び焼土の検出状況から、遺骸を火葬したものと考えられる。燃焼部と開口部の間には、通気溝がある。本跡の時期は、遺構の形態などから中世と考えられる。



第40図 第6号火葬墓実測図

表4 中根十三塚遺跡火葬墓一覧表

火葬墓番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 留意関係 掘出関係 (旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	H1f9	N-82°-W	T字形	1.55 × 1.30	22~23	外傾	平坦	人為	骨片, 炭化物	本→SD18
2	G2f2	N-7°-E	楕円形	[1.92] × 0.86	14	外傾	平坦	人為	骨片, 炭化物	本→SD23
3	G1d2	N-85°-W	不整楕円形	[1.40] × 0.80	10~35	緩斜	平坦	人為		本→SK13(遺物不明)
4	G1d2	N-89°-E	楕円形	1.61 × 0.73	19	緩斜	平坦	人為		SK193→本
5	G1j9	N-3°-W	圓形	2.04 × 0.68 0.35 × 0.31	17 ~42	外傾	凹凸	人為	骨片, 炭化物, 歯	
6	H1e9	N-65°-E	T字形	0.85 × 0.43 [0.70] × 0.65	20 ~42	外傾	凹凸	人為	骨片, 炭化物	本→SK284

(5) 土坑

当遺跡からは、土壌墓・土坑243基が検出された。ここでは、時期を中世と推定できるもの、遺物が出土しているものについて記述し、それ以外は一覧表でまとめる。

第14号土坑 (第41図)

位置 調査1区南部, I1f7区。

重複関係 本跡は、第13号土坑に掘り込まれているので、第13号土坑より古い。

規模と平面形 長径0.70m, 短径0.65mの不整円形で、深さは20cmである。

長径方向 N-20°-W

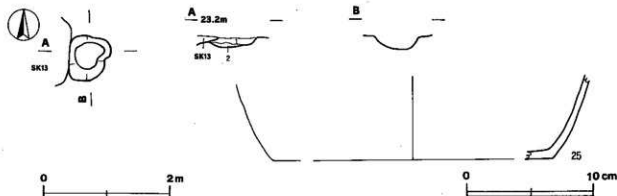
壁 緩やかに立ち上がり、断面形は浅いU字状をしている。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 2層からなる。ローム粒子や炭化粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量



第41図 第14号土坑・出土遺物実測図

第14号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第41図 25	内耳陶 土師質土器	B (6.6) C [22.2]	底部から体部にかけての破片。体部はやや丸味を持って、外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。底部外面ナデ。	長石・石英・雲母に多い褐色 普通	5% 外面煤片付 覆土中

遺物 第41図25の土師質土器の内耳鍋が覆土中から出土している。

所見 本跡は、北部に存在する中世土壇墓群と関連のある土坑と思われる。本跡の時期は、出土遺物から中世と考えられる。

### 第32A号土坑 (第42図)

位置 調査2区中央部, H1i5区。

重複関係 本跡は、第31号土坑に掘り込まれているので、第31号土坑より古い。第32B号土坑についての新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.25m, 短径0.85mの不整形円で、深さは35cmである。

長径方向 N-18°-E

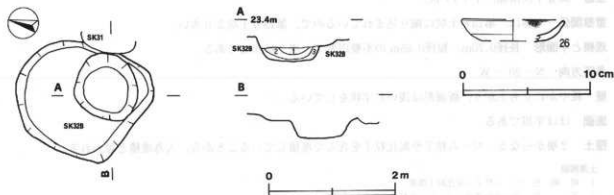
壁 外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形をしている。

底面 平坦である。

覆土 3層からなる。ローム粒子や炭化粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量



第42図 第32A号土坑・出土遺物実測図

### 第32A号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 26	小皿 土師質土器	A [ 8.0] B 1.7 C [ 5.0]	底部から口縁部にかけての破片。 体部は直線的に立ち上がり, 中段に弱い稜を持つ。	体部内・外面ロクロナテ。口縁部に油煙付着。	長石・石英・雲母にふいふ褐色 普通	5% 覆土中

遺物 第42図26の土師質土器の小皿が覆土中から出土している。

所見 本跡は、北部に存在する中世土壇墓群と関連のある土坑と思われる。本跡の時期は、出土遺物から中世と考えられる。

### 第75号土坑 (第43図)

位置 調査2区中央部, H1i7区。

規模と平面形 長径0.92m, 短径0.68mの楕円形で、深さは21cmである。

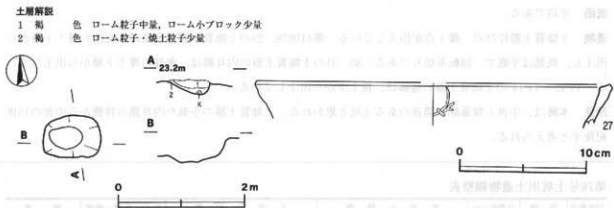
長径方向 N-89°-E



壁 緩やかに立ち上がる。断面形は一部U字状をしている。

底面 凹凸である。

覆土 2層からなる。焼土粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。



第43図 第75号土坑・出土遺物実測図

第75号土坑出土遺物観察表

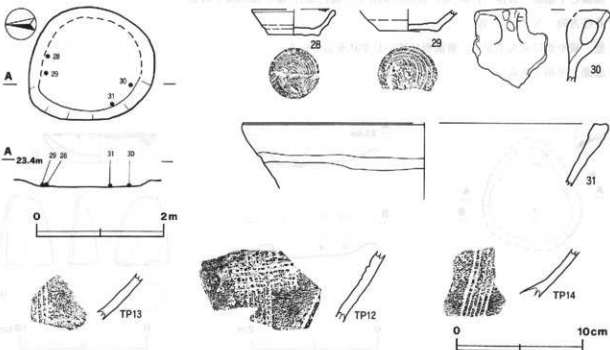
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 27	鉢 土師質土器	A [28.0] B (3.3)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁 部に至る。	体部内面ナデ。体部内面にヘラ状 工具による唐草文が施されてい る。	長石・石英・雲母・ スコリア に灰い褐色 普通	5% 外面煤付着 覆土中

遺物 第43図27の土師質土器の鉢が覆土中から出土している。

所見 本跡は、中世土壙墓群と関連のある土坑と思われる。時期は、出土遺物などから中世と考えられる。

第76号土坑 (第44図)

位置 調査2区南側, I 1 c 7 区。



第44図 第76号土坑・出土遺物実測図

規模と平面形 長径1.94m, 短径1.74mの楕円形である。深さは14cmである。

長径方向 N-2°-E

壁 緩やかに立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 土師質土器片78点, 礫1点が出土している。第44図28, 29の土師質土器の小皿は, 北部の覆土下層から出土し, 底部は平底で, 回転糸切りである。30, 31の土師質土器の内耳鍋は, 南部の覆土下層から出土している。TP12~TP14の土師質土器の播鉢は, 覆土中から出土している。

所見 本跡は, 中世土城墓群と関連のある土坑と思われる。土師質土器の小皿や内耳鍋の特徴から中世の15世紀後半と考えられる。

### 第76号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	許諾値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 28	小皿 土師質土器	A [ 6.6]	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり, 口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。口縁部内面に油煙付着。	石英・雲母・スコリア にふい橙色 普通	60% 北部下層
		B 2.0				
		C 4.2				
29	小皿 土師質土器	B ( 1.7)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	石英・雲母・スコリア にふい橙色 普通	40% 北部下層
		C 4.8				
30	内耳鍋 土師質土器	B ( 6.4)	内耳1か所残存。器肉はやや薄く, 口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。口縁端部一部摩滅。耳筋1付。付。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	5% 外部僅付着 南部下層
31	内耳鍋 土師質土器	A [29.0]	体部から口縁部にかけての破片。口縁端部は平坦である。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	10% 外部僅付着 南部下層
		B ( 5.0)				

### 第79号土坑 (第45図)

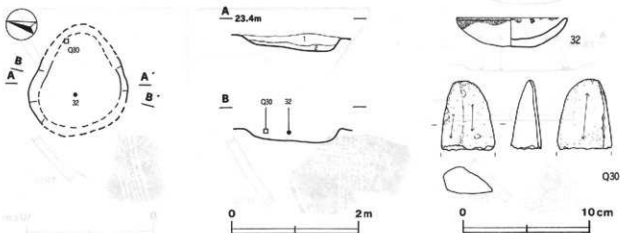
位置 調査2区南部, I 1 d7区。

規模と平面形 長径 [1.80]m, 短径1.50mの [楕円形], 深さは28cmである。

長径方向 N-24°-W

壁 緩やかに立ち上がり, 断面形は浅いU字状をしている。

底面 平坦である。



第45図 第79号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層からなる。焼土粒子やローム粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量  
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 第45図32の土師質土器の小屋は、西側の覆土中層から、Q30の砥石は北部の覆土中層から出土している。

所見 本跡は、中世土壌墓群と関連のある土坑と思われる。時期は、出土遺物などから中世と考えられる。

第79号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 32	小屋 土師質土器	A 9.4	口縁部一部欠損。丸底。器内は厚く体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面横ナデ。底部内面一方向のナデ。底部外面指ナデ。口縁部内・外面に油塗付着。	スコリア・砂粒 棕色 普通	95% PL10 西部覆土中層 14世紀前半
		B 2.4				
		C 1.2				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q30	砥石	(5.4)	4.3	2.3	(50.6)	凝灰岩	北部中層	PL19

第97号土坑 (第46図)

位置 調査2区南部, H1f0区。

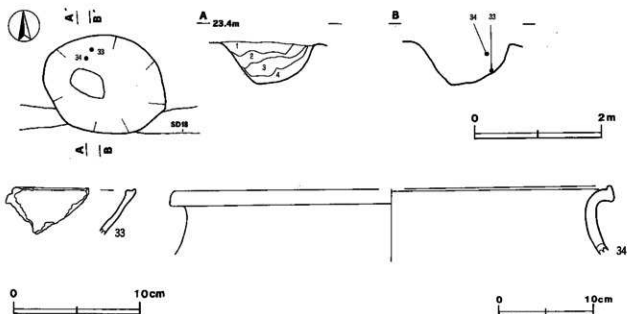
重複関係 本跡が、第18号溝を掘り込んでいるので、第18号溝より新しい。

規模と平面形 長径2.00m, 短径1.57mの楕円形, 深さは65cmである。

長径方向 N-64°-W

壁 外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形をしている。

底面 平坦である。



第46図 第97号土坑・出土遺物実測図

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物 第46図33の土師質土器の片口鉢は北部覆土下層から、34の常滑の陶器甕は、北部覆土中層から出土している。

所見 本跡は、北部に存在する中世土壇墓群と関連のある土坑と思われる。時期は、出土遺物などから中世の13世紀後半以降と考えられる。

第97号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第46図 33	片口鉢 土師質土器	B (3.5)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁端部に強い稜を持つ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコーリアにふい褐色 普通	5% 外面露付者 北部覆土下層
34	甕 陶器	A [46.0] B (7.1)	体部から口縁部にかけての破片。 幅の狭い粘土帯が高断面N字状の口縁である。	口縁部内・外面ナデ。輪積み板有り体部外面に自然焼。	長石・石英 灰黄色 普通	5% PL10 北部覆土中層 常滑系13世紀後半

第107号土坑 (第47図)

位置 調査2区南部, G 2 h 3 区。

規模と平面形 長径1.37m, 短径0.78mの楕円形, 深さは24cmである。

長径方向 N-77°-W

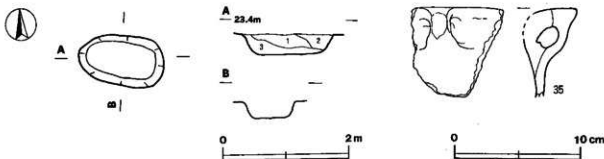
壁 外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形をしている。

底面 平坦である。

覆土 3層からなる。ロームブロックやローム粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量



第47図 第107号土坑・出土遺物実測図

第107号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 35	内耳鍋 土師質土器	B (7.0)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1小所残存。器内はやや薄く、口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。口縁端部一部稜減。耳貼り付け。	長石・石英・雲母にふい赤褐色 普通	5% 外面露付者 覆土中

遺物 第47図35の土師質土器の内耳鍋は覆土中から出土している。

所見 本跡は、中世土壇墓群と関連のある土坑と思われる。時期は、出土遺物などから中世と考えられる。

第139号土坑 (第48図)

位置 調査2区中央部, G 2 d3 区。

重複関係 本跡が, 第141・156号土坑を掘り込み, 第140号土坑に掘り込まれているので, 第141号・156号土坑より新しく, 第140号土坑より古い。

規模と平面形 長径1.75m, 短径1.03mの楕円形, 深さは35cmである。

長径方向 N-80°-E

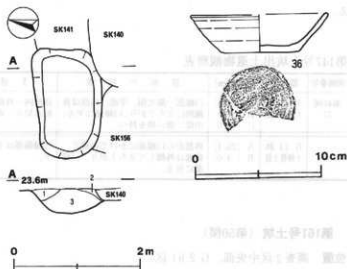
壁 外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形をしている。

底面 平坦である。

覆土 3層からなる。ローム粒子やロームブロックを含んで堆積していることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量



第48図 第139号土坑・出土遺物実測図

遺物 土師質土器片17点が出土している。第48図36の土師質土器の小皿は, 覆土中から出土している。

所見 本跡は, 中世土墳墓群と関連のある土坑と思われる。時期は, 出土遺物などから中世の16世紀以降と考えられる。

第139号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第48図 36	小皿 土師質土器	A [11.0] B 3.0 C 6.0	底部から1縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に立ち上がり, 中段に弱い稜を持つ。	体部内・外面ロクナデ。底部圓 転糸切り。底部内面ナデ。	石灰・雲母・スコ リア にぶい褐色	40% 覆土中 16世紀

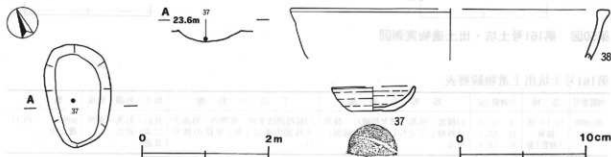
第147号土坑 (第49図)

位置 調査2区中央部, G 2 d4 区。

規模と平面形 長径1.62m, 短径1.00mの楕円形, 深さは17cmである。

長径方向 N-20°-W

壁 緩やかに立ち上がり, 断面形は浅いU字状をしている。



第49図 第147号土坑・出土遺物実測図

底面 平坦である。

遺物 土師質土器 9 点、陶器 1 点が出土している。第49図37の土師質土器の小皿は、覆土下層から出土している。38の土師質土器の片口鉢は、覆土中から出土している。

第147号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 37	小皿 土師質土器	A [ 6.6 ] B 1.9 C 3.6	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。中段に強い稜を持つ。	体部内・外面クロコナテ。底部回転糸切り。底部内面ナテ。	石英・雲母にふい褐色 普通	50% 覆土下層
38	片口鉢 土師質土器	A [25.1] B ( 4.0 )	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁端部は平坦。体部内・外面ナテ。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	5% 覆土中

第161号土坑 (第50図)

位置 調査2区中央部、G 2 b1 区。

規模と平面形 長径0.92m、短径0.82mの円形、深さは100cmである。井戸状の様相を呈している。

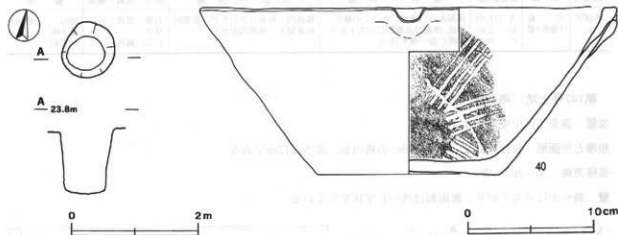
長径方向 N-22°-E

壁 外傾して筒状に立ち上がり、断面形はU字状をしている。

底面 平坦である。

遺物 土師質土器片 3 点、礫 1 点が出土している。第50図40の土師質土器の播鉢は覆土中から出土している。

所見 本跡は、中世土壌墓群と関連のある土坑と思われる。時期は、出土遺物などから中世と考えられる。



第50図 第161号土坑・出土遺物実測図

第161号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 40	片口鉢 (播鉢) 土師質土器	A 32.8 B 13.1 C 14.4	口縁部・体部一部欠損破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁端部は平坦。体部内・外面ナテ体部内面に4条1単位の横り目。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	90% PL11 覆土中

### 第189号土坑（第51図）

位置 調査2区中央部，G 2 f 1 区。

重複関係 本跡は，第191号土坑に掘り込まれているので，第191号土坑より古い。

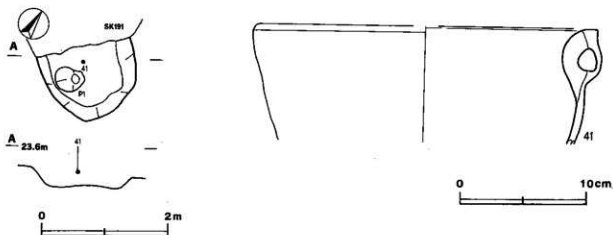
規模と平面形 長径1.45m，短径（1.40）mの円形と推定され，深さは30cmである。

壁 外傾して立ち上がり，断面形は逆台形をしている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 土師質土器片17点，不明土製品1点，礫1点が出土している。第51図41の土師質土器の内耳鍋は覆土中層から出土している。

所見 本跡は，中世土塚墓群と関連のある土坑と思われる。時期は，出土遺物などから中世と考えられる。



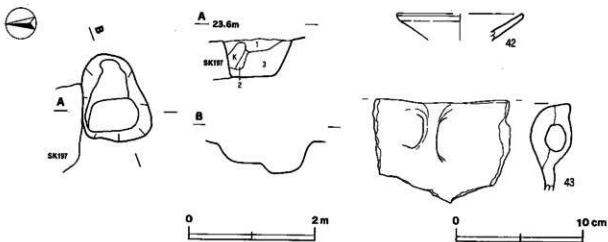
第51図 第189号土坑・出土遺物実測図

### 第189号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51図 41	内耳鍋 土師質土器	A [27.2] B (9.1)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内はやや薄く， 口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付 け。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	5% 外面露付着 覆土中層

### 第196号土坑（第52図）

位置 調査2区中央部，G 2 f 0 区。



第52図 第196号土坑・出土遺物実測図

重複関係 本跡は、第197号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.40m, 短径1.10mの不整楕円形, 深さは60cmである。

長径方向 N-80°-E

壁 外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形をしている。

底面 平坦である。

覆土 3層からなる。ローム粒子やロームブロックを含んで堆積していることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師質土器片 8点, 陶器片 2点が出土している。第52図42の土師質土器の小皿と43の土師質土器の内耳鍋は覆土中から出土している。

所見 本跡は, 中世土墳墓群と関連のある土坑と思われる。時期は, 出土遺物などから中世の15世紀以降と考えられる。

第196号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 42	小皿 土師質土器	A [10.0] B (2.1)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は直線的に立ち上がり, 口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナテ。	雲母・スコリア にふい赤褐色 普通	5% 覆土中
43	内耳鍋 土師質土器	B (8.1)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内はやや薄く, 口縁部は平坦である。	口縁部内・外面横ナテ。耳貼り付 け。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	5% 外壁既付着 覆土中

第201号土坑 (第53図)

位置 調査2区中央部, G1g1区。

重複関係 本跡が, 第200号土坑を掘り込み, 第9号井戸に掘り込まれているので, 第200号土坑より新しく, 第9号井戸より古い。

規模と平面形 長径1.08m, 短径(1.05)mの不整楕円形と推定され, 深さは20cmである。

長径方向 N-0°-E

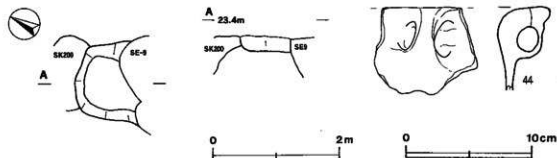
壁 外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形をしている。

底面 平坦である。

覆土 単一層である。ローム粒子を含んで堆積していることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量



第53図 第201号土坑・出土遺物実測図



遺物 第53図44の土師質土器の内耳鍋は覆土中から出土している。

所見 本跡は、中世土壌基群と関連のある土坑と思われる。時期は、出土遺物などから中世と考えられる。

### 第201号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第53図 44	内耳鍋 土師質土器	B (6.9)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内は薄く、口 縁部は平皿である。	口縁部内・外面横ナゲ。耳貼り付 け。	長石・石英・スコ リア に多い橙色 普遍	5% PL11 外照像付着 覆土中

### 第223号土坑 (第54図)

位置 調査2区中央部, G 2 b4 区。

重複関係 本跡は、第222号土坑に掘り込まれているので、第222号土坑より古い。

規模と平面形 長径1.95m, 短径1.48mの楕円形, 深さは15cmである。

長径方向 N-1°-E

壁 緩やかに立ち上がり, 断面形は浅いU字状をしている。

底面 平坦である。

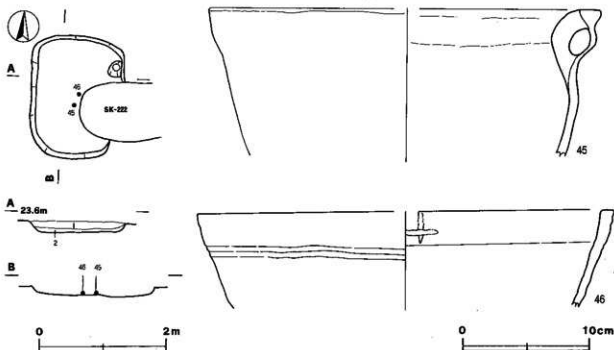
覆土 2層からなる。ローム粒子やロームブロックを含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 層 色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 層 色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 第54図45と46の土師質土器の内耳鍋は覆土下層から出土している。

所見 本跡は、中世土壌基群と関連のある土坑と思われる。時期は、出土遺物などから中世と考えられる。



第54図 第223号土坑・出土遺物実測図

第223号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 45	内耳鍋 土師質土器	A [30.8] B (11.6)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内は薄く、口 縁部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳跡り付 け。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい 褐色 普通	10% 外面縁付着 覆上下層
46	内耳鍋 土師質土器	A [33.2] B (7.5)	体部から口縁部にかけての破片。 器内は薄く、口縁部は平坦であ る。	口縁部内・外面ナデ。体部内面に 「十」字のヘタ記号が施されて いる。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	5% 外面縁付着 覆上下層

第236号土坑 (第55図)

位置 調査2区南部, G2b4区。

規模と平面形 長径1.53m, 短径1.12mの楕円形, 深さは14.0cmである。

長径方向 N-5°-E

壁 緩やかに立ち上がり, 断面形は浅いU字状をしている。

底面 平坦である。

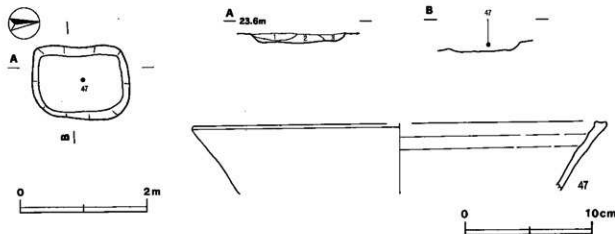
覆土 3層からなる。ローム粒子やロームブロックを含んで堆積していることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師質土器片2点, 陶器片2点が出土している。第55図47の土師質土器の片口縁は覆土上層から出土している。

所見 本跡は, 中世土嶺墓群と関連のある土坑と思われる。時期は, 出土遺物などから中世と考えられる。



第55図 第236号土坑・出土遺物実測図

第236号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 47	片口鉢 土師質土器	A [33.0] B (5.5)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり, 口縁 部に至る。	口縁部部に強い稜を持つ。体部内・ 外面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい褐色 普通	5% 覆土上層

### 第257号土坑（第56図）

位置 調査2区南部，F2i1区。

規模と平面形 長径1.20m，短径0.65mの楕円形，深さは37.0cmである。

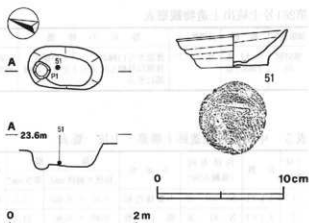
長径方向 N-14°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 第56図51の土師質土器の小皿は，床面から正位で出土し，平底で，底部は回転糸切りである。

所見 本跡は，中世土城墓群と関連のある土坑と思われる。時期は，出土遺物などから中世の15世紀後半以降と考えられる。



第56図 第257号土坑・出土遺物実測図

### 第257号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 51	小皿 土師質土器	A 8.8 B 2.8 C 5.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。中段に弱い稜を持つ。口縁端部は丸く収めている。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面一方向のナデ。	石英・雲母・スコリアにぶい黄褐色 普通	90% 床面 15世紀

### 第261号土坑（第57図）

位置 調査2区中央部，F2f3区。

重複関係 本跡は，第27号溝と重複しているが，新旧関係については不明である。

規模と平面形 長径1.97m，短径1.40mの楕円形，深さは70cmである。

長径方向 N-82°-W

壁 外傾して立ち上がり，断面形は逆台形をしている。

底面 平坦である。

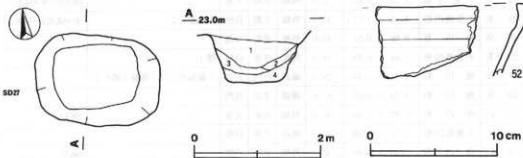
覆土 4層からなる。ローム粒子やロームブロックを含んで堆積していることから，人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量，砂粒少量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子・砂粒少量
- 4 褐色 砂粒中量，ローム中・小ブロック・ローム粒子微量

遺物 第57図52の土師質土器の片口鉢は覆土中から出土している。

所見 本跡は，中世土城墓群と関連のある土坑と思われる。時期は，出土遺物などから中世と考えられる。



第57図 第261号土坑・出土遺物実測図

第261号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第57図 52	片口鉢 土師質土着	B(5.7)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁 部に至る。	口縁端部に弱い稜を持つ。体部内・ 外面ナア。	長石・石英・雲母・ スコリア 灰褐色 普通	5% 外面煤付着 覆土中

表5 中根十三塚遺跡土壌墓・土坑一覧表

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	縦 横		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 (旧→新)
				長径×短径(m)	高さ(m)					
1	I 1 f1	N-73°-W	不整楕円形	0.85 × (0.60)	5.5	縦斜	平坦	人為		
2	I 1 f1	N-81°-E	楕円形	0.95 × 0.80	14.2	外傾	平坦	自然		
3	I 1 f2	N-90°-E	楕円形	1.09 × 0.85	19.0	縦斜	平坦	人為		
4	I 1 e3	N-12°-W	楕円形	1.00 × 0.85	28.0	縦斜	皿状	人為	土師器片 7	
5	I 1 d3	N-22°-W	楕円形	1.25 × 1.00	7.0	縦斜	皿状	人為	不明土製品 1	
6	I 1 e3	N-89°-W	楕円形	1.76 × 0.62	36.0	縦斜	皿状	自然		
7	I 1 c4	N-90°-E	楕円形	1.42 × 1.02	7.0	外傾	平坦	人為		
8	I 1 e4	-	不整円形	1.50 × 1.45	102.0	外傾	平坦	自然		
9	I 1 f5	N-5°-W	不整楕円形	0.71 × 0.62	55.0	外傾	皿状	自然		
10	I 1 e5	N-93°-W	楕円形	1.30 × 0.66	9.0	縦斜	平坦	自然		
11	I 1 e6	N-70°-W	楕円形	1.31 × 0.57	12.0	縦斜	凹凸	人為		
12	I 1 d6	N-68°-W	楕円形	0.79 × 0.71	69.0	外傾	平坦	人為	標 5	
13	I 1 f7	-	不整円形	1.27 × 1.20	26.0	縦斜	皿状	人為		SK14→本
14	I 1 f7	N-20°-W	不整円形	0.70 × 0.65	20.0	縦斜	平坦	人為	土師質土器片 1	本→SK13
15	I 1 e7	N-90°-W	不整楕円形	1.30 × 0.70	18.0	縦斜	皿状	自然		
16	I 1 e3	-	円形	1.54 × 1.40	118.0	外傾	平坦	人為	標 1	
17	H 1 i6	N-25°-W	楕円形	1.00 × 0.79	24.0	縦斜	皿状	自然		
19	H 1 g6	N-18°-W	楕円形	3.49 × 0.97	53.0	外傾	皿状	自然		
20	H 1 h5	N-23°-W	不整楕円形	0.97 × 0.70	53.0	縦斜	皿状	自然		
21	H 1 i6	N-12°-E	不整楕円形	0.69 × 0.47	52.0	外傾	凹凸	自然	土師器片 3	
22	H 1 g4	N-14°-E	楕円形	1.68 × 0.88	20.0	外傾	平坦	自然		SD 5
23	H 1 e5	N-84°-W	楕円形	1.43 × 0.88	14.0	縦斜	平坦	自然		
24	H 1 d6	N-6°-W	楕円形	1.08 × 0.80	10.0	縦斜	平坦	自然		
25	H 1 d5	N-89°-E	円形	0.78 × 0.65	58.0	縦斜	平坦	人為		
26	H 1 i5	N-81°-W	不整楕円形	2.57 × 1.74	14.0	外傾	平坦	自然		
27	H 1 d6	N-38°-E	円形	1.76 × 1.60	23.0	縦斜	平坦	人為		SK46→本
28	H 1 d5	N-6°-E	楕円形	1.23 × 0.93	28.0	外傾	皿状	人為		
29	H 1 i6	-	円形	1.45 × 1.40	12.0	縦斜	皿状	人為		
30	H 1 i6	N-90°-E	楕円形	1.00 × 0.65	60.0	外傾	皿状	自然	土師器片 4	
31	H 1 i5	N-15°-W	楕円形	0.84 × 0.58	11.0	縦斜	平坦	人為		
32A)	H 1 i6	N-18°-E	不整円形	1.25 × 0.85	35.0	外傾	平坦	人為		SK32B→本→SK31
32B)	H 1 i5	N-26°-E	不整楕円形	1.92 × 1.77	37.0	外傾	平坦	自然	土師器片 7	本→SK32A→SK31
34	H 1 i4	N-5°-W	楕円形	0.66 × 0.50	15.0	外傾	平坦	自然		
35	H 1 i6	N-20°-E	不整楕円形	1.04 × 0.69	46.0	外傾	平坦	自然	標 1	
38	H 1 h6	N-62°-W	楕円形	1.41 × 0.95	29.0	縦斜	凹凸	人為	土師器片 4, 土師質土器片 1	
39	H 1 i5	N-39°-W	楕円形	1.29 × 0.75	8.00	縦斜	平坦	自然		
41	H 1 d6	[N-70°-E]	楕円形	0.42 × 0.36	40.0	外傾	平坦	人為		SK43
42	H 1 g7	N-24°-E	不整楕円形	2.17 × 0.68	10.0	縦斜	平坦	自然		
43	H 1 c6	[N-77°-E]	楕円形	0.70 × 0.60	40.0	外傾	平坦	自然		SK41

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主 要 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
45	H1d5	N-45°-W	楕円形	1.30×1.10	75.0	外傾	平坦	自然		SK51, 52, 53→本
46	H1d6	N-78°-E	不整楕円形	1.68×0.88	7.00	外傾	平坦	自然		本→SK27
49	E1a6	N-14°-E	楕円形	3.10×1.38	18.0	緩斜	平坦	自然		
50	H1d5	N-4°-W	楕円形	2.10×1.12	31.0	緩斜	平坦	自然	土師器片2	本→SK57
51	H1c5	N-88°-E	[楕円形]	[1.70×0.75]	13.0	緩斜	平坦	自然		本→SK45, 50, 53, 55
52	H1d5	N-2°-W	楕円形	(0.79×0.43)	30.0	緩斜	平坦	自然	土師器片2	本→SK45
53	H1d6	N-89°-E	楕円形	(0.70×0.65)	18.0	外傾	平坦	自然		SK55
55	H1c6	N-89°-E	楕円形	(0.90×0.80)	24.0	緩斜	平坦	人為		SK53, 62, SK51→本
57	H1c5	N-81°-W	不整楕円形	1.80×1.65	10.0	緩斜	平坦	自然		SK50→本
58	H1c5	-	円形	0.75×0.73	76.0	緩斜	平坦	人為		SK57
59	H1c6	N-6°-E	楕円形	1.25×1.08	30.0	緩斜	平坦	人為		SK60, 65
60	H1c6	N-77°-W	楕円形	1.69×1.60	20.0	緩斜	平坦	人為		SK59, 61, 65
61	H1c5	N-90°-E	楕円形	1.60×0.64	22.0	緩斜	皿状	自然		SK60, 64, 65
62	H1d6	N-15°-W	楕円形	1.64×0.98	6.00	緩斜	平坦	人為		SK55
63	H1c6	N-26°-E	楕円形	1.10×1.04	9.00	緩斜	平坦	人為		
64	H1c5	N-18°-E	不整楕円形	(0.70×0.44)	12.0	緩斜	平坦	人為		SK61
65	H1c6	N-5°-W	楕円形	1.86×0.70	21.0	緩斜	平坦	自然		SK59, 60, 61
66	H1c6	N-20°-E	不整楕円形	1.75×1.27	20.0	緩斜	平坦	自然		SK67, 68
67	H1b6	N-82°-W	楕円形	1.63×1.12	20.0	緩斜	凹凸	人為		SK69, 71, 本→SK66
68	H1c5	N-39°-W	楕円形	1.85×0.60	14.0	緩斜	平坦	自然		SK66
69	H1b6	[N-70°-E]	楕円形	1.97×0.82	17.0	外傾	皿状	自然		
70	H1b5	N-24°-E	不整楕円形	1.30×0.67	25.0	緩斜	皿状	自然		SK71, 72
71	H1b6	[N-77°-E]	楕円形	2.73×(1.42)	15.0	緩斜	平坦	自然		SK72
72	H1b6	N-45°-W	楕円形	2.03×0.85	14.0	緩斜	平坦	自然		SK70, 71
73	H1b6	N-78°-E	不整楕円形	1.20×1.00	10.0	緩斜	平坦	自然		SK71, 72, 49
74	H1j6	N-14°-E	楕円形	1.08×0.50	12.0	緩斜	平坦	人為		
75	H1i7	N-89°-E	楕円形	0.92×0.68	21.0	緩斜	凹凸	人為		
76	I1e7	N-20°-E	楕円形	(1.94)×1.74	14.0	緩斜	平坦	自然	土師質土器78, 79, 81	
79	I1d7	N-24°-W	[楕円形]	2.00×1.83	28.0	緩斜	平坦	人為		
80	H1h4	N-1°-E	不整楕円形	1.64×0.58	10.0	緩斜	平坦	自然		SD6
82	H1f6	N-50°-E	楕円形	(1.50×1.28)	40.0	緩斜	凹凸	人為		
83	H1a6	N-8°-W	楕円形	(1.15×0.60)	14.0	緩斜	平坦	人為		
84	H1g4	N-24°-E	楕円形	1.89×(1.50)	94.0	外傾	凹凸	人為		SD5, 6
92	H1f9	N-5°-E	不整楕円形	0.60×(0.45)	44.0	外傾	皿状	自然		SK93
93	H1f9	N-5°-E	楕円形	(0.50)×0.40	34.0	外傾	平坦	自然		SK92
94	H1f8	N-15°-E	楕円形	(3.00)×1.75	16.0	外傾	平坦	人為		
95	H1f8	N-25°-W	楕円形	(0.58)×0.45	33.0	外傾	皿状	自然		
96	H1f8	N-15°-W	不整楕円形	3.16×(0.88)	28.0	緩斜	平坦	人為		
97	H1f0	N-64°-W	楕円形	2.00×1.57	65.0	外傾	平坦	人為		SD18→本
98	G2i3	N-60°-W	楕円形	(2.20)×0.92	9.00	緩斜	平坦	自然		SK99, 106, 107, 109, 111, SD18
99	G2h3	N-1°-E	楕円形	(1.59×0.64)	8.00	緩斜	平坦	自然		
102	H1f8	N-15°-W	楕円形	0.45×0.88	42.0	外傾	凹凸	人為		SD18
103	H2c2	N-82°-E	楕円形	(1.25)×0.74	15.0	緩斜	皿状	自然		
104	H2b3	N-44°-E	楕円形	1.10×1.03	26.0	外傾	皿状	自然		
107	G2h3	N-77°-W	楕円形	1.37×0.78	24.0	外傾	平坦	人為		
109	G2h4	N-20°-E	楕円形	(1.00)×0.71	11.0	緩斜	平坦	自然		

上塊 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主 な 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(m)					
110	G 2 c 2	N-54°-E	楕 円 形	0.97 × 0.80	10.0	外傾	圓状	自然		SD20→本
111	G 2 h 3	N-7°-W	楕 円 形	1.69 × 0.91	34.0	外傾	平坦	人為		
114	H 2 a 3	-	不 整 円 形	0.61 × 0.57	32.0	外傾	圓状	自然		
116	G 2 g 4	N-5°-W	不 整 楕 円 形	1.84 × 1.20	60.0	縱斜	平坦	人為		
118	G 2 g 4	N-68°-E	不 整 楕 円 形	0.76 × 0.50	59.0	外傾	平坦	人為		
119	G 2 e 2	-	不 整 円 形	0.90 × 0.85	18.0	外傾	平坦	人為		
121	G 2 f 2	N-80°-W	楕 円 形	0.67 × 0.54	50.0	縱斜	圓状	自然		SK122
122	G 2 f 2	N-22°-W	楕 円 形	0.85 × 0.60	45.0	外傾	平坦	人為		SK121
124	G 2 f 2	N-80°-W	楕 円 形	1.52 × 0.94	12.0	外傾	平坦	人為		
125	G 2 j 3	N-77°-E	楕 円 形	1.10 × 0.74	47.0	外傾	圓状	自然		
126	G 2 e 3	-	楕 円 形	1.62 × 0.90	35.0	縱斜	平坦	人為		SK130
127	G 2 e 2	N-8°-W	楕 円 形	5.25 × 1.23	25.0	外傾	凹凸	人為		SK126, 128, 129
128	G 2 e 4	N-83°-E	不 整 楕 円 形	(1.40 × 0.51)	18.0	外傾	凹凸	人為		本→SK127
129	G 2 e 3	N-50°-W	不 整 楕 円 形	(1.60) × 1.14	10.0	外傾	平坦	人為		本→SK127
130	G 2 e 3	N-5°-W	楕 円 形	0.66 × 0.50	15.0	縱斜	平坦	自然		SK126
131	G 2 f 3	N-21°-E	楕 円 形	0.88 × 0.65	54.0	縱斜	平坦	自然		
132	G 2 e 3	N-5°-W	楕 円 形	1.90 × 1.11	28.0	外傾	平坦	人為		
133	G 2 e 3	N-80°-E	楕 円 形	1.13 × 0.74	22.0	縱斜	平坦	自然		
134	H 2 a 3	N-74°-E	不 整 楕 円 形	0.89 × 0.57	48.0	外傾	圓状	自然		
135	G 2 c 3	N-12°-W	楕 円 形	(0.99 × 0.95)	10.0	外傾	平坦	自然		
136	G 2 c 3	N-3°-E	楕 円 形	(3.44) × 0.68	40.0	外傾	平坦	自然		計測資料集 39-4
137	G 2 e 2	N-53°-E	楕 円 形	0.80 × 0.61	62.0	外傾	平坦	自然		
139	G 2 d 3	N-80°-E	楕 円 形	1.75 × 1.03	35.0	外傾	平坦	人為		SK119→本→SK140
140	G 2 d 4	N-15°-E	不 整 楕 円 形	1.70 × 1.45	24.0	縱斜	平坦	人為		SK141→SK139→本
141	G 2 d 3	N-90°-E	楕 円 形	0.92 × (0.84)	30.0	縱斜	平坦	人為		本→SK139→SK140
143	G 2 e 4	N-1°-W	[楕 円 形]	1.04 × 0.74	24.0	縱斜	平坦	人為		
144A	G 2 c 2	N-86°-E	楕 円 形	2.57 × (1.00)	20.0	縱斜	平坦	人為		SK269, 262, 144B
144B	G 2 c 2	N-83°-E	楕 円 形	1.15 × 0.68	21.0	縱斜	平坦	人為		SK144A
145	G 2 c 2	N-10°-W	不 整 楕 円 形	2.05 × (1.10)	20.0	縱斜	平坦	人為		
146	G 2 c 2	N-76°-E	不 整 楕 円 形	1.91 × 1.36	15.2	縱斜	平坦	人為		
147	G 2 d 4	N-20°-W	楕 円 形	1.62 × 1.00	17.0	縱斜	平坦	人為		土師質土器片 9, 磁器 1
148	G 2 c 1	N-5°-E	楕 円 形	1.85 × 1.24	30.0	外傾	平坦	人為		
152	G 2 c 2	N-81°-E	楕 円 形	1.88 × 1.28	20.0	縱斜	平坦	人為		
154	G 1 b 0	N-4°-W	楕 円 形	2.87 × 0.85	36.0	縱斜	平坦	自然		
155	G 1 a 9	N-22°-E	不 整 楕 円 形	1.07 × 1.15	16.0	縱斜	平坦	人為		
156	G 2 d 4	N-75°-E	楕 円 形	0.80 × 0.67	32.0	縱斜	平坦	自然		
157	G 2 c 3	N-84°-E	楕 円 形	1.66 × 1.23	34.0	外傾	平坦	自然		SK136, 159, 158
158	G 2 c 3	N-17°-W	楕 円 形	1.47 × 0.82	20.0	縱斜	平坦	自然		SK157, 141
159	G 2 d 3	N-30°-E	楕 円 形	0.92 × 0.83	158.0	縱斜	平坦	人為		SK157, 136
161	G 2 b 1	N-22°-E	楕 円 形	0.92 × 0.82	100.0	外傾	平坦	人為		土師質土器片 3, 磁 1
162	H 2 d 2	N-10°-E	楕 円 形	0.90 × 0.81	50.0	外傾	平坦	人為		SD20→本
163	G 2 d 1	N-80°-E	楕 円 形	3.00 × 1.30	34.0	外傾	平坦	自然		土師質土器片 1
164	G 1 d 8	-	不 整 円 形	0.88 × 0.86	30.0	縱斜	平坦	自然		
165	G 1 d 0	N-89°-E	楕 円 形	1.45 × 1.13	38.0	縱斜	平坦	人為		土師質土器片 2
166	G 1 c 9	N-8°-E	楕 円 形	2.42 × 1.38	15.0	外傾	平坦	人為		SK168
167	G 1 f 9	N-7°-E	楕 円 形	1.57 × 1.32	47.0	縱斜	平坦	人為		SK168→本

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主 要 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(m)					
168	G 1 e9	N-16°-W	不整楕円形	1.38 × 0.98	10.0	外傾	平坦	人為	礎 1	本→SK167
169	G 1 f9	N-3°-E	不整楕円形	2.12 × 1.10	55.0	緩斜	凹凸	人為		SK170→本
170	G 1 f9	N-7°-E	楕 円 形	1.24 × 0.69	34.0	緩斜	凹凸	人為		SK160, 170, SK24A →SK167, 168, SK24
172	G 2 c4	N-76°-W	楕 円 形	1.25 × 0.69	25.0	外傾	平坦	自然		
173	G 2 b2	N-1°-W	楕 円 形	1.25 × 0.85	28.0	緩斜	平坦	自然		
174	G 1 f0	N-1°-E	楕 円 形	1.87 × 1.07	28.0	外傾	平坦	人為		SD24
175	G 1 f8	N-0°-E	不整楕円形	2.10 × 1.66	44.0	外傾	平坦	人為	須原2, 土師質土器片9, 陶器片1	
176	G 1 f8	N-88°-W	不整楕円形	1.38 × 0.90	20.0	外傾	皿状	自然		SK178
177	G 1 b9	N-5°-W	楕 円 形	3.45 × 1.10	24.0	緩斜	平坦	人為		
178	G 1 f7	N-90°-E	不整楕円形	1.65 × (0.75)	30.0	緩斜	平坦	人為		SK176
179	G 1 f7	N-5°-W	不整楕円形	1.80 × 0.70	16.0	外傾	平坦	自然		SK180→本
180	G 1 e8	N-4°-E	楕 円 形	[2.82 × 1.90]	26.0	外傾	平坦	人為		本→SK179
181	G 2 c4	N-83°-E	不整楕円形	1.51 × 1.14	47.0	外傾	平坦	人為		SK182→本
182	G 2 c4	N-60°-E	不 定 形	2.34 × 1.20	11.0	外傾	平坦	自然		SK183, 本→SD6, 田
184	G 2 e9	N-16°-W	楕 円 形	1.12 × 0.84	26.0	緩斜	凹凸	人為		
186	G 2 e1	N-5°-W	楕 円 形	2.08 × 1.14	24.0	緩斜	平坦	自然		SK187
187	G 2 e1	N-10°-W	楕 円 形	1.42 × 0.90	15.0	外傾	平坦	人為	陶器片3	SK186
188	G 2 d1	-	円 形	1.19 × 1.16	22.0	外傾	平坦	人為		SK199
189	G 2 e1	-	円 形	1.45 × [1.40]	30.0	外傾	平坦	人為	土師器17, 不明土製1, 礎	SK188, 191
190	G 2 e1	N-20°-W	楕 円 形	1.67 × [1.11]	42.0	緩斜	平坦	自然		本→SK191
191	G 2 e1	N-30°-W	楕 円 形	1.95 × [0.75]	40.0	外傾	平坦	自然		SK190→本, SK189
193	G 2 d2	N-88°-W	不整楕円形	2.62 × 1.20	13.0	外傾	平坦	人為		SK195
194	G 1 d0	N-5°-E	不 定 形	(1.45) × 1.50	42.0	外傾	皿状	自然	土師質土器片4	SK184, 198
195	G 1 d0	N-20°-W	楕 円 形	1.72 × 0.85	20.0	外傾	平坦	人為		SK197
196	G 2 f0	N-80°-E	不整楕円形	1.40 × 1.10	60.0	外傾	平坦	自然	土師質土器片5, 陶器片2	SK196
197	G 1 e0	N-10°-W	不整楕円形	1.55 × 1.13	78.0	外傾	皿状	自然		SK188, 194, 198
198	G 2 d1	N-5°-E	楕 円 形	2.55 × 0.93	27.0	外傾	平坦	人為		SK197, 188, 184, 195
199	G 2 c1	N-80°-E	楕 円 形	1.70 × (1.07)	18.0	外傾	皿状	自然		SK188
200	G 1 g0	N-1°-E	不 定 形	1.00 × 0.56	28.0	緩斜	平坦	人為		SK210→本→SK201
201	G 1 g1	-	不整楕円形	1.08 × (1.05)	20.0	外傾	平坦	人為	土師器1, 土師質土器片1	SK200→本→SE9
202	G 2 g1	N-80°-E	不整楕円形	3.10 × 1.06	22.0	外傾	皿状	自然	土師器1, 土師質土器片6	4→SE11, SK26, 26, 28
204	G 1 g0	N-77°-E	楕 円 形	1.65 × 1.17	25.0	外傾	凹凸	人為		本→SE9
205	G 2 g1	N-76°-E	不整楕円形	(1.26 × 0.95)	20.0	緩斜	平坦	人為		SK202, 206→本
206	G 2 g1	N-10°-W	楕 円 形	1.15 × 0.85	46.0	緩斜	平坦	自然		SK202, 207→本→205
207	G 2 g1	-	円 形	0.60 × 0.54	63.0	緩斜	平坦	人為		SK206
208	G 2 g1	-	円 形	1.02 × 1.00	20.0	緩斜	皿状	自然		SK202
209	G 2 g1	-	円 形	1.10 × 1.05	24.0	緩斜	平坦	自然		
210	G 1 h0	N-3°-W	楕 円 形	2041 × 0.85	31.0	外傾	平坦	人為		本→SK200
213	G 1 g9	N-89°-W	楕 円 形	1.20 × 0.98	34.0	緩斜	平坦	自然	礎 1	
214	G 1 g9	N-4°-W	不 定 形	2.04 × 1.08	14.0	緩斜	平坦	人為		
215	G 2 a4	N-4°-E	楕 円 形	2.63 × 0.85	10.0	緩斜	平坦	人為		
216	F 2 i5	N-4°-E	楕 円 形	1.70 × 0.80	10.0	緩斜	平坦	人為		
217	G 2 c6	N-5°-E	不 定 形	1.75 × (1.30)	10.0	緩斜	凹凸	人為	土師器2	
219	G 2 c5	-	円 形	1.10 × 1.05	75.0	外傾	凹凸	人為		
220	G 2 a5	N-10°-W	不整楕円形	2.30 × 0.70	12.0	外傾	平坦	人為		
221	F 2 j4	N-5°-W	楕 円 形	3.78 × 0.56	15.0	緩斜	平坦	人為		

土坑 番号	位 置	長 径 方 向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	主 要 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
222	G 2 b4	N-90°-W	楕円形	(1.46)×0.95	22.0	外傾	平坦	人為	土師質土器片 1	SK223→本
223	G 2 b4	N-1°-E	楕円形	1.95×1.48	15.0	緩斜	平坦	人為	土師質土器片 2	本→222
224	G 2 b3	-	方 形	1.02×0.99	15.0	外傾	平坦	人為	土師器 1, 土師質土器片 8	本→SK225
225	G 2 b3	N-5°-E	楕円形	1.85×0.94	19.0	外傾	平坦	人為		SK224, 226→本
226	G 2 b3	N-88°-W	楕円形	(1.30)×1.02	15.0	緩斜	平坦	人為		SK225
227	G 2 b2	N-10°-W	楕円形	1.50×0.85	25.0	外傾	凹凸	人為		
228	G 2 b3	N-4°-E	楕円形	1.55×1.14	16.0	緩斜	平坦	人為	土師質土器片 1	SK239→本
229	G 2 b2	-	円 形	0.93×0.92	11.0	緩斜	平坦	自然		
230	G 2 b2	N-15°-W	楕円形	1.82×0.75	25.0	外傾	平坦	人為		
231	G 2 b2	N-80°-E	楕円形	[1.09]×0.91	10.0	外傾	平坦	人為		
233	G 2 b1	N-30°-W	楕円形	3.01×0.91	35.0	外傾	平坦	人為		
234	G 2 a1	N-75°-E	楕円形	0.59×0.52	22.0	緩斜	平坦	自然		
235	G 2 b4	N-0°	楕円形	2.11×1.20	16.0	緩斜	平坦	人為		SK222
236	G 2 b4	N-5°-E	楕円形	1.53×1.12	14.0	緩斜	平坦	人為	土師質土器片 1, 陶器 2	
237	G 2 a2	N-85°-E	楕円形	2.02×0.91	10.0	緩斜	平坦	人為		第 9 号方形→本
238	G 2 a2	N-17°-W	不整楕円形	4.90×1.05	18.0	緩斜	屈状	自然		SK246, 244→本
239	G 2 a3	N-5°-W	楕円形	(2.23)×1.25	12.0	緩斜	平坦	自然		本→SK228
240	F 2 j1	N-34°-E	楕円形	2.02×1.53	30.0	緩斜	凹凸	人為		本→SK241, 242, 246
241	F 2 j1	N-2°-W	不 定 形	(1.58)×1.30	30.0	緩斜	平坦	自然		SK240→本→SK242
242	F 2 j2	N-89°-E	楕円形	1.56×0.87	28.0	緩斜	平坦	人為		SK240, 241, 246→本
243A	F 2 j2	N-84°-E	楕円形	1.55×1.07	12.0	緩斜	平坦	人為		SK243B→本
243B	F 2 j2	N-71°-E	不 定 形	2.03×1.15	20.0	緩斜	平坦	人為		本→243A, 245AB
244	G 2 a2	N-78°-E	楕円形	0.80×(0.35)	11.0	緩斜	平坦	人為		本→238
245A	F 2 j2	N-6°-E	方 形	1.90×(1.60)	22.0	緩斜	平坦	人為		本, 243B, 245B→238
245B	F 2 j2	N-5°-E	楕円形	(2.16)×1.52	14.0	外傾	平坦	人為		本, 243A, 245A→238
246	G 2 a3	N-82°-E	楕円形	1.57×1.03	8.0	外傾	平坦	人為		本→238
247	F 2 i3	N-5°-W	楕円形	3.78×0.60	90.0	外傾	平坦	人為		
248	G 1 b0	N-10°-W	楕円形	2.05×0.85	56.0	外傾	平坦	人為		
252	F 2 i3	-	円 形	1.08×1.03	20.0	外傾	平坦	自然	土師質土器片 1	
255	G 1 a9	N-10°-W	楕円形	3.18×0.95	12.0	外傾	平沢	自然		
256	G 1 a0	N-10°-W	楕円形	1.83×1.10	12.0	外傾	平坦	自然		
257	F 2 11	N-14°-W	楕円形	[1.17]×0.65	37.0	外傾	平坦	自然	土師質土器片 1	
261	F 2 f3	N-82°-W	楕円形	1.97×1.40	70.0	外傾	平坦	人為	土師質土器片 1, 陶器片 1	SD27
262	G 2 b3	N-0°	不整楕円形	1.94×1.22	13.0	緩斜	平坦	人為		SK144A
263	G 2 c3	N-0°	楕円形	1.26×0.95	18.0	緩斜	平坦	人為		
266	F 2 j2	N-50°-E	楕円形	2.44×2.18	12.0	緩斜	平坦	人為		SK 240, 241→本→SK242, 第 9 号方形
267	G 2 c4	N-85°-W	楕円形	1.72×1.51	6.00	緩斜	平坦	人為		SK268
268	G 2 e4	N-0°	不 整 楕 円 形	1.26×1.17	2.00	緩斜	平坦	自然		SK267
269	G 2 c3	N-81°-E	不整楕円形	1.90×0.65	25.0	緩斜	平坦	人為		SK144A
272	F 2 a8	N-20°-W	楕円形	(2.74)×0.70	38.0	外傾	平坦	自然		SD34
273	E 2 j8	N-88°-W	楕円形	2.00×0.68	45.0	外傾	凹凸	人為		本→SK275
275	E 2 j8	N-5°-W	楕円形	(2.06)×1.07	35.0	外傾	屈状	自然	土師器片 3, 土師質土器片 1	SK273→本→SD34
276	E 2 j9	N-5°-W	楕円形	2.54×0.54	70.0	外傾	平坦	人為		
277	E 2 j8	N-88°-E	楕円形	1.86×0.64	40.0	外傾	平坦	人為		SK26, SK27→4, SK28



土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
278	E 2 J 8	N-0°	楕円形	0.60 × 0.35	50.0	外傾	皿状	自然	土師質土器片 1, 陶器 2	本→SK277
279	E 2 J 8	N-0°	楕円形	1.15 × (0.65)	40.0	外傾	凹凸	人為		本→SK283
280	E 2 J 8	N-88°-E	楕円形	2.05 × (0.78)	60.0	外傾	平坦	人為		SK277, 279, 283
281	E 2 J 8	N-5°-W	楕円形	(0.80) × 0.70	50.0	外傾	平坦	人為		SK282
282	E 2 J 8	N-10°-W	楕円形	2.78 × 0.74	53.0	外傾	平坦	人為		SK279, 281, 283, 278
283	E 2 J 8	N-5°-E	楕円形	1.14 × 0.62	42.0	外傾	平坦	人為		SK279, 280, 282→本
284	H 1 e 9	N-4°-E	不整楕円形	2.57 × 0.85	8.00	外傾	皿状	自然		SK243 B→本
288	F 2 I 3	N-80°-E	楕円形	3.20 × 0.54	20.0	外傾	皿状	自然		SK241, 266, 242
290	G 2 c 1	N-0°	楕円形	1.60 × 0.88	15.0	外傾	平坦	自然	SK291	SK243 B→本, SK291
291	G 2 c 1	N-70°-E	楕円形	2.45 × 1.00	15.0	外傾	平坦	自然	SK290	SK290
292	G 2 f 3	N-95°-E	楕円形	2.22 × 1.00	38.0	外傾	平坦	自然		
294	H 1 d 9	N-10°-E	楕円形	1.05 × 0.75	40.0	外傾	平坦	自然		
295	G 2 j 1	N-75°-W	楕円形	0.93 × 0.72	75.0	外傾	平坦	自然		SE19
307	H 1 e 0	N-10°-E	楕円形	0.95 × 0.84	47.0	外傾	平坦	自然		
300	B 2 h 4	N-25°-E	楕円形	2.50 × 0.67	60.0	外傾	平坦	人為	土師器片 3, 磁器器片 1, 土師質土器片 1	
301	B 2 d 4	-	円形	0.48 × 0.48	50.0	外傾	皿状	自然		
302	B 2 d 5	-	円形	0.61 × 0.61	37.0	外傾	皿状	自然	土師器片 1	
305	B 2 a 7	N-13°-W	楕円形	1.48 × 0.76	20.0	外傾	平坦	人為	土師器片 16, 罎 2, 甕 2, 弥生 2	SI-5→本
307	B 2 a 2	-	円形	0.75 × 0.75	33.0	外傾	平坦	人為		
308	B 1 J 2	-	円形	0.86 × 0.86	56.0	外傾	平坦	人為		

#### (6) 井戸跡

当遺跡からは、井戸跡22基が検出された。以下、遺物が出土した井戸跡について記載し、その他の井戸跡については一覧表にまとめ、実測図を掲載した。

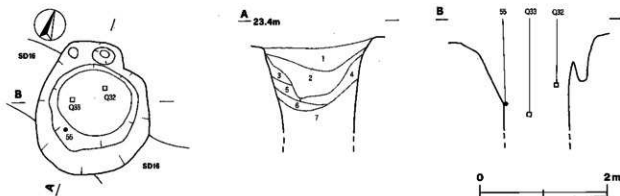
#### 第1号井戸跡(第58図)

位置 調査1区中央部, H 1 h 5 区。

重複関係 本跡が、第16号溝を掘り込んでいるので、第16号溝より新しい。

規模と平面形 長径2.09m, 短径1.80mの楕円形である。下方の平面形は、径1.10mの円形である。断面の形状は長方形状であるが、湧水のため確認面から1.50mまでしか掘り下げられず、底面まで達しなかった。

長径方向 N-15°-W



第58図 第1号井戸跡実測図

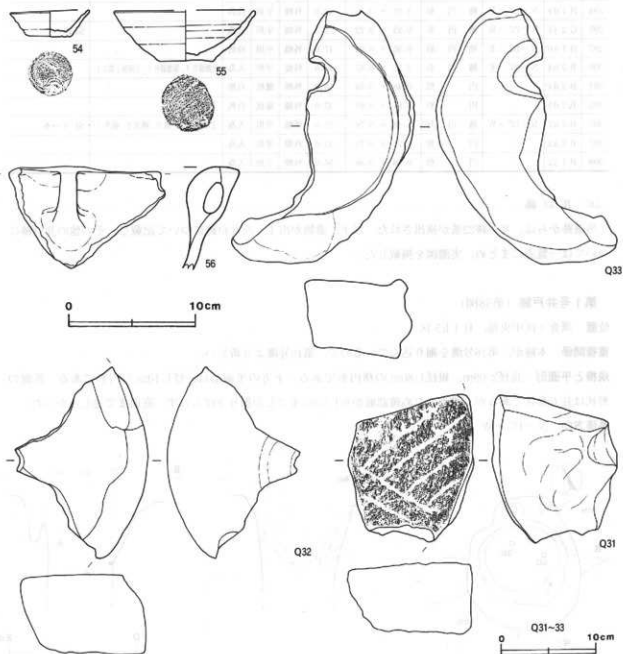
覆土 記録できたのは、確認面から1.50mの深さまでである。堆積状況から見て、人為堆積と思われる。

土層解説

- |   |     |                         |
|---|-----|-------------------------|
| 1 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量    |
| 2 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量    |
| 3 | 褐色  | 焼土小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量    |
| 4 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量   |
| 5 | 褐色  | ローム粒子中量、ローム粒子少量         |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量・ローム小ブロック微量 |
| 7 | 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量   |

遺物 土師質土器片36点、陶器片8点が出土している。第59図54の土師質土器の小皿、56の内耳鍋はそれぞれ覆土中から、55の土師質土器の小皿は、覆土下層から出土している。Q31の石臼は、覆土中から、32・33の石臼は、覆土中層から下層にかけて出土している。

所見 本跡は、北部に存在する中世土壌墓群と関連のある井戸跡と思われる。本跡の時期は、出土遺物から中世後半の15～16世紀と考えられる。



第59図 第1号井戸跡出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第59図 54	小皿 土師質土器	A 6.3	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。体部は薄手で、底部内面が盛り上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面一方のナデ。	長石・雲母 黒褐色 普通	80% 外面灰付着 覆土中
		B 2.1				
		C 3.4				
55	小皿 土師質土器	A [11.1]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部外面一方のナデ。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	70% 覆土下層 16世紀前半
		B 3.9				
		C 4.4				
56	内耳銅土師質土器	B (8.0)	体部から口縁部にかけての破片。内耳1か所残存。器内はやや厚く、口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	5% 外面灰付着 覆土中

図録番号	種別	計測値			品種	分面数	石質	出土地点	備考	
		径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)						重量(g)
Q31	石 白	[27.0]	-	7.4	(1937.8)	下白破片	不明	安山岩	覆土中	PL18
Q32	石 白	[28.0]	-	8.3	(2354.4)	上白破片	不明	安山岩	覆土中層	
Q33	石 白	[29.0]	3.5~5.4	8.3	(3100.9)	上白破片	不明	安山岩	覆上下層	PL18

第3号井戸跡 (第60図)

位置 調査1区中央部, H115区。

規模と平面形 長径0.95m, 短径0.87mの円形である。下方の平面形は、径0.60mの円形である。断面の形状は長方形状であるが、中段で一部位袋状に広がる。湧水のため確認面から1.10mまでしか掘り下げられず、底面まで達しなかった。

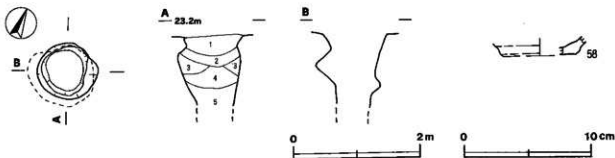
覆土 5層からなる。ローム粒子や炭化粒子を含んでいることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 褐色 ローム大・中ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 褐色 ローム粒子・ローム大・中・小ブロック中量、炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子・ローム中・小ブロック・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物 土師質土器片12点, 陶器1点, 木片1点, 礫6点が出土している。第60図58の土師質土器の小皿は、覆土中から出土している。

所見 本跡は、北側に存在する中世土壌羣と関連のある井戸跡と思われる。本跡の時期は、出土遺物から中世後半の15~16世紀と考えられる。



第60図 第3号井戸跡・出土遺物実測図

第3号井戸跡出土遺物観察表

発掘調査報告書 出雲県 井戸跡

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 58	小皿 土師質土器	B [1.4] C [5.8]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	石灰・スコリア 褐色 普通	5% 覆土中

第7号井戸跡 (第61図)

位置 調査2区南部, H1e0区。

重複関係 本跡は、第8号井戸に掘り込まれているので、第8号井戸より古い。

規模と平面形 長径1.64m, 短径(1.36)mの楕円形である。断面は長方形状で、確認面から1.00mの深さのところから径0.90mにすままる。湧水のため確認面から2.03mまでしか掘り下げられず、底面まで達しなかった。

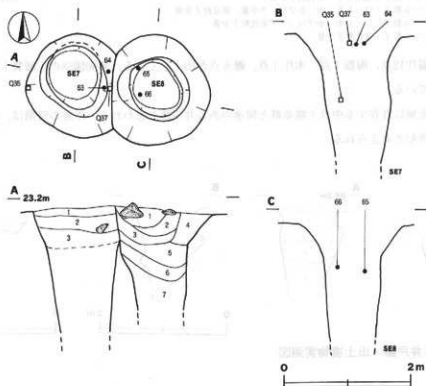
長径方向 N-12°-W

覆土 記録できたのは、確認面から0.60mの深さのところまでである。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

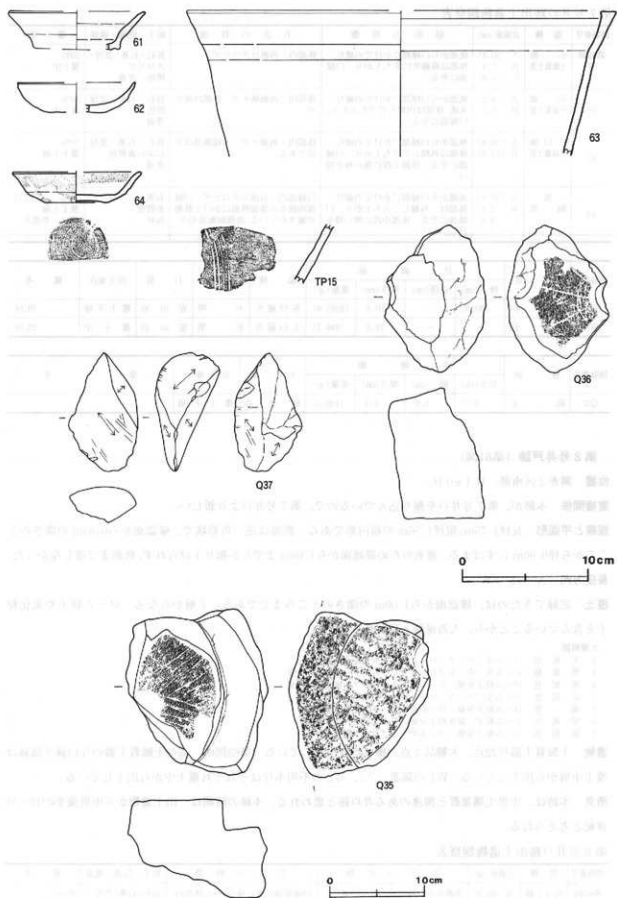
土層解説

- 1 黒褐色 ローム大・小ブロック少量・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム大・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物 土師質土器片119点, 陶器片1点, 石製品10点, 木片1点, 礫20点が出土している。第62図61, 62の土師質土器片の小皿は覆土中から出土している。63の片口鉢と64の瀬戸・美濃系の皿の陶器片は、覆土上層から出土している。TP15の土師質土器の摺鉢は、覆土中から出土し、4条1単位の摺り目がある。Q35の石臼は、覆土下層から、Q36の石臼は、覆土中からそれぞれ出土している。Q37の砥石は、覆土上層から出土している。所見 本跡は、中世土壌墓群と関連のある井戸跡と思われる。本跡の時期は、出土遺物から中世後半の15~16世紀と考えられる。



第61図 第7・8号井戸跡実測図



第62図 第7号井戸跡出土遺物実測図

第7号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 61	小皿 土師質土器	A [10.6] B 3.1 C [ 6.8]	底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	20% 覆土中
62	小皿 土師質土器	A [ 9.2] B 2.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内湾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面横ナデ。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	20% 覆土中
63	片口鉢 土師質土器	A [33.8] B (11.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。体部上段に強い稜を持つ。	体部内・外面ナデ。口縁部は平坦である。	長石・石英・雲母 黄褐色 普通	10% 覆土上層
64	甗 土師質土器	A [10.1] B 2.4 C 4.9	底部から口縁部にかけての破片。体部は、外傾して立ち上がり、口縁部に至る。体部中段に強い稜を持つ。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部内面から体部外面にかけて稜が施されている。底部回転糸切り。	石英 黄褐色 良好	40% PL11 覆土上層 瀬戸・美濃系

図版番号	種別	計測値				品種	分面数	石質	出土地点	備考
		径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
Q35	石 白	[30.0]	-	10.3	(2352.8)	茶白破片	不明	安山岩	覆土下層	PL18
Q36	石 白	-	-	10.3	(946.7)	上白破片	不明	安山岩	覆土中	PL18

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
Q37	紙 石	( 9.5)	5.8	4.0	(140.5)	粘板岩	覆土上層	

第8号井戸跡 (第61図)

位置 調査2区南部, H1e0区。

重複関係 本跡が、第7号井戸を掘り込んでいるので、第7号井戸より新しい。

規模と平面形 長径1.75m, 短径1.56mの楕円形である。断面は逆三角形で、確認面から0.60mの深さのところから径0.90mにすぼまる。湧水のため確認面から1.60mまでしか掘り下げられず、底面まで達しなかった。

長径方向 N-12°-W

覆土 記録できたのは、確認面から1.00mの深さのところまでである。7層からなる。ローム粒子や炭化粒子を含んでいることから、人為堆積と思われる。

土層解説

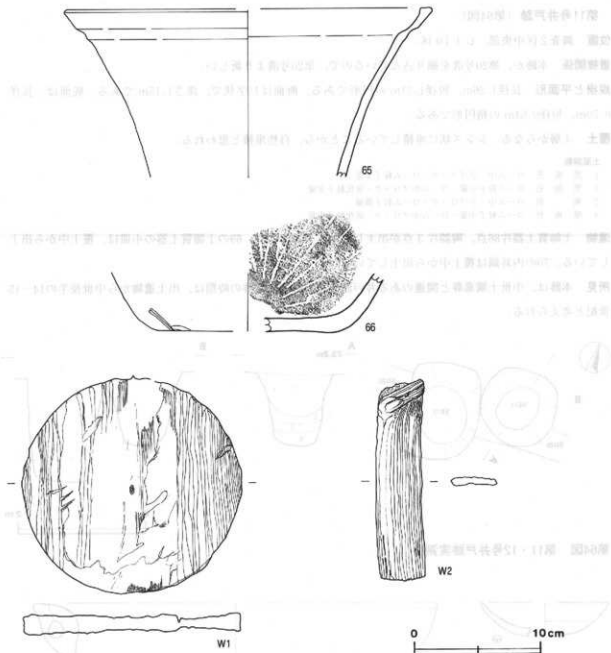
- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子少量、ローム大・小ブロック・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 褐色 ローム粒子少量、ローム大・中・小ブロック微量
- 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量・ローム小ブロック微量
- 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量

遺物 土師質土器片22点, 木製品2点, 漆8点が出土している。第63図65, 66の土師質土器の片口鉢と播鉢は覆土中層から出土している。W1の鍋蓋(?), W2の不明木片はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 本跡は、中世土壌基群と関連のある井戸跡と思われる。本跡の時期は、出土遺物から中世後半の15~16世紀と考えられる。

第8号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 65	片口鉢 土師質土器	A [28.8] B (13.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部部に強い稜を持つ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア に濃い褐色 普通	20% 覆土中層



第63図 第8号井戸跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 65	拵鉢 土師瓦器	B (4.7) C [14.4]	底部から体部にかけての破片。器内は厚く、体部は内押気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部内面に6条1単位の横り目。	粘土・石英・雲母 黒褐色 普通	20% PL11 外面煤付着 覆土中附

図版番号	種別	計測値			出土地点	備	考
		長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
W1	鍋の蓋か	17.1	0.7~1.5	218.0	覆土中	円形状	PL19

図版番号	種別	計測値			出土地点	備	考
		長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
W2	不明木片	(15.7)	0.7	(10.2)	覆土中	長方形状	PL19

### 第11号井戸跡 (第64図)

位置 調査2区中央部, G110区。

重複関係 本跡が, 第20号溝を掘り込んでいるので, 第20号溝より新しい。

規模と平面形 長径1.26m, 短径1.21mの円形である。断面はU字状で, 深さ1.15mである。底面は, 長径0.70m, 短径0.54mの楕円形である。

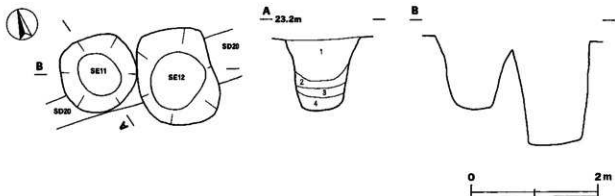
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 土師質土器片86点, 陶器片3点が出土している。第65図68, 69の土師質土器の小皿は, 覆土中から出土している。70の内耳鍋は覆土中から出土している。

所見 本跡は, 中世土城墓群と関連のある井戸跡と思われる。本跡の時期は, 出土遺物から中世後半の14~15世紀と考えられる。



第64図 第11・12号井戸跡実測図



第65図 第11号井戸跡出土遺物実測図

#### 第11号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第65図 68	小皿 土師質土器	A [10.2] B 2.7	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。器内は薄く, 体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	40% 覆土中 14世紀後半
69	小皿 土師質土器	A [9.2] B 2.6	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部外面一方のナデ。底部内面ナデ。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	25% 覆土中 15世紀
70	内耳鍋 土師質土器	A [31.8] B (4.8)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内はやや厚く, 口縁部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け。	長石・石英 灰褐色 普通	5% PL11 外面張り付着 覆土中



### 第12号井戸跡 (第64図)

位置 調査2区中央部, G10区。

重複関係 本跡が, 第20号溝を掘り込んでいるので, 第20号溝より新しい。

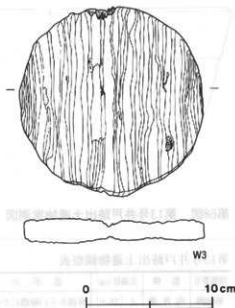
規模と平面形 長径1.52m, 短径1.25mの楕円形である。断面の形状は円筒形である。深さ1.65mである。底面は, 長径0.90m, 短径0.80mの楕円形である。

長径方向 N-9°-W

遺物 木製品1点が出土している。第66図W3の木製品の鍋蓋(?)は, 覆土中から出土している。

所見 本跡は, 中世土壌墓群と関連のある井戸跡と思われる。

本跡の時期は, 中世と考えられる。



第66図 第12号井戸跡出土遺物実測図

### 第12号井戸跡出土木製品観察表

図版番号	器種	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
W3	鍋の蓋か	14.2	1.5~1.9	215.0	覆土中層	円形状 PL19

### 第13号井戸跡 (第67図)

位置 調査2区南部, G2a3区。

規模と平面形 長径1.75m, 短径1.43mの楕円形である。断面の上段は逆三角形形状, 下段は長方形状で, 確認面から0.60mの深さのところから径0.84mにすぼまる。深さ1.90mである。底面は, 長径0.90m, 短径0.80mの楕円形である。

長径方向 N-10°-W

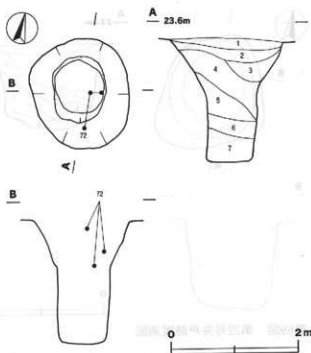
覆土 7層からなる。ローム粒子や炭化粒子を含んでいることから, 人為堆積と思われる。

#### 土層解説

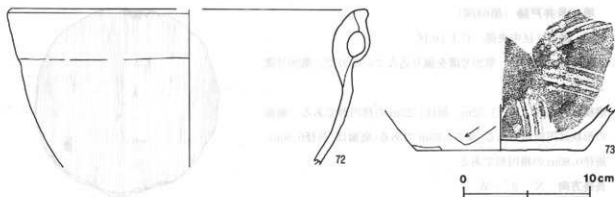
- 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大・小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 褐色 ローム粒子多量, ローム粒子少量・ローム大・中・小ブロック微量
- 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 土師質土器片69点, 石製品1点, 礫6点が出土している。第68図72の土師質土器の内耳鍋は, 覆土上層から中層にかけて出土している。73の土師質土器の播鉢は, 覆土中層から出土している。

所見 本跡は, 中世土壌墓群と関連のある井戸跡と思われる。本跡の時期は, 出土遺物から中世後半の15~16世紀と考えられる。



第67図 第13号井戸跡実測図

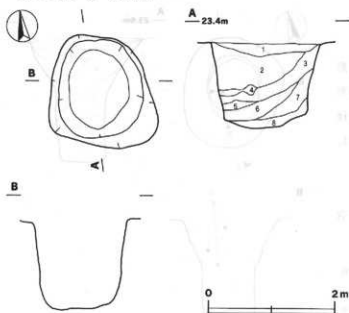


第68図 第13号井戸跡出土遺物実測図

第13号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 72	内耳鍋 土師質土器	A [28.0] B (12.5)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内はやや薄く、 口縁部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳取り付 け。	長石・石英・雲母 にふい濁色 普通	20% 外面灰付着 覆土上層から中層
73	鉢 鉢 土師質土器	B (3.6) C 13.2	底部から体部にかけての破片。体 部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部下端へラ 削り。4条1単位の粗い目目。	長石・石英・雲母 にふい濁色 普通	10% 外面灰付着 覆土中

第22号井戸跡 (第69図)



第69図 第22号井戸跡実測図

- 5 黒褐色 ローム大・中・小ブロック中量、ローム粒子少量  
6 褐色 ローム粒子中量・ローム中・小ブロック・炭化粒子少量  
7 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量  
8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

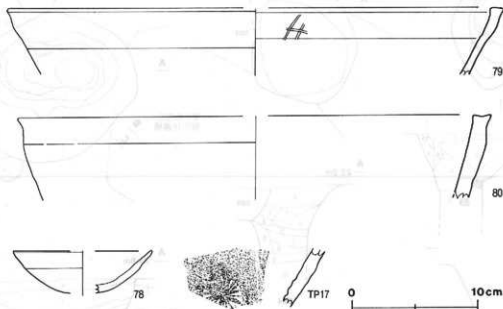
位置 調査2区中央部、G 2 g 2 区。  
規模と平面形 長径2.05m、短径1.76mの  
不整楕円形である。断面形は、U字状であ  
る。深さ1.38mである。底面は、長径1.16m、  
短径0.94mの楕円形である。  
長径方向 N-31°-W  
覆土 8層からなる。ローム粒子や炭化粒  
子を含んでいることから、人為堆積と思わ  
れる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒  
子少量  
2 暗褐色 ローム粒子中量・ローム中ブロッ  
ク・炭化粒子少量  
3 褐色 ローム中・小ブロック中量、ロ  
ーム小ブロック少量  
4 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロッ  
ク・炭化粒子少量

遺物 土師質土器片39点、陶器片13点、礫20点が出土している。第70図78, 79の土師質土器の小皿と内耳鍋は、  
覆土中から出土している。80の常滑の陶器片の鉢は、覆土中から出土している。TP17の土師質土器の火鉢は  
覆土中から出土し、外面に10弁の菊花文が施されている。

所見 本跡は、中世土城墓群と関連のある井戸跡と思われる。本跡の時期は、出土遺物から中世後半の15~16世紀のものと考えられる。



第70図 第22号井戸跡出土遺物実測図

第22号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 78	小皿 土師質土器	A [11.0] B ( 3.3)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底、体部は内壁して立ち上がり、 口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	30% 覆土中
79	内耳鍋 土師質土器	A [39.0] B ( 5.3)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内壁して立ち上がり、口縁 部に至る。口縁端部は平坦である。	体部内・外面ナデ。体部内面に 「キ」の字のヘタ記号が施されて いる。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	50% 覆土中
80	鉢 陶器	A [37.2] B ( 6.5)	体部から口縁部にかけての破片。 口縁端部は平坦で、内側に張り出 し、断面が丁字状になる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	5% 覆土中 常呂系15世紀後半

第2号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・  
焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒  
子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化物極微量

第5号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量、ローム大ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 8 黒褐色 ローム大・小ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量

第9号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微  
量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック少量

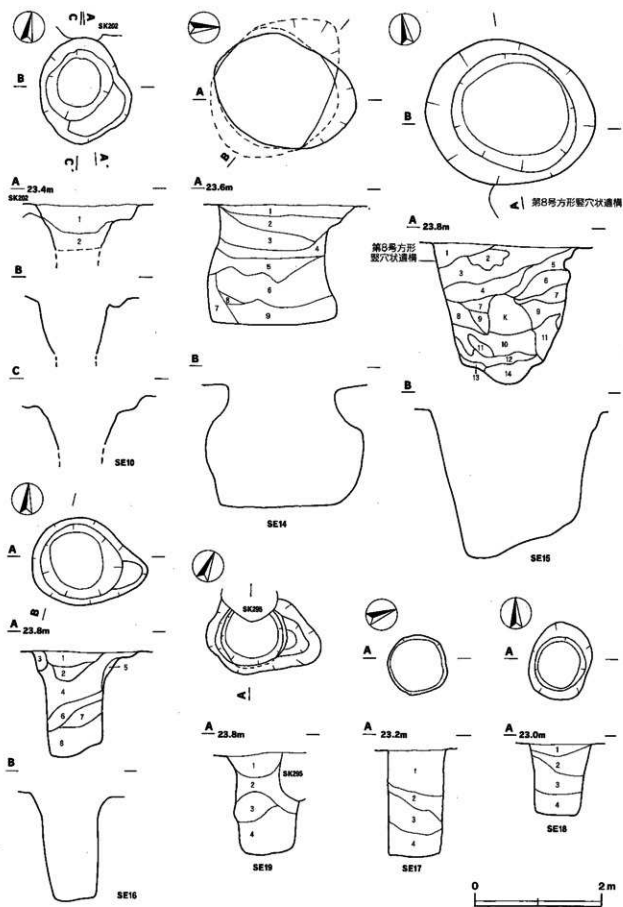
第4号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック中量、  
ローム大ブロック微量
- 7 褐色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

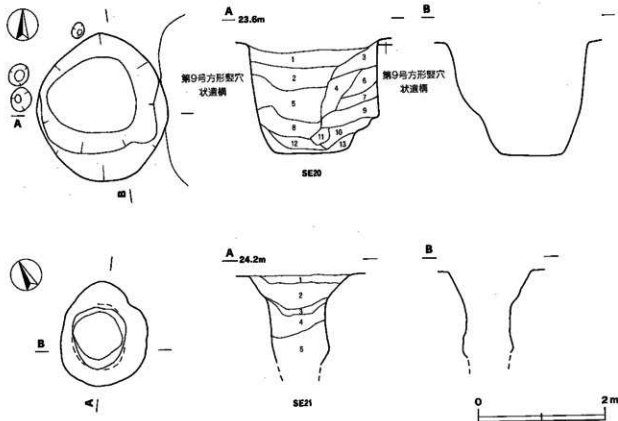
第6号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微  
量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム大・中・小ブロック・炭化粒  
子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微  
量





第72図 井戸跡実測図(2)



第73図 井戸跡実測図(3)

第10号井戸土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック微量

第15号井戸土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量
- 3 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム中・小ブロック多量
- 8 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 10 暗褐色 ローム中・小ブロック少量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量
- 14 黒暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

第17号井戸土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 黒暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第19号井戸土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量

第14号井戸土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム中・小ブロック中量

第16号井戸土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第18号井戸土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

## 第20号井戸跡土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
2	暗褐色	ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子多量
4	暗褐色	ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量
5	暗褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子多量
6	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
7	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
8	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
9	黒褐色	ローム粒子微量
10	暗褐色	ローム小ブロック少量
11	黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
12	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック微量
13	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量

## 第21号井戸跡土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量

表6 中根十三塚遺跡井戸跡一覧表

井戸番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		断面形	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)			
1	H1h5	N-15°-W	楕円形	2.09 × 1.80	(150)	長方形	土師質土器片36, 陶磁器片8, 石臼	SD16→本
2	H1g4	N-32°-W	楕円形	1.86 × 1.30	(140)	長方形		
3	H1i5	-	円形	0.95 × 0.87	(110)	長方形, 袋状	土師質土器片12, 陶磁器片1, 木釘1, 骨6	
4	I1a9	N-38°-E	不整形楕円形	2.15 × 1.65	(125)	円筒形	土師質土器片	本→SD5
5	H2d1	N-15°-E	楕円形	1.35 × 1.11	(163)	袋状	木片	
6	G1c0	N-55°-W	楕円形	2.66 × 2.25	228	円筒形	土師質土器片, 陶磁器片	※1:1935埋没状態→本
7	H1e0	N-12°-W	楕円形	1.64 × 1.36	(203)	長方形	土師質土器片13, 陶磁器片1, 石製土釘1, 骨2	本→SE8
8	H1e0	N-12°-E	楕円形	1.75 × 1.60	(160)	逆三角形	土師質土器片22, 木片2, 骨8	SE7→本
9	G1g0	N-85°-E	楕円形	1.37 × 1.10	(180)	円筒形	土師質土器片	SK201, 204→本
10	G2g1	N-48°-W	不定形	1.50 × 1.35	(100)	円筒形	土師質土器片	SK202→本
11	G1i0	-	円形	1.26 × 1.21	115	円筒形	土師質土器片3, 陶磁器片	SD20→本
12	G1i0	N-9°-W	楕円形	1.52 × 1.25	165	円筒形	木片1	SD20→本
13	G2a3	N-10°-W	楕円形	1.75 × 1.43	190	逆三角形, 長方形	土師質土器片69, 石臼1, 骨6	SD20→本
14	G2b4	N-19°-W	楕円形	2.33 × 1.77	190	袋状		
15	G1a0	N-48°-W	楕円形	2.66 × 2.27	232	逆台形	土師質土器片, 陶磁器片	※1:1935埋没状態→本
16	F1j0	N-89°-E	不定形	1.83 × 1.35	172	円筒形		
17	F1i0	-	円形	0.94 × 0.93	163	円筒形		
18	H1d0	N-20°-E	楕円形	1.20 × 0.91	112	円筒形		
19	G2j1	N-79°-E	不定形	1.42 × 1.40	160	円筒形		本→SK295
20	G2a1	N-0°	楕円形	2.30 × 2.07	182	逆台形	土師質土器片, 陶磁器片	※1:9号穴状遺構→本
21	C2f3	N-40°-E	楕円形	1.61 × 1.35	(144)	袋状		
22	G2g2	N-31°-W	不整形楕円形	2.05 × 1.76	138	U字状	土師質土器片39, 陶磁器片13, 骨20	

## (7) 溝

当遺跡からは、溝38条が検出された。これらの中には、覆土の状態から中世及び中世以降(近世)と思えるものがいくつかある。ここでは、遺物が多数出土した中世の溝について記載し、その他は一覧表にまとめ、遺構全体図に掲載した。

第1号溝 (第75・76図)

位置 調査1, 2区南東部, I1a0~I1f3区。

重複関係 本跡が, 第2, 3, 7, 8号溝を掘り込んでいるので, 第2, 3, 7, 8号溝より新しい。

規模と形状 上幅1.70~2.20m, 下幅0.2m~0.7m, 深さ0.40m~1.00mの箱型溝の溝で, 確認長は47.1mである。

方向 I1a0区から南北(N-80°-E)に直線的に20.0m延び, I1b2区で直角に東側に曲がる。

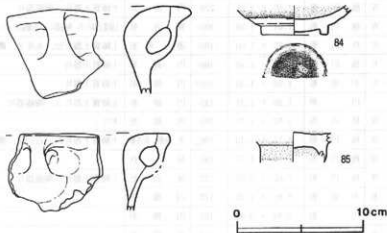
覆土 8層からなる。ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土がレンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 砂粒微量

遺物 土師質土器片265点, 陶磁器片30点, 礫15点が出土している。第74図81, 82の土師質土器の内耳鍋は, 南部の覆土中から出土している。84, 85の瀬戸・美濃系の碗の高台部は, 直角に曲がる西側コーナー部の覆土中から出土している。

所見 本跡は, 中世の土壌墓群と関連する溝と思われる。出土遺物などから, 中世の15世紀前後と思われる。

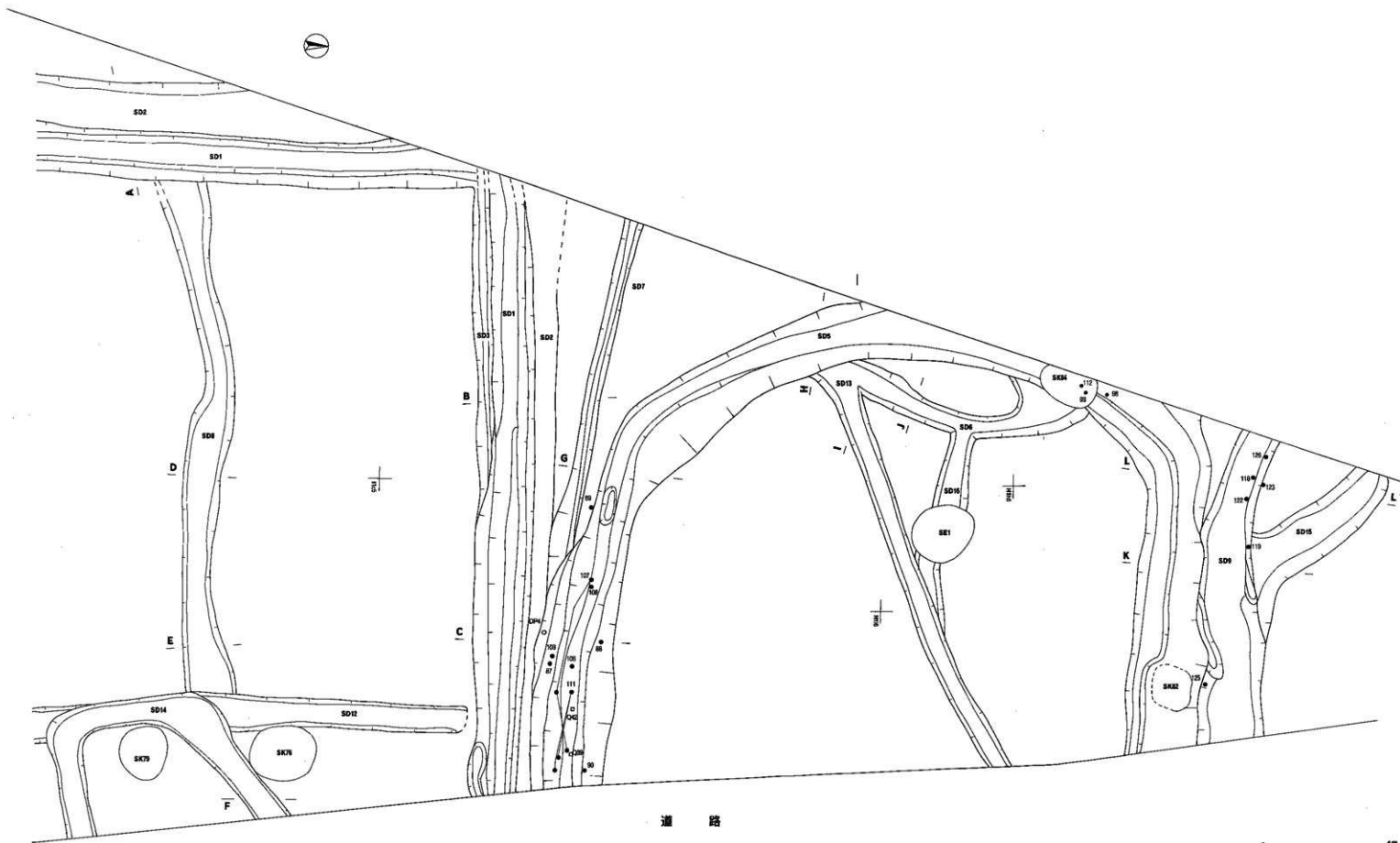


第74図 第1号溝出土遺物実測図

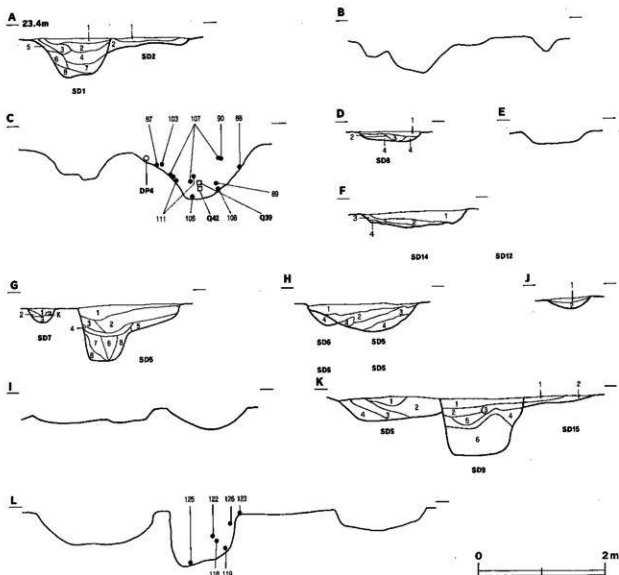
第1号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第74図 81	内耳鍋 土師質土器	B (6.9)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内はやや薄く, 縁部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付 け口。	長石・石英・雲母・ スコリア にふい褐色 普通	5% PL11 外面横ナデ着 南部覆土中
82	内耳鍋 土師質土器	B (6.0)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内はやや薄く, 口縁部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部 一部摩滅。耳貼り付け。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	5% 外面横ナデ着 南部覆土中
84	丸碗 陶器	B (2.4) D 5.4 E (1.7)	高台部から体部にかけての破片。 体部は, 内押しで立ち上がる。	高台部から体部にかけて, 鉄軸が 施されている。底部回転糸切り。 高台部削り出し。	長石 にふい黄褐色 良好	10% PL11 覆土中 瀬戸・美濃系
85	志野丸碗 陶器	B [2.4]	高台部から体部にかけての破片。	高台部から体部にかけて, 灰釉が 施されている。	長石 灰黄色 良好	10% PL11 覆土中 瀬戸・美濃系





第75图 第1~3·5~9·13~15号清淤测图(1)



第76図 第1～3・5～9・13～15号溝実測図(2)

### 第5号溝 (第75・76図)

位置 調査1, 2区中央部, H1f6～I1a0区。

重複関係 本跡が, 第6, 9, 13号溝を掘り込んでいるので, 第6, 9, 13号溝より新しい。第7号溝, 第22・84号土坑とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

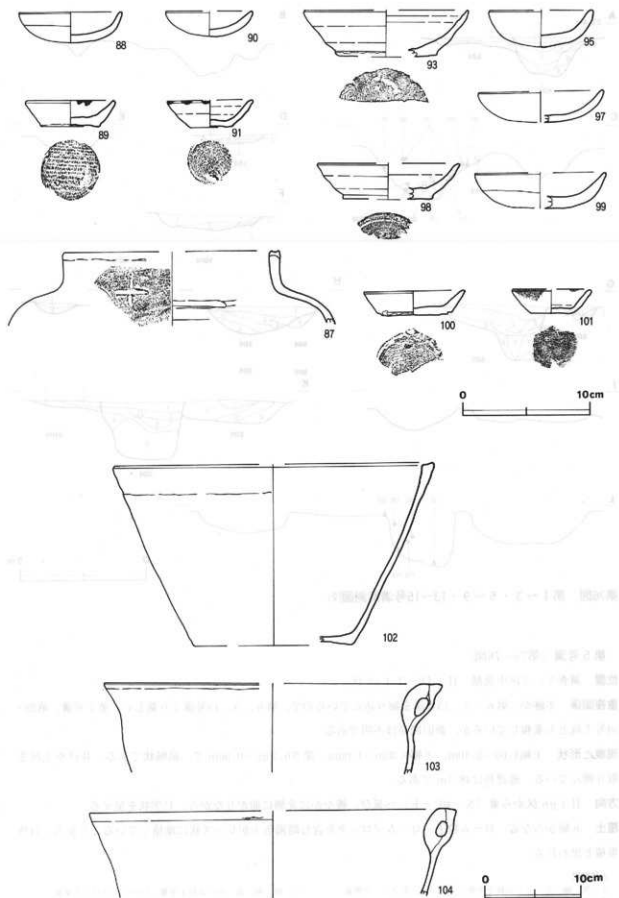
規模と形状 上幅1.60～2.40m, 下幅0.30m～1.00m, 深さ0.30m～0.90mで, 箱型である。井戸や土坑を取り囲んでいる。確認長は48.5mである。

方向 H1g6区から東(N-40°-E)へ延び, 緩やかに北側に曲がりながら, U字状を呈する。

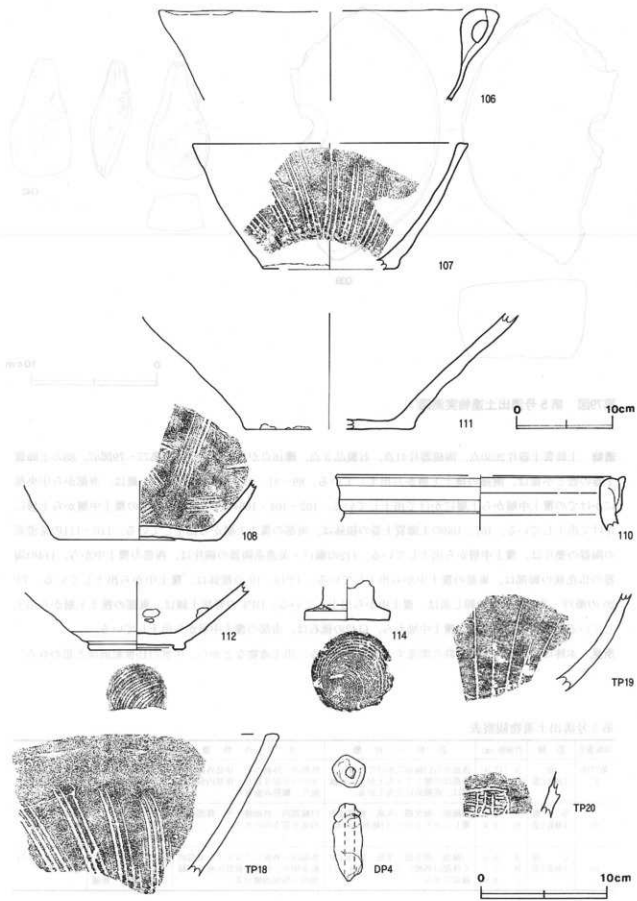
覆土 8層からなる。ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土がレンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

#### 土層解説

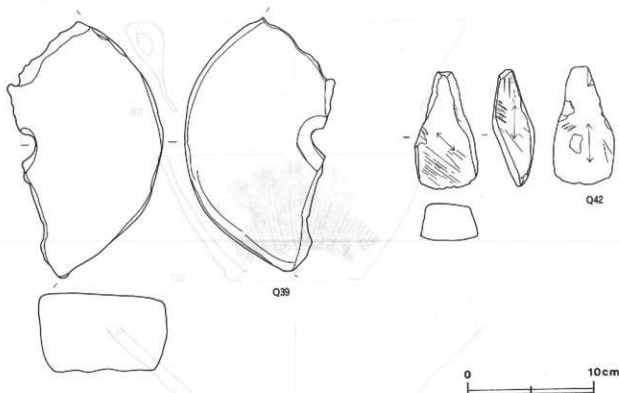
- |       |                       |       |                     |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム大・小ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量      | 6 暗褐色 | ローム大・小ブロック・ローム粒子少量  |
| 3 褐色  | ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量  | 7 暗褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子少量  |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量    |



第77图 第5号溝出土遺物実測図(1)



第78图 第5号满出土遗物实测图(2)



第79図 第5号溝出土遺物実測図(3)

遺物 土師質土器片2030点、陶磁器片41点、石製品3点、礫16点が出土している。第77～79図87、88の土師質土器の壺と小皿は、南部の覆土上層から出土している。89～91・93・95・97～101の小皿は、南部から中央部にかけての覆土中層から上層にかけて出土している。102～104・106の内耳鍋は、南部の覆土中層から上層にかけて出土している。107、108の土師質土器の搗鉢は、南部の覆土上層から出土している。110・111の常滑系の陶器の甕片は、覆土中層から出土している。112の瀬戸・美濃系陶器の碗片は、西部の覆土中から、114の陶器の仏花瓶の脚部は、東部の覆土中から出土している。TP18、19の搗鉢は、覆土中から出土している。TP20の瀬戸・美濃系陶器の卸し皿は、覆土中から出土している。DP4の管状土鍾は、東部の覆土上層から出土している。Q39の石臼は東部覆土中層から、Q42の砥石は、南部の覆土中層から出土している。

所見 本跡は、中世の土壌墓群と関連する溝と思われる。出土遺物などから、中世の15世紀前後と思われる。

第5号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 87	壺 土師質土器	A [7.0]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり、口縁部は、直線的に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面「十」字のへう記号有り。体部内面へう削り。輪積み痕有り。	長石・石英・雲母にぶい赤褐色 普通	5% PL12 南部覆土上層
		B (5.8)				
88	小皿 土師質土器	A 8.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面不定方向のナデ。	雲母・スコリア 褐色 普通	90% PL11 南部覆土上層
		B 2.5				
89	小皿 土師質土器	A 6.9	口縁部一部欠損。平底。器内は厚く体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面クロコナデ。底部回転余切り。底部に板状圧痕。口縁部内・外面油離付着。	長石・雲母・スコリアにぶい褐色 普通	90% PL11 覆土中層
		B 2.1				
		C 4.6				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 90	小 皿 土師質土器	A [ 6.8 ] B 2.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部内面 不定方向のナデ。	石英・雲母・スコ リア 褐色 普通	60% 覆土中層
91	小 皿 土師質土器	A [ 6.8 ] B 2.1 C 3.3	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部に至る。	体部内・外面クロコナデ。底部内 面ナデ後、ヘツ削り。底部回転糸 切り。口縁部外面に漆塗付着。	長石・石英 灰白色 普通	40% 覆土中層
93	小 皿 土師質土器	A [ 13.0 ] B 3.7 C [ 8.0 ]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。器内は厚く、体部は内彎し て立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面クロコナデ。底部内 面不定方向のナデ。底部回転糸切 り。	雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	50% 覆土中層
95	小 皿 土師質土器	A [ 8.0 ] B 2.8	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。器内は厚く、体部は内彎し て立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部内面 一方のナデ。底部外面ナデ。	石英・雲母 暗灰黄色 普通	20% 内外面漆付着 覆土中層
97	小 皿 土師質土器	A [ 9.8 ] B 2.4	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。器内はやや厚く、体部は内 彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部内面 一方のナデ。	長石・石英・雲母 黄褐色 普通	20% 内外面漆付着 覆土中層
98	小 皿 土師質土器	A [ 11.1 ] B 2.8 C [ 7.0 ]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。器内は厚く、体部は内彎し て立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面クロコナデ。体部 内面ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 スコリア にぶい黄褐色 普通	20% 覆土中層
99	小 皿 土師質土器	A [ 10.2 ] B 2.8	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。器内は厚く、体部は内彎し て立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部内面 不定方向のナデ。	石英・雲母 褐色 普通	30% 覆土中層
100	小 皿 土師質土器	A 8.0 B 1.8 C, 5.2	底部から口縁部にかけての破片。 平底。器内は厚く、体部は内彎し て立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面クロコナデ。底部内 面不定方向のナデ。底部回転糸切 り。	長石・雲母・スコ リア にぶい褐色 普通	50% 覆土中層
101	小 皿 土師質土器	A [ 6.2 ] B 1.9 C 3.2	底部から口縁部にかけての破片。 平底。器内はやや薄く、体部は内 彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面クロコナデ。体部 内面ナデ。底部回転糸切り。口縁 部外面に漆塗付着。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	20% 覆土中層
102	内 耳 罎 土師質土器	A [ 33.5 ] B 19.1 C [ 16.9 ]	底部から口縁部にかけての破片。 器内は薄い。体部は直線的に外傾 して立ち上がり、口縁部に至る。 口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	5% 外面漆付着 覆土中層
103	内 耳 罎 土師質土器	A [ 35.8 ] B ( 9.4 )	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。体部から口縁部 にかけてやや内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付 け。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	5% 外面漆付着 覆土中層
104	内 耳 罎 土師質土器	A [ 39.0 ] B ( 9.1 )	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。体部から口縁部 にかけてやや内彎して立ち上 がる。	口縁部内・外面横ナデ。口縁端部 は平坦。耳貼り付け。輪轆み痕有 り。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	5% 外面漆付着 覆土中層
第78図 106	内 耳 罎 土師質土器	A [ 36.1 ] B ( 9.5 )	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内は厚く、体 部から口縁部にかけてやや内彎し て立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。口縁端部 は平坦。耳貼り付け。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	20% 外面漆付着 覆土中層
107	摺 鉢 土師質土器	A 28.9 B 13.3 C [ 13.8 ]	底部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり、口縁 部に至る。	体部外面ナデ。口縁端部ナデ。体 部内面に4条1単位の摺り目。	石英・礫 赤褐色 普通	20% 覆土上層
108	摺 鉢 土師質土器	B ( 4.7 ) C 12.6	底部から口縁部にかけての破片。 体部は直線的に立ち上がる。	体部外面ナデ。体部内面に5条1 単位の摺り目。	石英・雲母・スコ リア にぶい黄褐色 普通	5% 覆土上層
110	壺 陶 器	A [ 23.0 ] B ( 4.2 )	体部から口縁部にかけての破片。 幅の狭い粘土帯が口縁部に至る。	口縁部内・外面ナデ。口縁端部ナ デ。	長石・石英・砂粒 灰赤色 良好	20% 覆土中層 常滑系土紀後半
111	壺 陶 器	B ( 12.3 ) C [ 18.0 ]	底部から体部にかけての破片。器 内は厚く、体部は外傾して立ち上 がる。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・砂粒 赤褐色 良好	30% 常滑系 覆土中層
112	碗 陶 器	B ( 5.3 ) D 7.6 E 0.5	高台部から体部にかけての破片。 体部は外傾して、立ち上がる。	体部外面クロコナデ。見込みに灰 釉が施されている。見込みに砂目 痕有り。高台削り出し。底部回転 糸切り。	石英 淡黄色 良好	5% 覆土中 瀬戸・美濃系
114	仏 花 瓶 陶 器	B ( 3.2 ) C 6.6	脚部破片。脚部は直線的に立ち上 がる。	脚部内・外面クロコナデ。脚部に 銅線輪が施されている。底部回転 糸切り。	石英 灰白色 良好	5% 覆土中 瀬戸・美濃系

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第76図DP4	管状土鉢	6.0	2.4	0.7~0.9	27.2	東部覆土上層	100% PL17

図版番号	器種	計測値				品種	分割数	石質	出土地点	備考
		径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
第79図Q29	石臼	[28.0]	2.5~6.0	9.1	(4700.9)	下白破片	不	明安山岩	東部覆土中層	PL19

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q42	砥石	9.8	4.9	3.1	(130.6)	粘板岩	覆土中	PL19

### 第8号溝 (第75・76図)

位置 調査1区南部, I1d2~H1d6区。

重複関係 本跡は, 第1, 12, 14号溝に掘り込まれているので, 第1, 12, 14号溝より古い。

規模と形状 上幅0.90~1.60m, 下幅0.40m~1.40m, 深さ0.15m~0.20mで, 箱庭状である。確認長は16.8mである。

方向 I1d2区から東(N-90°-E)に直線的に延びる。

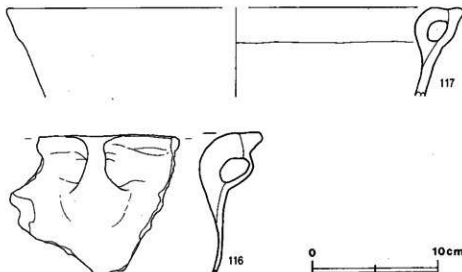
覆土 4層からなる。ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土がレンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師質土器片13点, 礫2点が出土している。第80図116, 117の土師質土器の内耳鍋は, 南部の覆土中から出土している。

所見 本跡は, 中世の土墳墓群と関連する溝と思われる。出土遺物などから, 中世の15世紀前後と思われる。



第80図 第8号溝出土遺物実測図

第8号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 116	内耳銅 土師質土器	B (11.1)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内は薄く、口 縁部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付 け口縁部ナデ。耳部縦方向のナ デ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	5% 外面帯付着 南部覆土中
117	内耳銅 土師質土器	A [35.5] B (7.0)	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。器内は薄く、口 縁部は平坦である。	口縁部内・外面ナデ。耳貼り付け。 口縁部ナデ。耳部縦方向のナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	5% 外面帯付着 覆土中

第9号溝 (第75・76図)

位置 調査1区北部, H1f4~H1f7区。

重複関係 本跡が、第5・15号溝を掘り込んでいるので、第5・15号溝より新しい。

規模と形状 上幅1.30~2.10m, 下幅0.75m~1.40m, 深さ0.20m~0.45mのU字状の溝で、確認長は10.8mである。

方向 H1f4区から東(N-80°-E)に直線的に延びる。

覆土 6層からなる。ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

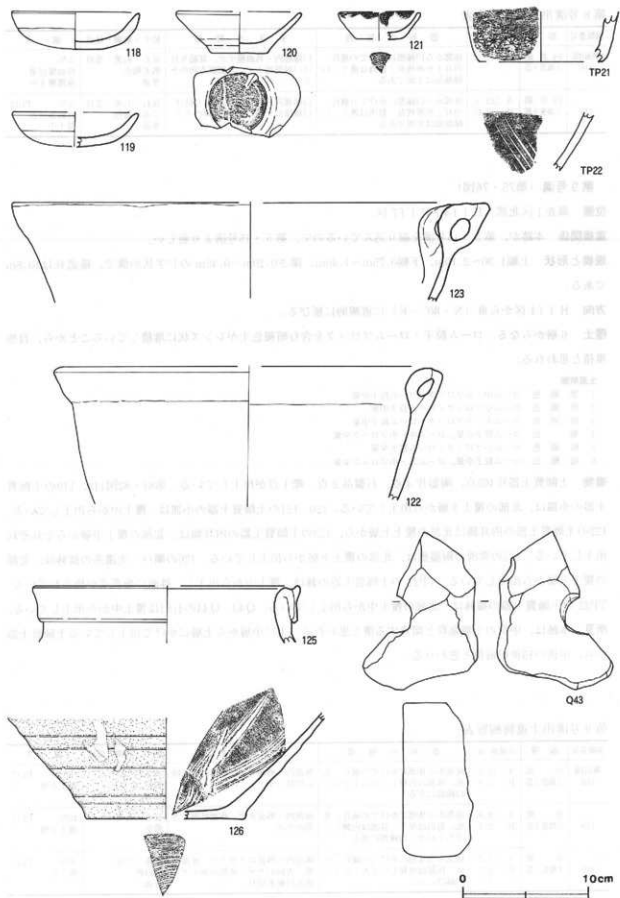
- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム大・小ブロック・ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大・小ブロック少量

遺物 土師質土器片465点, 陶器片4点, 石製品2点, 礫1点が出土している。第81・82図118, 119の土師質土器の小皿は、北部の覆土下層から出土している。120, 121の土師質土器の小皿は、覆土中から出土している。122の土師質土器の内耳鍋は北部の覆土上層から、123の土師質土器の内耳鍋は、北部の覆土中層からそれぞれ出土している。125の常滑の陶器甕は、北部の覆土下層から出土している。126の瀬戸・美濃系の播鉢は、北部の覆土上層から出土している。TP21の土師質土器の鉢は、覆土中から出土し、外面に菊花文が施されている。TP22の土師質土器の播鉢は、北部の覆土中から出土している。Q43, Q44の石臼は覆土中から出土している。所見 本跡は、中世の土壌基群と関連する溝と思われる。主に中層から上層にかけて出土している土師質土器から、中世の15世紀前後と思われる。

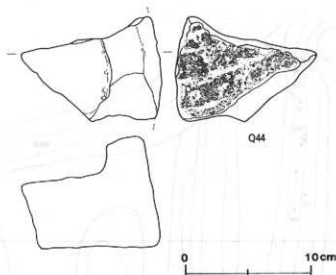
第9号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 118	小皿 土師質土器	A 10.0 B 3.0	底部から体部にかけての破片。丸 底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。底部内面に同 心円状のナデ。	石英・スコリア 橙褐色 普通	100% 覆土下層
119	小皿 土師質土器	A [9.8] B 2.7	底部から体部にかけての破片。丸 底。器内は厚く、体部は内彎して 立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部外面一 方向のナデ。	長石・石英 橙褐色 普通	40% 覆土下層
120	小皿 土師質土器	A [9.7] B 3.3 C 4.7	底部から体部にかけての破片。平 底。体部は外彎して立ち上がり、 口縁部に至る。	体部内・外面口ロナデ。体部外 面一方向のナデ。底部内面ナデ。 底部回転糸切り。	石英・雲母 灰白色 普通	50% 覆土中





第81图 第9号溝出土遺物実測図(1)



第82図 第9号溝出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 121	小 皿 土師質土器	A [ 6.2] B 2.2 C [ 3.5]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して緩やかに立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石 灰白色 普通	30% 覆土中
122	内 耳 鍋 土師質土器	A [30.8] B (10.4)	体部から口縁部にかけての破片。内耳1か所残存。器内はやや厚く、口縁部はやや外傾に傾いている。	口縁部内・外面横ナデ。耳部一部指ナデ。耳貼り付け。	長石・雲母・スコリア にふい橙色 普通	5% 外面煤付着 覆土中層
123	内 耳 鍋 土師質土器	A [37.8] B (7.8)	体部から口縁部にかけての破片。内耳2か所残存。器内は薄く、口縁部はやや凹凸がある。	体部内・外面ナデ。耳部ナデ。耳貼り付け。	長石・石英・雲母 にふい橙色 普通	10% 外面煤付着 覆土上層
125	甕 陶 器	A [21.0] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。幅の狭い粘土帯が高る断面N字状の口縁である。	口縁部内・外面ナデ。口縁端部ナデ。	長石・石英・砂粒 灰褐色 良好	5% 覆上下層 常滑系15世紀後半
126	播 鉢 陶 器	B (8.4) C [12.6]	底部から体部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面に3条1単位の揃り目。内・外面に釉が施されている。底部回転糸切り。	長石・石英・砂粒 にふい赤褐色 良好	5% 覆土上層 瀬戸・美濃系

図版番号	器種	計 測 値				品 種	分 割 数	石 質	出土地点	備 考
		径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
Q43	石 臼	-	3.8	12.2	(922.3)	下白磁片	不 明	安 山 岩	覆 土 中	
第82図Q44	石 臼	-	-	8.8	(699.6)	上白磁片	不 明	安 山 岩	覆 土 中	PL18

### 第19号溝 (第83図)

位置 調査2区中央部、G 2 j2~H 2 e2区。

重複関係 本跡が、第20号溝を掘り込んでいるので、第20号溝より新しい。第21、23号溝とも重複しているが、新旧関係は不明である。

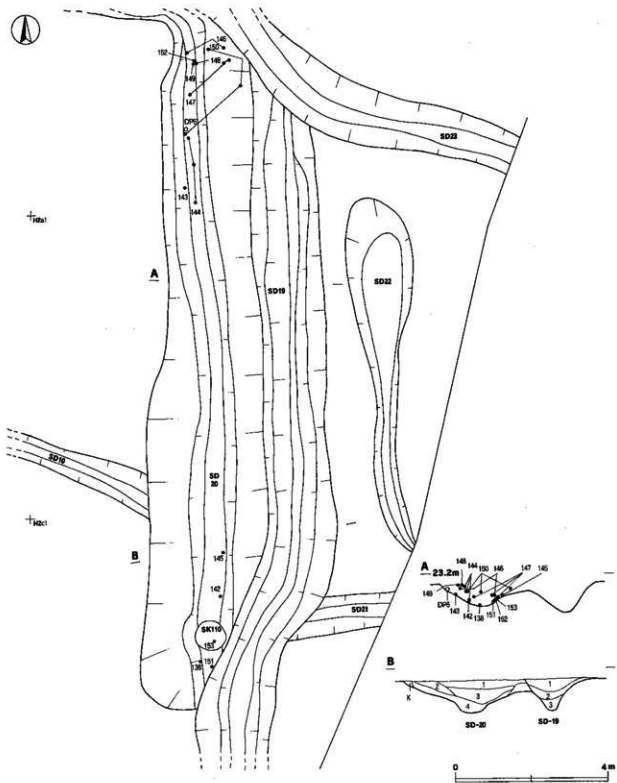
規模と形状 上幅1.40~2.05m、下幅0.10m~0.55m、深さ0.50m~0.85mで、箱状である。確認長は25.2mである。

方向 H 2 e2区から北(N-0°-E)に直線的に延びる。

覆土 3層からなる。ローム粒子・ロームブロックを含む黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

#### 土層解説

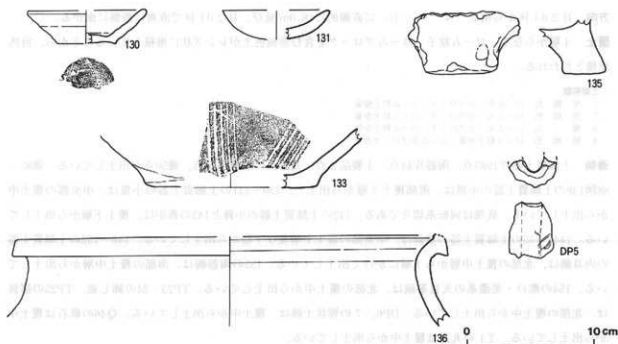
- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子微量 3 菊 色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量  
2 黒褐色 ローム大・小ブロック・ローム粒子少量



第83図 第19・20号溝実測図

遺物 土師質土器片397点，陶器片5点，須恵製の鍬1点，礫17点が出土している。第84図130，131の土師質土器の小皿は，南部の覆土中から出土している。133の播鉢は，南部の覆土中から出土している。135の土師質土器の火舎の脚部は，中央部の覆土中から出土している。136の常滑の陶器甕は，中央部の覆土中から出土している。DP5の陶鍬は北部の覆土中から出土している。

所見 本跡は，出土遺物などから，中世の13～14世紀と思われる。



第84図 第19号溝出土遺物実測図

第19号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第84図 130	小皿 土師質土器	A [ 9.4] B 2.7 C [ 4.6]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。器内は厚く、体部は直線的 に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回 転糸切り。	石英・スコリア 黄褐色 普通	40% 覆土中
131	小皿 土師質土器	A 8.4 B ( 2.1)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。器内は厚く、体部は内彎し て立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部内面ナデ。	長石・石英・スコ リア 褐色 普通	20% 覆土中
133	鍔鉢 土師質土器	B ( 4.8) C [13.8]	底部から体部にかけての破片。体 部は外傾して直線的に立ち上 がる。	体部外面ナデ。体部内面に5条1 單位の掘り目。体部下邊ナデ。	石英・雲母・スコ リア 褐色 普通	10% PL13 南部覆土中
135	火舎 土師質土器	B ( 4.4)	脚部片。	脚部内・外面ナデ。体部外面に指 頭押圧有り。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	5% PL13 南部覆土中
136	甕 陶器	A [34.0] B ( 7.0)	体部から口縁部にかけての破片。 幅の狭い粘土帯が巡る断面N字状 の口縁である。	口縁部内・外面ナデ。口縁端部 の一部砥石に転用。	長石・砂粒 にふい赤褐色 良好	5% PL13 中央部覆土中 常滑系13世紀前半

図版番号	器種	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
DP5	陶 鉢	4.4	3.4	1.3~1.5	26.6	北部覆土中	

第20号溝 (第83図)

位置 調査2区中央部、G1j8~H2d1区。

重複関係 本跡が、第10号溝を掘り込み、第19号溝に掘り込まれているので、第10号溝より古く、第19号溝より新しい。第23号溝とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 上幅0.90~3.20m、下幅0.20m~0.40m、深さ0.20m~0.85mで、箱塚状である。確認長は33.0mである。

方向 H 2 d 1 区から南北 (N - 6° - E) に直線的に18.0m 延び、H 2 d 1 区で直角に西側に曲がる。

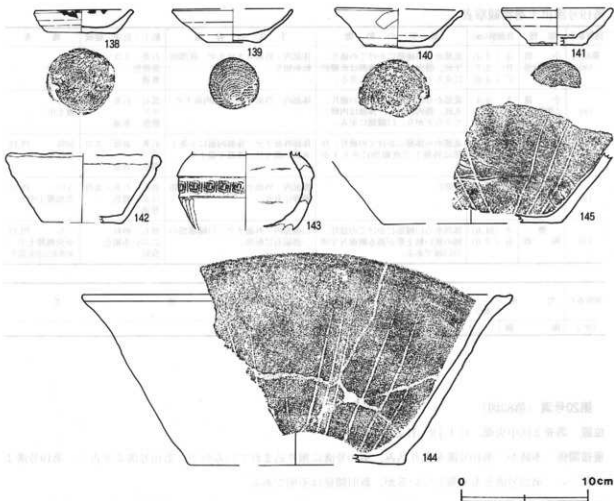
覆土 4層からなる。ローム粒子・ロームブロックを含む黒褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

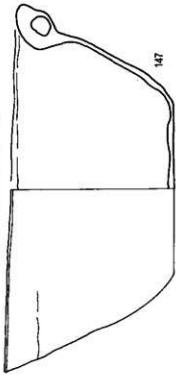
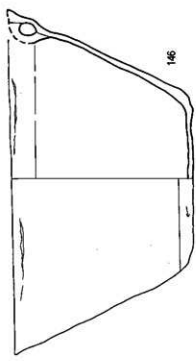
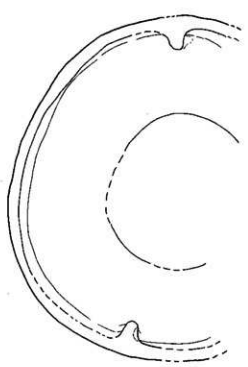
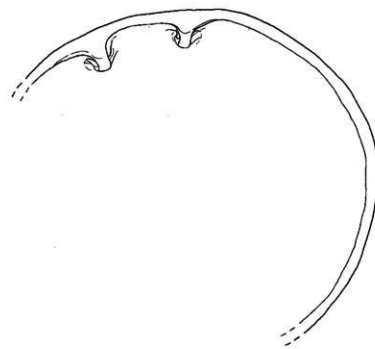
- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 土師質土器片1983点、陶器片44点、土製品2点、瓦1点、石製品2点、礫50点が出土している。第85～88図138の土師質土器の小皿は、南部覆土下層から出土し、139～141の土師質土器の小皿は、中央部の覆土中から出土している。底部は回転糸切りである。142の土師質土器の小鉢と143の香炉は、覆土下層から出土している。144、145の土師質土器の描鉢は、中央部の覆土上層及び下層から出土している。146～152の土師質土器の内耳鍋は、北部の覆土中層から下層にかけて出土している。153の陶器碗は、南部の覆土中層から出土している。154の瀬戸・美濃系の天目茶碗は、北部の覆土中から出土している。TP23・24の卸し皿、TP25の描鉢は、北部の覆土中から出土している。DP6、7の管状土錘は、覆土中から出土している。Q46の紙石は覆土中から出土している。T1の丸瓦は覆土中から出土している。

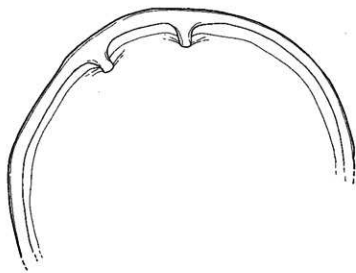
所見 本跡は、中世の土壌墓群と関連する溝と思われる。出土遺物などから、中世の16世紀前後と思われる。



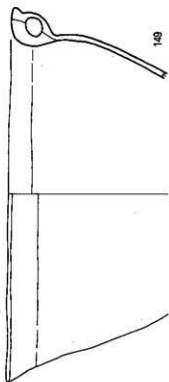
第85図 第20号溝出土遺物実測図(1)



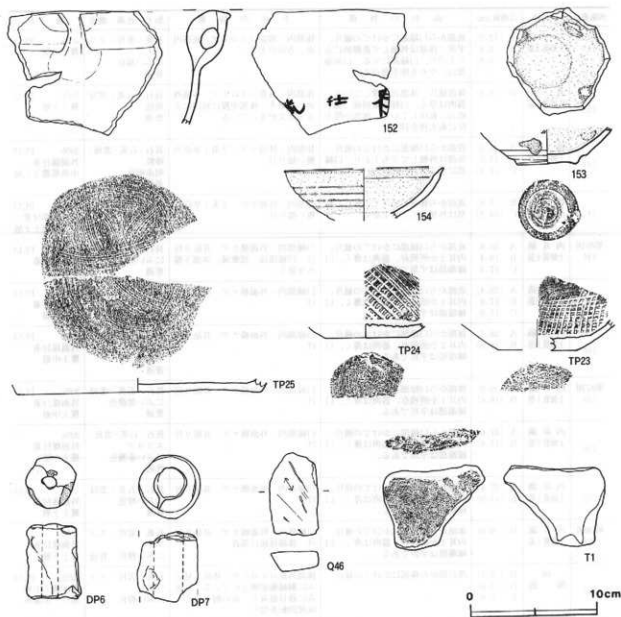
第86图 第20号薄出土物实测图(2)



0 10cm



第87図 第20号溝渚田土器植物刺圖(3)



第88図 第20号溝出土遺物実測図(4)

第20号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 138	小 皿 土師黄土器	A 7.6 B 1.9 C 5.4	口縁部一部欠損。平底。器内は厚く、体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面クロコナデ。底部回転糸切り様。ナデ。口縁部内・外面に油燈付着。	長石・石英・雲母 スロリア にふい橙色 普通	80% PL13 中央部覆土下層
139	小 皿 土師黄土器	A [ 9.5] B 2.6 C 4.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。器内は薄く、体部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面クロコナデ。体部内面ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 にふい黄橙色 普通	70% PL13 中央部覆土中
140	小 皿 土師黄土器	A [ 9.9] B 3.1 C 5.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面クロコナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 にふい橙色 普通	50% PL13 覆土中
141	小 皿 土師黄土器	A [ 8.8] B 2.9 C [ 4.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面クロコナデ。底部回転糸切り。	石英・雲母 にふい橙色 普通	40% 覆土中



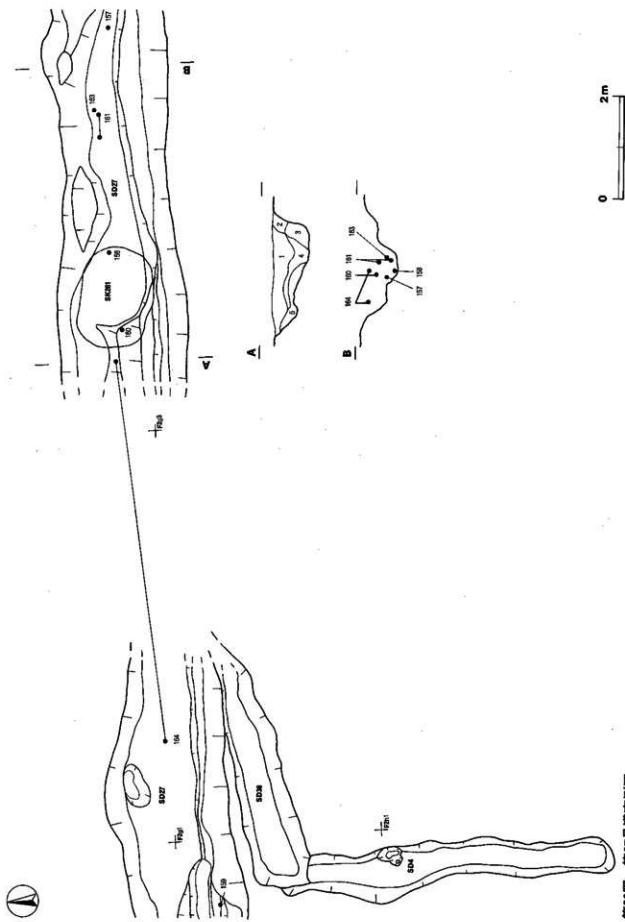
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第85図 142	小鉢 土師質土器	A [12.2] B 5.4 C [ 6.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は、やや丸味を帯びる。	体部内・外面ロクロナデ。底部内面一方方向のナデ。	石英・雲母・スコリア にふい褐色 普通	40% PL13 覆土下層
143	香炉 土師質土器	B ( 6.2)	体部破片。体部は内彎している。底部は厚く、口縁部破壊後一部を磁石に転用している。体部中段上位に最大径を持つ。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面へう磨き。体部中段に施印による方形文が施されている。	長石・石英・雲母 褐色 普通	30% PL13 覆土下層
144	鐏鉢 土師質土器	A [34.0] B 13.5 C [17.4]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部はややくぼむ。	体部内・外面ナデ。3条1単位の粗い横り目。	長石・石英・雲母・ 砂粒 明赤褐色 普通	20% PL13 外面煤付着 中央部覆土上層
145	鐏鉢 土師質土器	B ( 5.6) C [14.2]	底部から体部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。3条1単位の粗い横り目。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	20% PL13 内外面煤付着 中央部覆土下層
第86図 146	内耳鐏 土師質土器	A 35.8 B 19.4 C 17.3	底部から口縁部にかけての破片。内耳2か所残存。器内は薄く、口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け。口縁端部一部摩滅。体部下段へう磨り。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	50% PL13 外面煤付着 覆土上層
147	内耳鐏 土師質土器	A [38.4] B 17.4 C 17.8	底部から口縁部にかけての破片。内耳1か所残存。器内は薄く、口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け。	長石・石英・雲母・ スコリア 普通	30% PL13 外面煤付着 覆土上層
148	内耳鐏 土師質土器	A 37.1 B (18.0)	底部から口縁部にかけての破片。内耳2か所残存。器内は薄く、口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け。	長石・石英・雲母・ スコリア 明褐色 普通	20% PL13 外面煤付着 覆土中層
第87図 149	内耳鐏 土師質土器	A 39.0 B (16.6)	体部から口縁部にかけての破片。内耳1か所残存。器内は薄く、口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	30% PL13 外面煤付着 覆土中層
150	内耳鐏 土師質土器	A [37.6] B (11.6)	体部から口縁部にかけての破片。内耳2か所残存。器内は薄く、口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け。	長石・石英・雲母・ スコリア 普通	20% PL13 外面煤付着 覆土中層
151	内耳鐏 土師質土器	A [37.4] B (11.0)	体部から口縁部にかけての破片。内耳2か所残存。器内は薄く、口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	5% PL14 外面煤付着 覆土下層
第88図 152	内耳鐏 土師質土器	B ( 9.9)	体部から口縁部にかけての破片。内耳1か所残存。器内は薄く、口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け。体部外面に磨き。	石英・雲母・スコリア にふい褐色 普通	5% 外面煤付着 覆土下層
153	陶器	B ( 2.7) D [ 4.8] E 0.6	高台部から体部にかけての破片。	体部外面ロクロナデ。体部・見込みに銅線輪が施されている。見込みに砂目痕有り。高台削り出し。底部回転糸切り。	石英・雲母・スコリア にふい褐色 普通	40% PL14 南部覆土中層 瀬戸・美濃系
154	天日茶碗 陶器	A [12.8] B 4.0	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	内体部内・外面ロクロナデ。体部内面鉄線が施されている。	石英 褐色 良好	5% PL14 覆土中層 瀬戸・美濃系

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第89図 DP6	管状土鐏	5.8	4.0	1.0~1.2	121.1	覆土中	98%
DP7	管状土鐏	( 5.4)	4.9	2.2~2.5	(89.8)	覆土中	90%

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第89図 Q46	砥石	6.5	3.9	1.7	47.0	粘板岩	覆土中	PL19
第89図 T1	丸瓦	( 6.5)	7.9	2.0	(92.6)	-	覆土中	

### 第27号溝 (第89図)

位置 調査 2区中央部, F1 f0~F2 f8区。



第89图 第27号河系图

重複関係 本跡が、第38号溝を掘り込んでいるので、第38号溝より新しい。

規模と形状 上幅1.80~2.50m, 下幅0.30m~1.20m, 深さ0.50m~0.70mで、U字状である。確認長は25.5mである。

方向 F 2 f 8 区から東西 (N-90°-E) に直線的に延びる。

覆土 5層からなる。炭化粒子やロームブロックを含んでいることから、人為堆積と思われる。

#### 土層解説

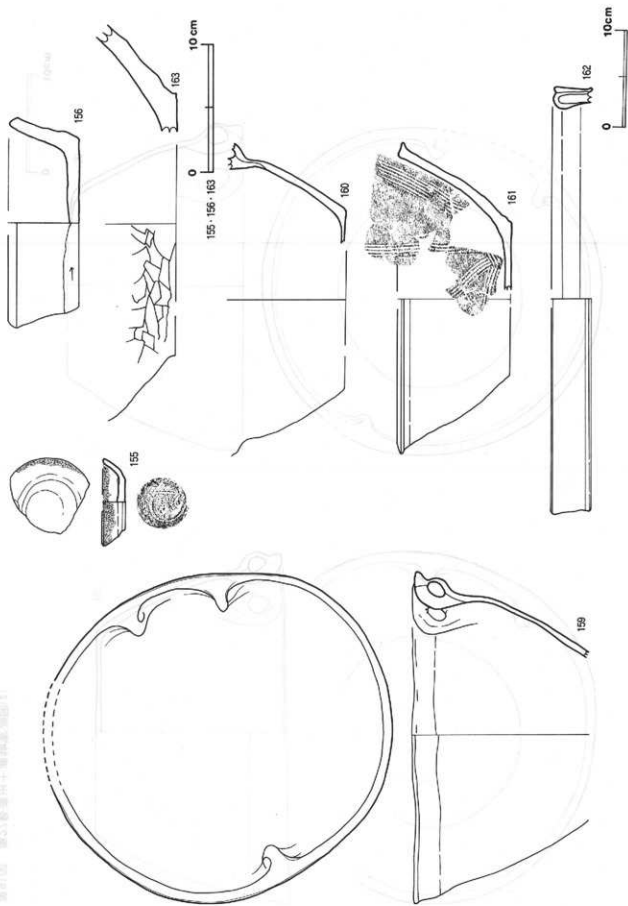
1	黒褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	3	褐色	ローム大・中ブロック・ローム粒子少量
2	褐色	ローム大・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
			5	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師質土器片577点, 陶器片4点, 石製品2点, 礫6点が出土している。第90~92図155の土師質土器の小皿は, 西部の覆土中から出土し, 底部は回転糸切りである。156の土師質土器の小鉢は, 覆土中から出土している。157・158・160の土師質土器の内耳鍋は, 中央部の覆土上層から下層にかけて出土している。159の土師質土器の内耳鍋は覆土中から出土している。161の土師質土器の楕鉢は, 東部の覆土下層から出土している。162の常滑の陶器甕は覆土中から, 163の常滑の陶器甕は, 東部の覆土下層からそれぞれ出土している。164の瀬戸・美濃系の鉀鉢は, 西部の覆土中から出土している。Q47の石臼は覆土中から出土している。

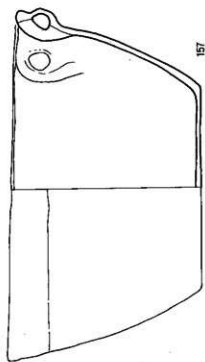
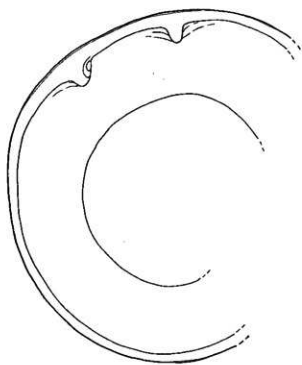
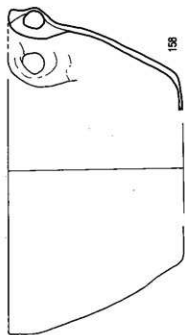
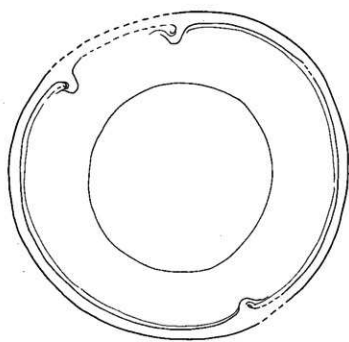
所見 本跡は, 中世の土壌基群と関連する溝と思われる。出土遺物などから, 中世の16世紀前後と思われる。

#### 第27号溝出土遺物観察表

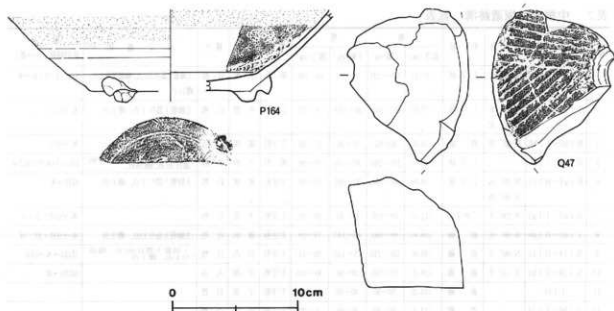
図原番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 155	小皿 土師質土器	A [ 6.5 ] B 1.8 C 3.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。器内は厚く, 体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	体部内・外面クロコナテ。底部回転糸切り。口縁端部内・外面, 底部内面油漉付着。	長石・石英・スコリア にぶい橙褐色 普通	50% PL14 西部覆土中
156	小鉢 土師質土器	A [15.4] B 5.5 C 13.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁端部は, やや丸味を帯びる。	体部内・外面ナテ。体部下端へ丸み有り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	50% PL14 覆土中
第91図 157	内耳鍋 土師質土器	A 36.2 B 20.2 C 21.0	底部から口縁部にかけての破片。内耳2か所残存。器内は厚く, 体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナテ。耳貼り付け。	長石・石英・雲母 にぶい橙褐色 普通	60% PL14 外面覆付着 覆土下層
158	内耳鍋 土師質土器	A 34.0 B 18.2 C 20.0	底部から口縁部にかけての破片。内耳3か所残存。器内は厚く, 体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナテ。耳貼り付け。	長石・石英・雲母 にぶい橙褐色 普通	60% PL14 外面覆付着 覆土下層
第90図 159	内耳鍋 土師質土器	A 34.5 B (19.3)	体部から口縁部にかけての破片。内耳3か所残存。器内は厚く, 体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナテ。耳貼り付け。	長石・石英・雲母 にぶい橙褐色 普通	40% PL14 外面覆付着 覆土中
160	内耳鍋 土師質土器	B (12.3) C [18.6]	底部から体部にかけての破片。内耳1か所一部残存。器内は厚く, 底部から体部にかけて内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナテ。耳貼り付け。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	30% PL14 外面覆付着 覆土中層
161	楕鉢 土師質土器	A [32.2] B 10.9 C [13.5]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁端部は平坦である。	体部内・外面ナテ。体部内面に5条1単位位の縞り目。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	40% PL14 外面覆付着 東部覆土下層
162	甕 陶器	A [44.0] B (4.1)	体部から口縁部にかけての破片。幅の狭い粘土帯が走る断面N字状の口縁である。	口縁部内・外面, 口縁端部ナテ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 良好	5% PL14 覆土中 常滑系16世紀後半
163	甕 陶器	B (6.4) C [23.0]	底部から体部にかけての破片。器内は厚く, 体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ナテ。体部外面下端へ丸みナテ。	長石・石英・砂粒 暗赤褐色 良好	10% PL14 覆土下層 常滑系
第92図 164	鉢 (鉀鉢) 陶器	B (7.2) C [12.6]	底部から体部にかけての破片。体部は外傾して, 直線的に立ち上がる。底部外周に足付けの三足が付く。	体部内・外面クロコナテ。体部下端回転糸切り有り。体部内・外面油漉が施されている。底部内面に鉀し目がある。	石英・砂粒 灰白色 良好	5% PL14 西部覆土中 瀬戸・美濃系



第90图 第27号清出土器物式样图(1)

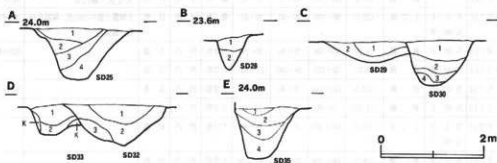


第91图 第27号清出土器物实图(2)



第92図 第27号溝出土遺物実測図(3)

図版番号	種別	計測値			品種	分画数	石質	出土地点	備考	
		径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)						重量 (g)
第92図Q47	石 臼	-	2~3	8.7	(940.0)	上臼破片	不明	安山岩	覆土中	PL18



第93図 溝土層実測図

第25号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

第30号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

第35号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第28号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第29号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子極微量

第32号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第33号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック極微量

表7 中根十三塚遺跡溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)						深さ(cm)
1	I1a0~I1f3	N-90°-E N-10°-E	L字状	(47.1)	170~220	20~70	40~100	扇形	平坦	自然	土師質土器片285点, 陶磁器片30点, 縄文土器片15点	SD2・3・7・8→本
2	I1a0~I1f1	N-91°-E N-10°-E	L字状	(47.5)	80~200	80~110	8~12	U字形	平坦	自然	土師質土器片1点, 縄文土器片1点	本→SD1
3	H1b2~I1b5	N-88°-E	直線	10.0	40~65	20~30	20~30	U字形	直状	自然		本→SD1
5	H1f6~I1a0	-	U字状	(48.5)	160~240	30~100	30~90	扇形	平坦	自然	土師質土器片2000点, 陶磁器片41点, 縄文土器片17点	SKA13-4, SP-SK23-H
6	H1g4~H1f4	N-20°-E N-80°-W	L字状	(6.0)	80~190	30~180	10~30	U字形	直状	自然	土師質土器片2点, 縄文土器片6点	SD6→本
7	H1a3~I1a5	N-100°-E	くの字状	(12.4)	50~110	18~40	20~25	U字形	平坦	自然		本→SD1・5・6
8	I1c3~I1c6	N-90°-E	直線	(16.8)	90~160	40~140	15~20	U字形	直状	自然	土師質土器片13点, 縄文土器片4点, 縄文土器片4点	本→SD1・12・14
9	H1f4~H1f7	N-80°-E	直線	(19.8)	130~210	75~140	20~65	U字形	凹凸	自然	土師質土器片465点, 陶磁器片4点, 縄文土器片4点	SD15→本→SD6
10	G1j6~H2b1	N-115°-E	直線	(19.2)	70~110	20~50	30~60	U字形	平坦	人為		SD20→本
11	I1f6	-	直線	(12.2)	70~80	40~60	10~20	U字形	平坦	自然		
12	I1b6~I1f6	-	直線	(13.3)	40~80	40~60	5~20	U字形	平坦	自然		
13	H1i4~H2e2	N-68°-E	直線	(28.5)	60~100	40~60	10~30	U字形	平坦	自然		
14	I1e7~I1e7	-	U字状	(13.2)	50~100	40~80	10~40	U字形	平坦	自然		
15	H1e4~H1f5	N-30°-W	直線	(5.0)	100~250	50~100	20~100	U字形	凹凸	自然		
16	H1b4~H1b5	N-68°-E	直線	(4.5)	80~150	40~100	10~30	U字形	平坦	自然		
17	H1g8~H2g2	N-90°-E	直線	(15.4)	40~80	20~60	10~40	U字形	平坦	自然		
18	H1f8~H2f2	N-90°-E	直線	(12.3)	40~70	10~50	10~40	U字形	平坦	自然		
19	G2j2~H2e2	-	直線	(25.1)	140~205	10~55	50~85	扇形	平坦	自然	土師質土器片297点, 陶磁器片2点, 縄文土器片17点	SD20→本, 21, 23
20	G1i8~H2d1	N-6°-E N-80°-W	L字状	(33.9)	90~230	20~40	20~85	扇形	平坦	自然	土師質土器片1983点, 陶磁器片44点, 縄文土器片50点	本→SD19・23
21	H2e2~H2e3	N-90°-E	直線	(2.10)	90~100	20~40	30~50	U字形	凹凸	人為		SD19撮影不明
22	G2j3~H2e3	N-10°-W	直線	(8.70)	50~170	20~100	20~100	U字形	凹凸	人為		
23	G2i1~G2j4	K-415°-E	直線	(12.5)	110~160	20~40	30~50	U字形	凹凸	人為		SD19・20撮影不明
24	G1f9~G1f0	N-80°-E	直線	(1.50)	70~80	50~60	10~20	U字形	西凸	人為		
25	C2j9~F2b7	N-7°-E N-105°-E	L字状	(51.7)	180~200	20~80	90~80	U字形	西凸	自然		
26	B2b7~F2b7	N-7°-E	直線	(156.5)	180~250	30~100	30~130	U字形	西凸	自然		
27	F1f0~F2f8	N-90°-E	直線	(25.5)	108~180	30~120	50~70	U字形	西凸	人為	土師質土器片1377点, 陶磁器片4点, 縄文土器片6点	SD38→本
28	F1f0~F2f8	N-90°-E	直線	(28.5)	50~100	20~60	20~50	U字形	西凸	人為		
29	F2d1~F2d8	N-88°-E	直線	(28.7)	50~100	20~100	20~40	U字形	西凸	人為		
30	F2d1~F2d8	N-88°-E	直線	(28.7)	50~110	20~60	20~80	U字形	西凸	人為		
31	F2b1~F2e8	N-95°-E	直線	(28.5)	50~80	10~60	40~80	U字形	西凸	人為		
32	B2d7~E2i3	N-30°-E	直線	(101.5)	100~140	30~40	40~60	U字形	西凸	人為		
33	E2j1~F2a8	N-80°-W	直線	(30.5)	80~120	10~30	50~70	U字形	平坦	人為		SD32・35→本→SD34
34	E2j1~E2j8	N-80°-E	直線	(30.0)	100~120	10~30	58~70	U字形	平坦	人為		SD32→本→SD32
35	A1g9~A2b6	N-80°-E	直線	(26.5)	100~115	20~50	60~80	U字形	凹凸	人為		
36	A1g0~A2b4	N-75°-W	直線	(16.5)	30~90	10~20	10~18	U字形	直状	人為		
37	D2d9~D2j9	N-10°-E N-70°-E	L字状	(29.8)	20~30	10~20	10~30	U字形	直状	自然		SD6→本
38	F1f0~F2f1	N-95°-W	直線	(5.00)	90~110	30~60	5~35	U字形	平坦	人為		本→SD27
40	F1g0~F1f0	N-10°-E	直線	6.20	60~100	40~80	10~35	U字形	平坦	人為		本→SD38・39

## 6 その他の遺構と遺物

ここでは、時期や性格が不明であるものについて記述する。

### (1) 竪穴状遺構

#### 第1号竪穴状遺構 (第94図)

位置 調査3区北部, B2e5区。

規模と平面形 長径2.65m, 短径2.45mのほぼ円形である。

壁 壁高は38~40cmで、なだらかに立ち上がる。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1・P2は、長径23~25cm, 短径18~20cmほどの楕円形, 深さ13~15cmで、いずれも性格不明である。

#### P1土層解説

1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

覆土 5層からなる。上層から下層にかけて黒色土にロームブロックや焼土粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

#### 土層解説

1 黒褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

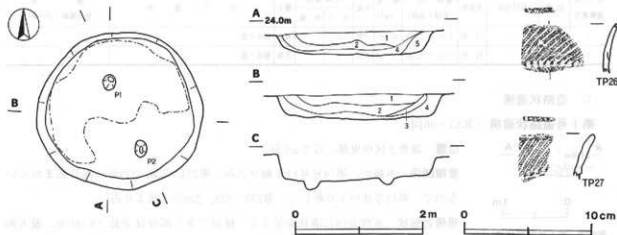
2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量

4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 弥生土器片46点, 不明土製品2点が出土している。第94図 TP26・27の弥生土器片が中央部の覆土中層を中心に出土している。TP26は口縁部片で, 口縁端部に縄文が施されている。口縁部下端に棒状工具による刺突文が施されている。TP27は口縁部片で, 口縁端部に縄文が施されている。縄文は附加糸一種 (附加2条) である。所見 本跡は、縄文時代の土坑の形態に似ているが、縄文土器は出土していない。弥生時代の住居跡の近辺にあり, 住居に関連する施設とも考えられるが, 時期や性格については不明である。



第94図 第1号竪穴状遺構・出土遺物実測図

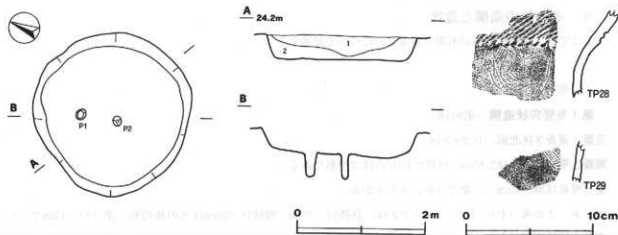
#### 第2号竪穴状遺構 (第95図)

位置 調査3区北部, B2d4区。

規模と平面形 径2.55mの円形である。

壁 壁高は35cmで, 外傾して立ち上がる。





第95図 第2号竪穴遺構・出土遺物実測図

ピット 2か所 (P1・P2)。P1・P2は、長径16~20cm、短径14~15cmほどの楕円形、深さ35~40cmで、いずれも性格不明である。

覆土 2層からなる。上層から下層にかけて黒色土にロームブロックや焼土粒子を含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説 2 層 色 ローム小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子、炭化粒子少量

遺物 弥生土器片4点が出土している。第95図 TP28・29の弥生土器片が中央部の覆土中層から出土している。TP28は頸部片で、上位に附加条一種(附加2条)の縄文が施され、その下に棒状工具による刺突文が施されている。TP29は頸部片で、櫛歯状工具による山形文が施されている。

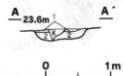
所見 本跡は、弥生時代の住居跡の近辺にあり、住居に関連する施設とも考えられるが、時期や性格については不明である。

表8 竪穴状遺構一覧表

竪穴状遺構番号	位置	長径方向	平面形	縦横 (m) (長径×短径)	埋高 (cm)	床面	内部施設 柱穴 印・遺	覆土	出土遺物	備考 新田開橋(古-新)
1	B 2 e5	-	円形	2.65 × 2.45	36~40	平阻	2	-	人為 弥生土器	
2	B 2 e4	-	円形	3.22 × 2.28	4~12	平阻	2	-	人為 弥生土器	

## (2) 道路状遺構

### 第1号道路状遺構 (第33・96図)



第96図 第1号道路状遺構土層実測図

位置 調査2区中央部、G 2 a 6 区。

重複関係 本跡が、第14号井戸を掘り込み、第224、228、239号に掘り込まれているので、第14号井戸より新しく、第224、228、239号土坑より古い。

規模と形状 東西方向に溝状を呈する。確認できた部分は全長(9.00)m、最大幅1.06mで、直線的に延びており、西端部及び東端部は調査区外に続いている。断面形は、浅いU字状を呈し、底面は非常に固く、踏み固められたように締まっている。確認面からの深さは、0.20~0.30mである。

主軸方向 N-80°-W

覆土 2層からなる。2層ともロームブロックを含んで堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

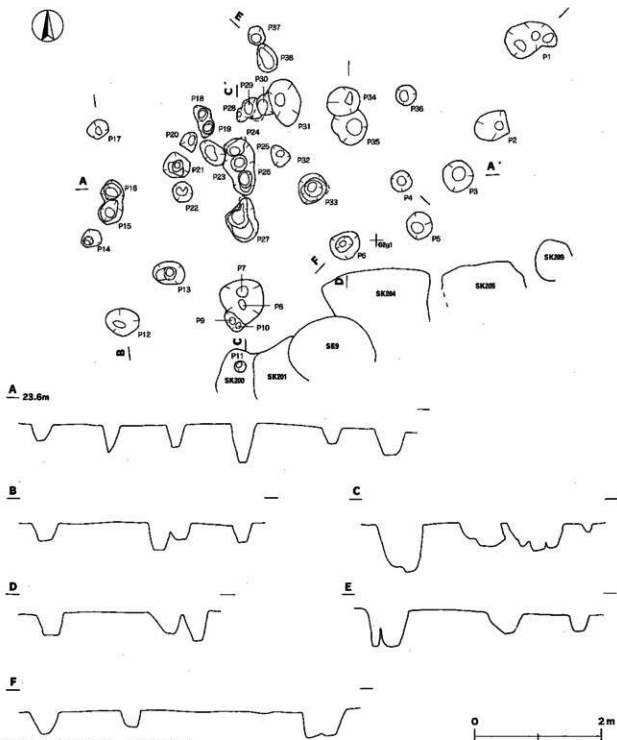
2 黒褐色 ローム大・小ブロック少量、ローム粒子微量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は、確認面から底面にかけて踏み固められており、長期間にわたって使用されたものと考えられる。中世土壌基群と関連する遺構の可能性もあるが、出土遺物もなく、時期不明である。

### (3) ビット群

ここで述べるビット群は、土壌基群の南側に位置している。付近の遺構との関わりは不明である。



第97図 第1号ビット群実測図

### 第1号ピット群 (第97図)

位置 調査2区南部, G1f0区からG1g0区。

規模と形状 南北約6m, 東西約9mの長方形の範囲に38か所のピット(P1~P38)を確認した。ピットの平面は、径15~70cmの円形あるいは楕円形で、深さは20~75cmである。

所見 ピットの配列に規則性は見られない。時期・性格等は不明である。

### 7 遺構外出土遺物 (第98~100図)

中根十三塚遺跡からは、試掘・表土除去・遺構確認の段階で旧石器・弥生・古墳時代・奈良・平安時代、および中・近世にかけての遺物が出土している。その中から、特色あるものを抽出し、実測図及び一覧表で掲載した。

第98図のTP31・32は、弥生時代後期の土器片である。TP31は、口縁部片で、上位に指頭による押圧が施されている。TP32は、口縁部片で、口縁端部にヘラ状工具による刻みが施されている。付加条二種(付加1条)の縄文が施されている。第100図のTP33は土師質土器火舎の口縁部であり、外面口縁部下位に雷文が連続して印刻され、その下に連珠文と、唐草文が線刻されている。第100図のTP34は、瀬戸・美濃系の陶器押し皿である。

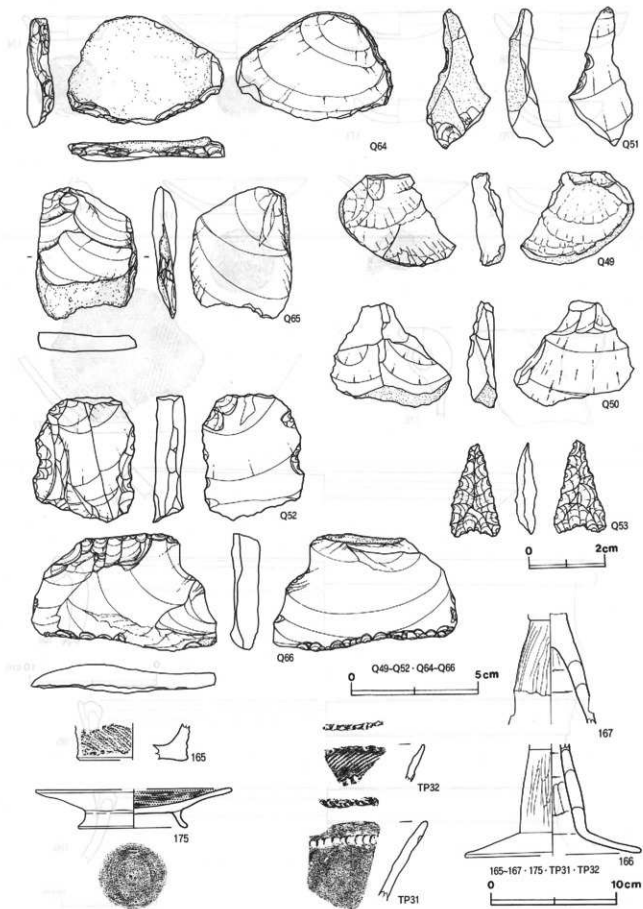
遺構外出土土器観察表 (旧石器・縄文)

図版番号	種別	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第98図Q64	割器	8.6	12.4	1.5	192.3	ガラス質褐色安山岩	調査4区表土 PL18
Q65	割器	10.5	8.1	1.8	161.2	ガラス質褐色安山岩	調査4区表土 PL18
Q49	割片	9.8	6.5	6.2	124.3	ガラス質褐色安山岩	調査4区表土 PL17
Q50	割片	9.3	9.3	2.3	136.0	ガラス質褐色安山岩	調査4区表土 PL17
Q51	割片	10.9	4.8	2.4	76.5	地質頁岩	調査4区表土 PL18
Q52	割片	4.9	3.6	1.1	28.8	地質頁岩	調査4区表土 PL18
Q66	割器	4.6	7.2	1.1	34.9	地質頁岩	調査4区表土 PL18
Q53	石器	2.3	1.4	0.5	0.8	黒曜石	調査1区表土 PL18

遺構外出土遺物観察表 (弥生時代~中・近世)

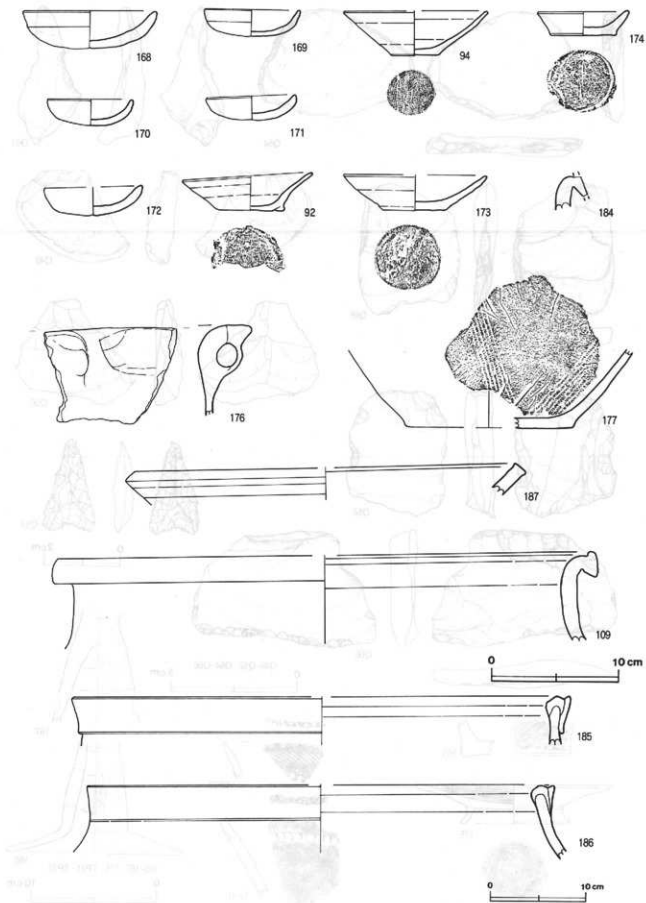
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第98図 165	甕 弥生土器	B (2.9) C (8.8)	底部から胴部にかけての破片。胴部には、附加条一種(附加2条)の縄文が施されている。	長石・石英・雲母 にふい橙褐色	20% 調査3区北側

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第98図 166	高坏 土師器	D [13.8] E (8.7)	胴部の破片。胴部はラッパ状を呈し、底部が上方にわずかに反り返る。	胴部外面へラ磨き。胴部内面へラナド。輪轆み痕有り。	長石・石英・雲母 にふい橙褐色 普通	20% 調査3区北側 PL15
167	高坏 土師器	B (8.7) E (8.0)	胴部の破片。胴部は円柱状を呈す。	胴部外面へラ磨き。胴部内面へラナド。輪轆み痕有り。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	10% 調査3区北側 PL15
175	高台付直 土師器	A [15.4] B 3.0 D 8.6 E 1.2	体部、口縁部一部欠損。高台部は短く「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面ラナド。内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。底部回転へラ磨き。	長石・石英・雲母・ スコリア にふい橙褐色 普通	70% 調査3区中央 PL15
第99図 168	小皿 土師質土器	A 10.4 B 2.9	口縁部一部欠損。丸底。器内は厚く、体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面磨ナド。体部内・外面不定方向のナド。	長石・石英・雲母・ スコリア にふい橙褐色 普通	90% 調査2区中央 PL15
169	小皿 土師質土器	A 7.5 B 2.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面磨ナド。底部内面不定方向のナド。	雲母・スコリア にふい橙褐色 普通	95% 調査2区中央 PL15

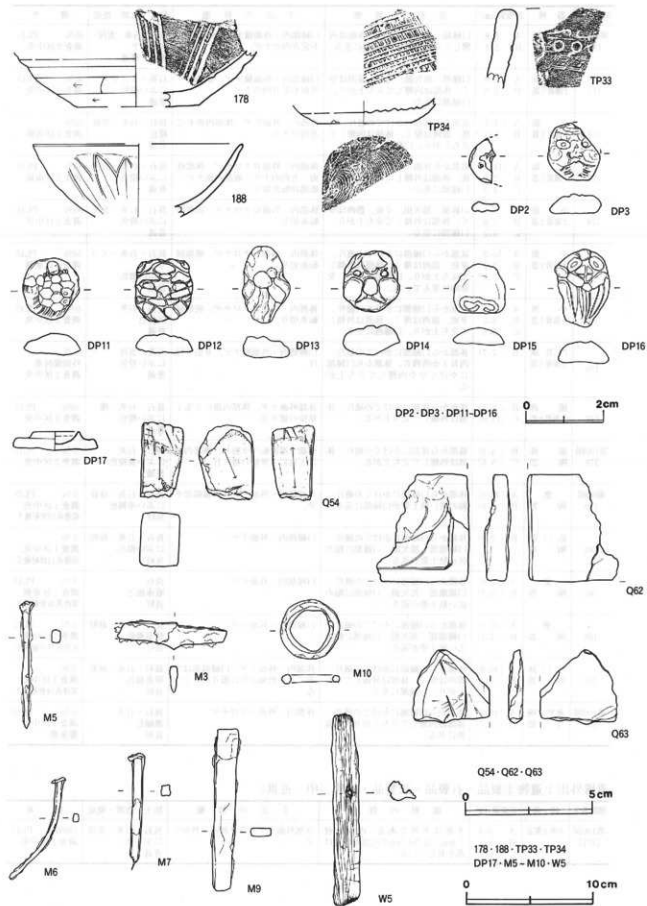


第98图 遺構外出土遺物実測図(1)

上段は遺構外出土遺物実測図、図98(1)



第99図 遺構外出土物実測図(2)



第100图 遺構外出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第99図 170	小 皿 土師黄土器	A 6.8 B 2.1	口縁部一部欠損。丸底。器内は内 響して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナゲ。底部内面 不定方向のナゲ。	長石・石英・雲母・ スコリア 褐色 普通	95% PL15 調査2区中央
171	小 皿 土師黄土器	A 7.0 B 2.9	口縁部一部欠損。丸底。器内は厚 く、器内は内響して立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナゲ。器内内・ 外面不定方向のナゲ。	石英・スコリア に多い褐色 普通	90% PL15 調査2区中央
172	小 皿 土師黄土器	A [ 7.7 ] B 2.3	底部から器内にかけての破片。丸 底。器内は厚く、器内は内響して 立ち上がり、口縁部に至る。	器内内・外面ナゲ。器内内面不定 方向のナゲ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	50% PL15 調査2区南側
173	小 皿 土師黄土器	A [11.4] B 2.8 C 5.2	底部から器内にかけての破片。平 底。器内は厚く、器内は内響して 立ち上がり、口縁部に至る。	器内内・外面クロコナゲ。器内外 面一方方向のナゲ。底部内面ナゲ。 底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 に多い褐色 普通	50% PL15 調査2区南側
174	小 皿 土師黄土器	A 7.1 B 1.8 C 5.2	口縁部一部欠損。平底。器内は厚 く、器内は内響して立ち上がり、 口縁部に至る。	器内内・外面クロコナゲ。底部回 転糸切り。	長石・石英・雲母 に多い褐色 普通	95% PL15 調査2区中央
92	小 皿 土師黄土器	A 10.3 B 3.1 C 5.3	底部から口縁部にかけての破片。 平底。器内は薄く、器内は外傾し て立ち上がり、口縁部に至る。 全体的に歪んでいる。	器内内・外面クロコナゲ。底部回 転糸切り。	長石・石英・スコ リア に多い褐色 普通	50% PL15 調査1区東側
94	小 皿 土師黄土器	A [11.3] B 3.5 C 3.6	底部から口縁部にかけての破片。 平底。器内は薄く、器内は外傾し て立ち上がり、口縁部に至る。	器内内・外面クロコナゲ。底部回 転糸切り。	長石・石英・雲 母 に多い褐色 普通	40% PL15 調査2区中央
176	内 耳 罎 土師黄土器	B ( 7.7 )	体部から口縁部にかけての破片。 内耳1か所残存。体部から口縁部 にかけてやや内響して立ち上 がる。	口縁部内・外面横ナゲ。耳貼り付 け。	石英・雲母 に多い褐色 普通	5% 外耳部付着 調査2区中央
177	摺 鉢 土師黄土器	B ( 6.3 ) C [13.0]	底部から器内にかけての破片。体 部は外傾して立ち上がる。	体部外面ナゲ。器内内面に5条1 単位の縞り目。	長石・石英・糠 に多い褐色 普通	10% PL15 調査2区中央
第100図 178	摺 鉢 陶 器	B ( 4.2 ) C [ 9.6 ]	底部から器内にかけての破片。体 部は外傾して立ち上がる。	体部下端回転ヘラ削り。器内内面 に4条に1単位の縞り目。	長石・石英 に多い黄褐色 普通	5% PL15 調査2区中央
第99図 109	甕 陶 器	A [42.0] B ( 7.0 )	体部から口縁部にかけての破片。 幅の狭い粘土帯が口縁部に至る。	口縁部内・外面ナゲ。口縁端部ナ ゲ。	長石・石英・砂粒 に多い赤褐色 良好	5% PL15 調査1区中央 常滑系13世紀後半
184	広 口 甕 陶 器	B ( 2.6 )	体部から口縁部にかけての破片。 口縁端部一部欠損。口縁部に幅 の狭い粘土帯が通る。	口縁部内・外面ナゲ。	長石・石英・砂粒 に多い褐色 良好	5% 調査1区中央 常滑系13世紀後半
185	甕 陶 器	A [52.0] B ( 5.2 )	体部から口縁部にかけての破片。 口縁端部一部欠損。口縁部に幅 の広い粘土帯が通る。	口縁部内・外面ナゲ。	長石 暗赤褐色 良好	5% PL15 調査1区東側 常滑系16世紀前半
186	甕 陶 器	A [49.0] B ( 7.7 )	体部から口縁部にかけての破片。 口縁端部一部欠損。口縁部に幅 の広い粘土帯が通る。	口縁部内・外面ナゲ。	長石・石英・砂粒 暗赤褐色 良好	5% PL15 調査1区中央 常滑系16世紀前半
187	片 口 鉢 陶 器	A [40.0] B ( 3.4 )	体部から口縁部にかけての破片。 器内は厚く、器内は外傾して立ち 上がり、口縁部に至る。	器内内・外面ナゲ。口縁端部は平 坦で、平面面が外に張り出してい る。	長石・石英・砂粒 暗赤褐色 良好	5% 調査1区中央 常滑系14世紀後半
第100図 188	深弁文碗 青 磁	A [16.6] B ( 5.7 )	体部から口縁部にかけての破片。 器内は内響して立ち上がり、口 縁部に至る。	器内内・外面クロコナゲ。	長石・石英 濃緑色 良好	5% PL15 調査1区中央 瀬京系

遺構外出土遺物土製品・石製品・鉄製品・木片 (中・近世)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第100図 DP17	不明土製品	A 3.4 B 1.5 C 6.6	下部は平坦である。内面に径 3.4cm、高さ0.5cmの円筒形の受け 部を有している。	底部外面ナゲ。受け部内・外面ナ ゲ。	長石・石英・雲母 に多い褐色 普通	100% PL17 調査1区中央

図版番号	部 種	計 測 値					出土地点	備 考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
影写DP1	不明土製品	3.5	2.0	0.6	0.2~0.6	2.4	2区表採	小皿底部転用	PL17
DP3	泥 函 子	2.0	1.8	0.6	-	2.1	2区表採		PL17
DP11	泥 函 子	2.1	1.9	0.7	-	2.2	2区表採		PL17
DP12	泥 函 子	2.1	1.9	0.6	-	3.0	2区表採		
DP13	泥 函 子	2.7	1.6	0.8	-	2.8	2区表採		PL17
DP14	泥 函 子	2.1	1.9	1.0	-	3.5	2区表採		PL17
DP15	泥 函 子	1.7	1.7	0.5	-	1.2	2区表採		
DP16	泥 函 子	2.7	1.9	0.7	-	3.1	2区表採		
Q54	載 石	5.8	3.3	4.3	-	(124.1)	3区表採		
Q62	硯	(4.2)	(3.5)	1.0	-	(13.6)	3区表採	粘板岩	PL19
Q63	硯	(2.9)	(3.0)	0.6	-	(4.8)	3区表採	粘板岩	PL19
M3	刀 子	(8.8)	2.2	0.7	-	(14.8)	3区表採		PL19
M5	鉄 釘	10.0	0.7	1.0	-	12.2	3区表採		PL19
M6	鉄 釘	(9.0)	0.7	0.7	-	(25.5)	3区表採		PL19
M7	鉄 釘	7.9	0.5	0.7	-	6.7	3区表採		PL19
M9	く さ び	12.6	1.7	0.8	-	85.9	3区表採		PL19
M10	環状鉄製品	-	-	-	2.9~4.5	14.7	3区表採		PL19
W5	不明木片	15.0	2.1	1.5	-	5.6	3区表採		PL19



## 第4節 ま と め

今回の調査によって、当遺跡から石器及び石材集中地点1か所、弥生時代の竪穴住居跡3軒、古墳時代中期の竪穴住居跡1軒、古墳時代の土坑1基、平安時代の竪穴住居跡1軒、中世及びそれ以降と考えられる方形竪穴状遺構10基、土坑・土壇墓241基、火葬施設6基、井戸跡22基、溝38条、その他時期・性格不明の竪穴状遺構2基、道路状遺構1条、ピット群4か所を検出した。ここでは、各時期の検出された遺構と出土遺物等についての概要を述べ、まとめとする。

### 旧石器時代

当遺跡からは、ナイフ形石器を伴う石器集中地点が1か所確認された。剥片（半製品）類の出土が多く、定型石器類の出土が極めて少ない。

当地点からは、ハンマー等が出土していないことから、当地点は、石器製作の場の可能性もあるが、短期間使用されていた生活の場であったと考えられる。

石器集中地点における石器等の組成は、以下のとおりである。

第1号石器および石材集中地点石器等組成表

石 器	石 材	ホルン フェルス	安山岩	珪質頁岩	霏灰岩	砂 岩	チャート	不 明	合計点数
ナイフ形石器				1					1
削 器			3						3
掻 器			1						1
石 核	2		1	2					5
剥 片			9	6	1	2			18
礫 片			6	2	3	4	1	4	20
合 計 点 数	2		20	11	4	6	1	4	48

### 弥生時代

当時代の遺構として確認できたのは、住居跡3軒である。住居跡の平面形は、3軒ともほぼ隅丸長方形であり、掘り込みは、第1号住居跡は深く、第2・3号住居跡は浅い。これらの住居跡の主柱穴は4本を基本とし、出入り口施設に伴うものと思われるピットを有する。主軸方向、出土遺物、及び隣接する位置関係などから、ほぼ同時期に営まれた集落であったと考えられる。出土した土器片を観察してみると、頸部に歯状工具による山形文が施されているものがあり、胎土には、大きな角礫状の石英、長石を多く含んでいる。二軒屋式に比定される土器片と考えられる。

### 古墳時代

当時代の遺構としては、竪穴住居跡1軒、土坑1基を検出した。住居跡の時期は中期の住居跡であり、床下遺構として溝状の掘り方が巡っており、住居構築の上で、特異な住居跡である。この住居跡の西側の調査区域外（畑地）からは、古墳時代の土器片が採集されており、周辺に集落が営まれていた可能性がある。

## 平安時代

当時代の遺構としては、堅穴住居跡1軒を検出した。北側に竈を持つ住居跡である。この住居跡は、竈の両脇に空間部があり、棚架施設と思われるものを有している。出土した須恵器は、胎土に蚕母を含んでいることなどから新治村新治窯群から供給された製品の可能性がある。調査区内からは、同時代の遺構は他にみられなかったが、隣接する台遺跡・狭間遺跡からは、奈良・平安時代の遺物が表面採集されている。このことから、当遺跡周辺に散在して奈良・平安時代の集落が営まれていた可能性がある。

## 中・近世

当遺跡の中世遺構は、方形堅穴状遺構・火葬墓・地下式墳・井戸跡・土壇・溝等である。それらは、調査区の中央部平坦部に集中して形成されている。これらの遺構は、第5・20号溝等によって「コ」の字状に、さらに、その外側の第27号溝等に区画されている。この区画の内側から、隅丸長方形や隅丸形状、円形状等を呈する多数の墓塚及び墓塚と思われる土坑が検出されている。また、その土坑の周りに井戸跡や火葬墓なども検出されている。覆土の状態や出土遺物、類例から考えて墓域であると推定される。これらの墓域は幾世代にもわたって形成されたものと思われる。重複が著しく、土坑一つ一つの形状や規模、重複遺構との新旧関係を明確に捉えることは困難な状況であった。

墓域からの出土遺物は、土師質土器の小皿や内耳鍋、中・近世の陶磁器片（灰釉・青磁・天目）、砥石、石臼等である。多量に出土した内耳鍋片は、その大部分は漆からのものである。県内出土の常陸型の内耳鍋の特徴について、浅野晴樹氏は、「雲母混じりの胎土で、われ口は赤褐色の土師質のもの」であると述べており<sup>91</sup>、当遺跡出土の内耳鍋も共通した様相を呈していることが分かる。また、浅野氏は常陸型の内耳鍋は「15世紀中頃を主体とするもの」であると述べている<sup>92</sup>。当墓域からは、土師質の小皿を含め、15世紀前後の遺物が数多く出土している。

これらの中世後期の墓地の性格については、齊藤弘氏が、室町時代以降の事例を中心に、中世墓を諸要素から次のように分類している<sup>93</sup>。

- 1 散 墓 ① 集落や屋敷地に伴うもの ② 城に伴うもの
- 2 集団墓 ① 有力武士の墓所 ② ア 館・城に伴うもの イ 寺院に伴うもの ③ 集落に伴うもの  
④ 館・城・寺院の廃絶後に営まれたもの ⑤ その他聖域に営まれたもの ⑥ 他に付属しない共同墓地

そのうえで、齊藤氏は「庶民層が墓地为営むのは、14～15世紀頃であり、15～16世紀には、一部に大規模化する傾向にある。」と述べている<sup>94</sup>。

当遺跡の墓域は、その規模や出土遺物などの特徴から、15世紀前後を中心に、集落に近接して営まれた可能性があり、齊藤氏のいう大規模化した庶民層の共同墓地と考えられる。さらに、中世以降も営まれた墓域である可能性が高い。

## 註

- (1) 浅野晴樹「東国における中世在地系土器について—主に関東を中心にして—」(『国立歴史民族博物館研究報告』第31集)1990年3月
- (2) 齊藤弘「中世後期の墓地—下野を中心に—」(『栃木県考古学会誌』第18号 栃木県考古学会)1995年7月

参考文献

- ・茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書15」(『茨城県教育財団文化財調査報告』第40集) 1982年3月
- ・茨城県教育財団「一般県道新川江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」(『茨城県教育財団文化財調査報告』第65集) 1991年3月
- ・茨城県教育財団「(仮称)水戸浄水場予定地内埋蔵文化財調査報告書」(『茨城県教育財団文化財調査報告』第82集) 1993年3月
- ・茨城県教育財団「一般県道高野筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」(『茨城県教育財団文化財調査報告』第97集) 1995年3月
- ・明野町史編さん委員会「明野町の遺跡と遺物」(『明野町史資料』第七集) 1983年2月
- ・筑崎社輔「中世常陸における葬送の風景-中世墓の諸相と通史的叙述への試論-」(『茨城県考古学協会誌』第7号) 茨城県考古学協会 1995年8月

写 真 图 版



中根十三塚遺跡遠景



中根十三塚遺跡調査区域全景



中根十三塚遺跡土壇墓・土坑群



第5号火葬墓遺物出土状況



テストピット土層断面



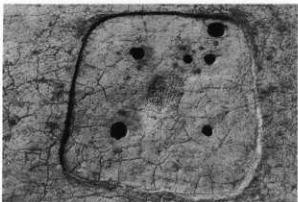
第1号住居跡完掘状況



第1号住居跡遺物出土状況



第2号住居跡完掘状況



第3号住居跡完掘状況



第4号住居跡完掘状況



第4号住居跡完掘状況



第1号方形竪穴状遺構



第3号方形竖穴状遺構



第6号方形竖穴状遺構



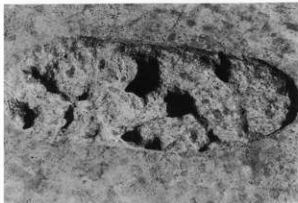
第10号方形竖穴状遺構



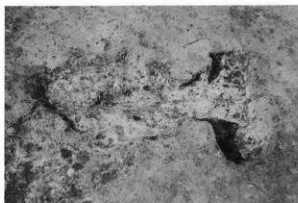
第1号地下式墳



第1号火葬遺物出土状況



第3号火葬墓



第6号火葬遺物出土状況



第305号土坑遺物出土状況

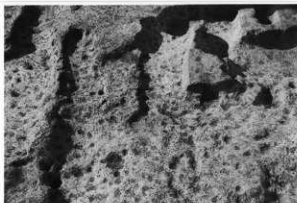




第12号土坑遺物出土状況



第45・50～53号土坑



第55・59・61・66号土坑



第121・122号土坑



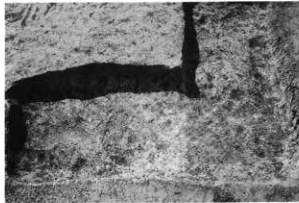
第127～129号土坑



第126・130号土坑



第132・133号土坑



第151・252号土坑



第174号土坑



第175号土坑



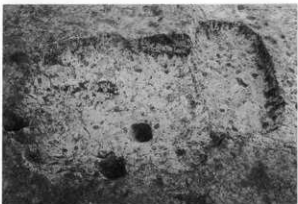
第176・178号土坑



第210号土坑



第216号土坑



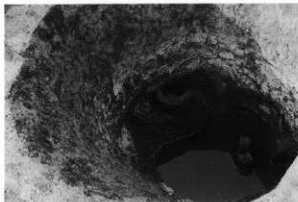
第240~242号土坑



第273・275・276号土坑



第277~283号土坑



第1号井戸跡遺物出土状況



第2号井戸跡遺物出土状況



第3号井戸跡遺物出土状況



第4号井戸跡



第6号井戸跡



第9号井戸跡



第15号井戸跡遺物出土状況



第16号井戸跡



第5号溝



第5号溝遺物出土状況



第9号溝遺物出土状況



第20号溝遺物出土状況



第25号溝



第26・32号溝



第27号溝



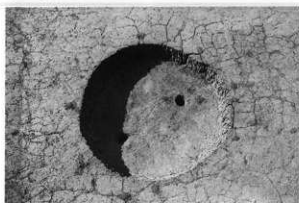
第30号溝



第31号溝



第33・34号溝



第1号豎穴状遺構



第2号豎穴状遺構



第1号石器および石材集中地点出土状況



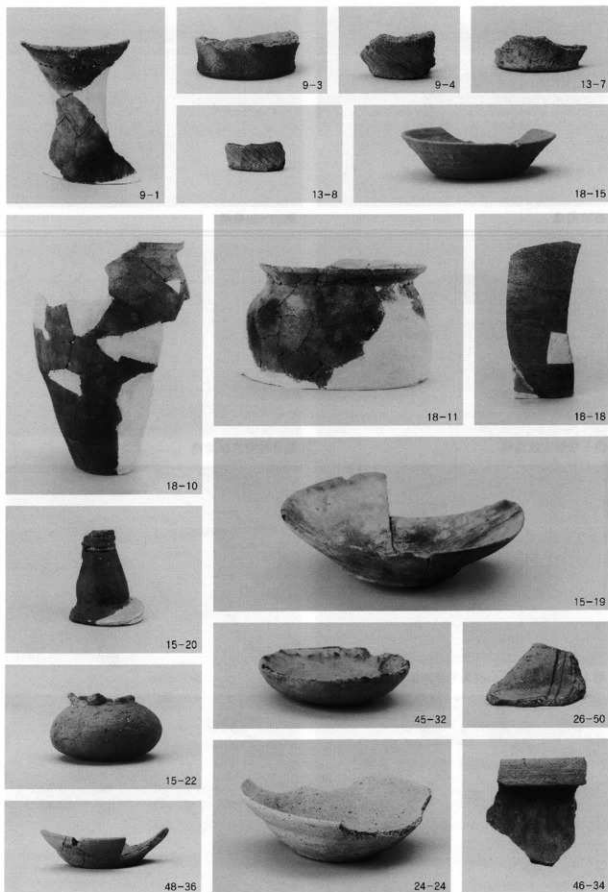
旧石器グリッド調査状況



第1号ピット群



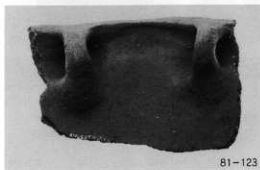
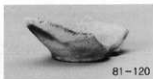
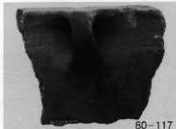
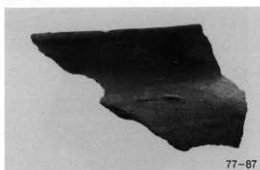
第2号ピット群



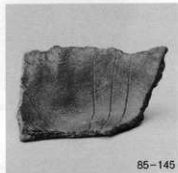
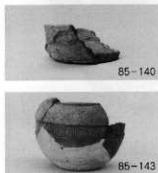
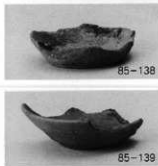
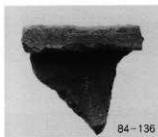
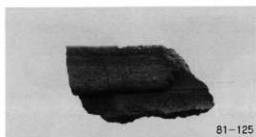
第1・3～5号住居跡，第9号方形竪穴状遺構，第1号地下式墳、第79・97・139号土坑出土遺物

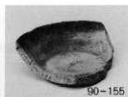
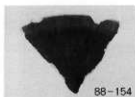
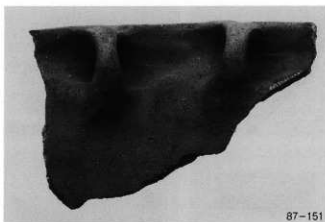


第161·201·223·257·305号土坑，第1·7·8·11·22号井戸跡，第1·5号溝出土遺物









第20·27号溝出土遺物



99-168



99-169



99-170



99-173



99-174



99-171



98-175



99-94



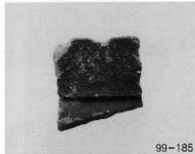
99-92



98-166



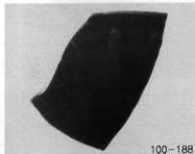
99-109



99-185



99-186



100-188



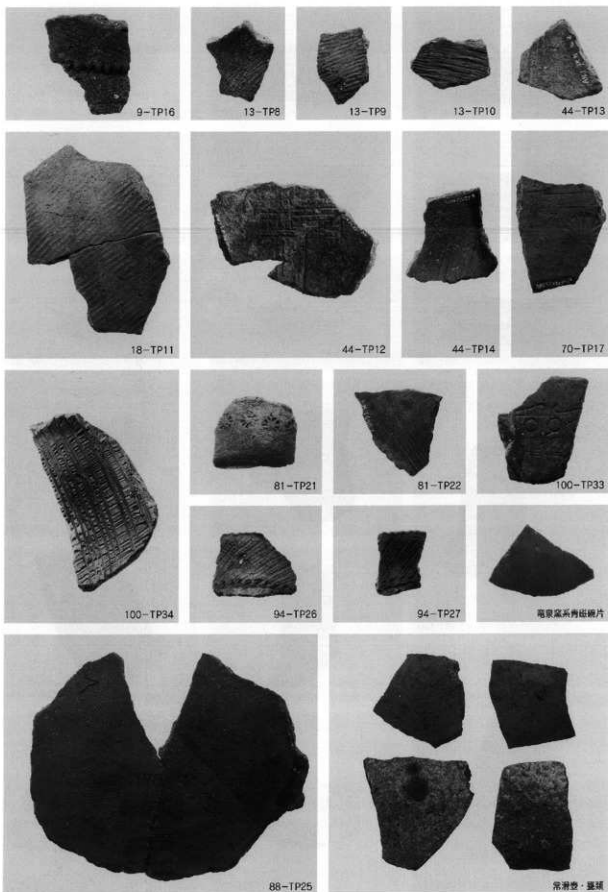
98-167



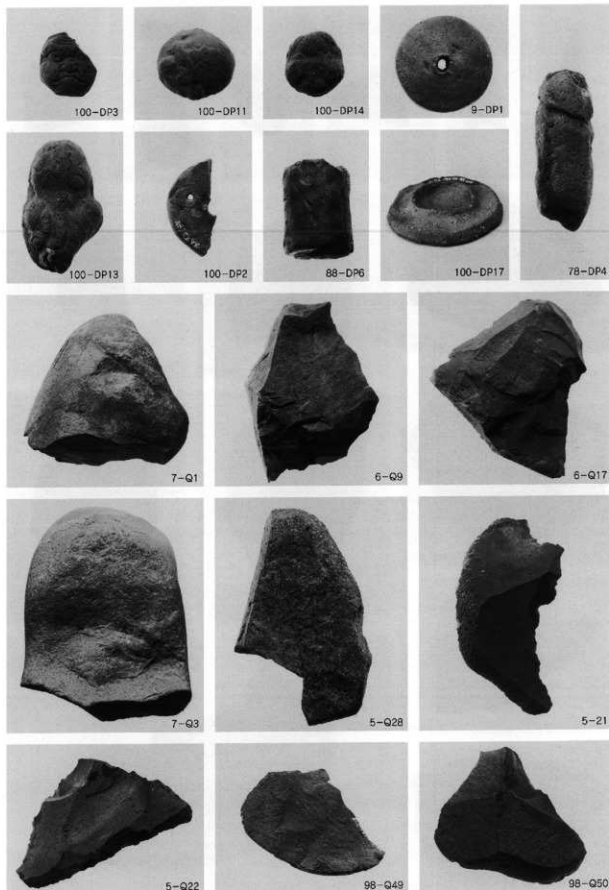
100-178



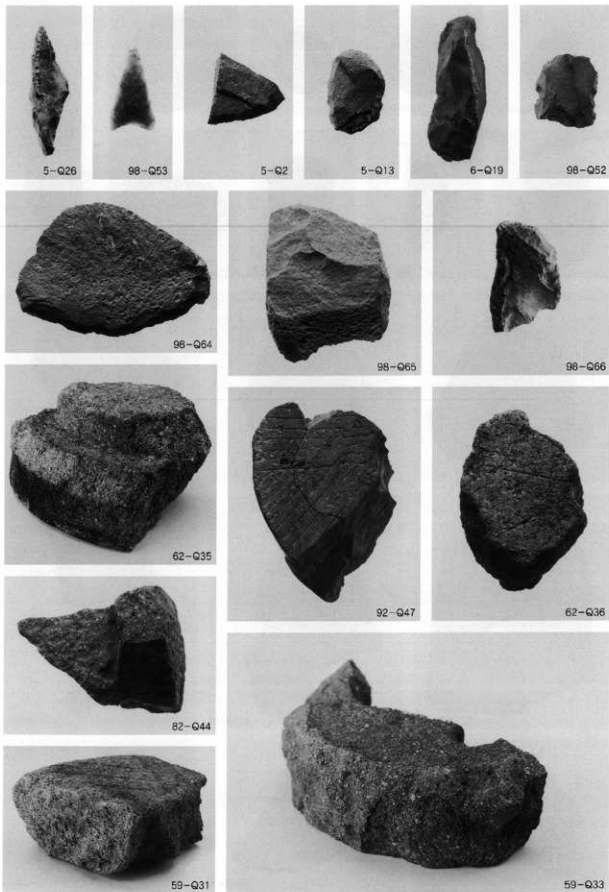
99-177



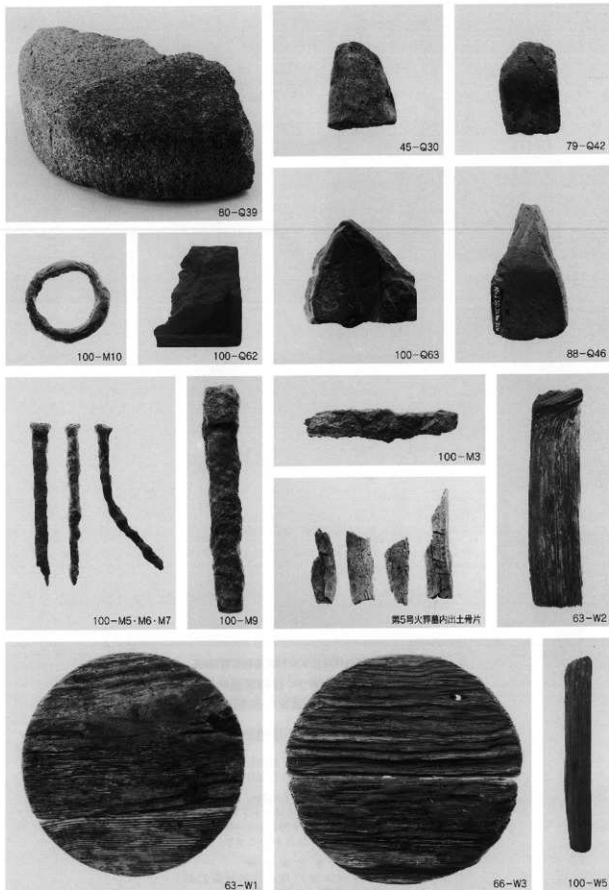
住居跡、土坑、井戸跡、溝、竪穴状遺構、遺構外出土遺物



第1号石器および石材集中地点，第1号住居跡，第5・20号溝，遺構外出土遺物



第1号石器および石材集中地点、第1・7号井戸跡、第9・27号溝、遺構外出土遺物



第5号火葬墓、第79号土坑、第8·12号井戸跡、第5·20号溝、遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第154集  
主要地方道下館つくば線緊急地方道路  
整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

中根十三塚遺跡

平成11(1999)年7月26日印刷  
平成11(1999)年7月30日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

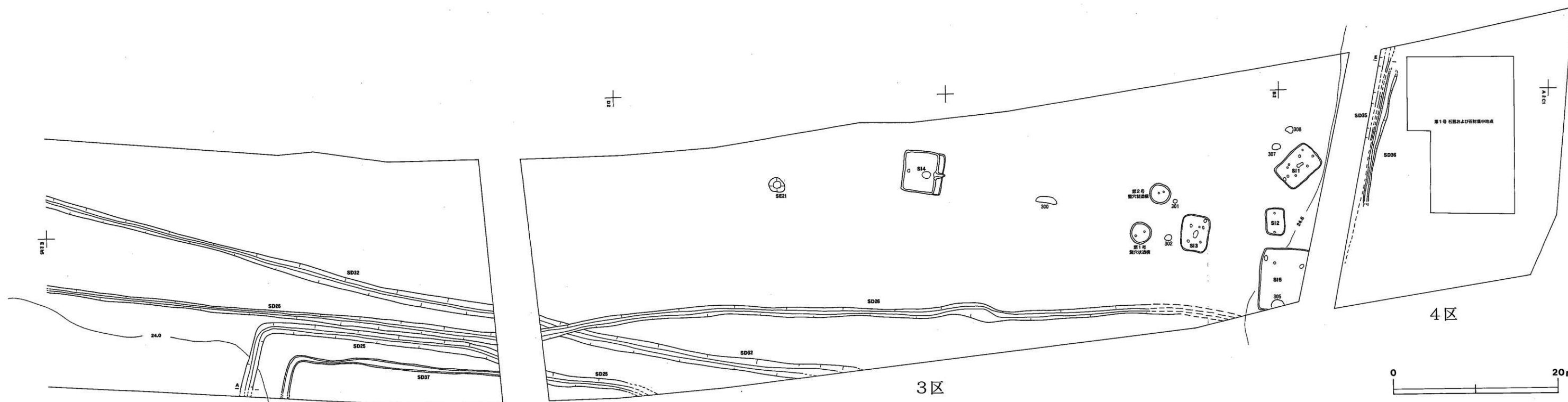
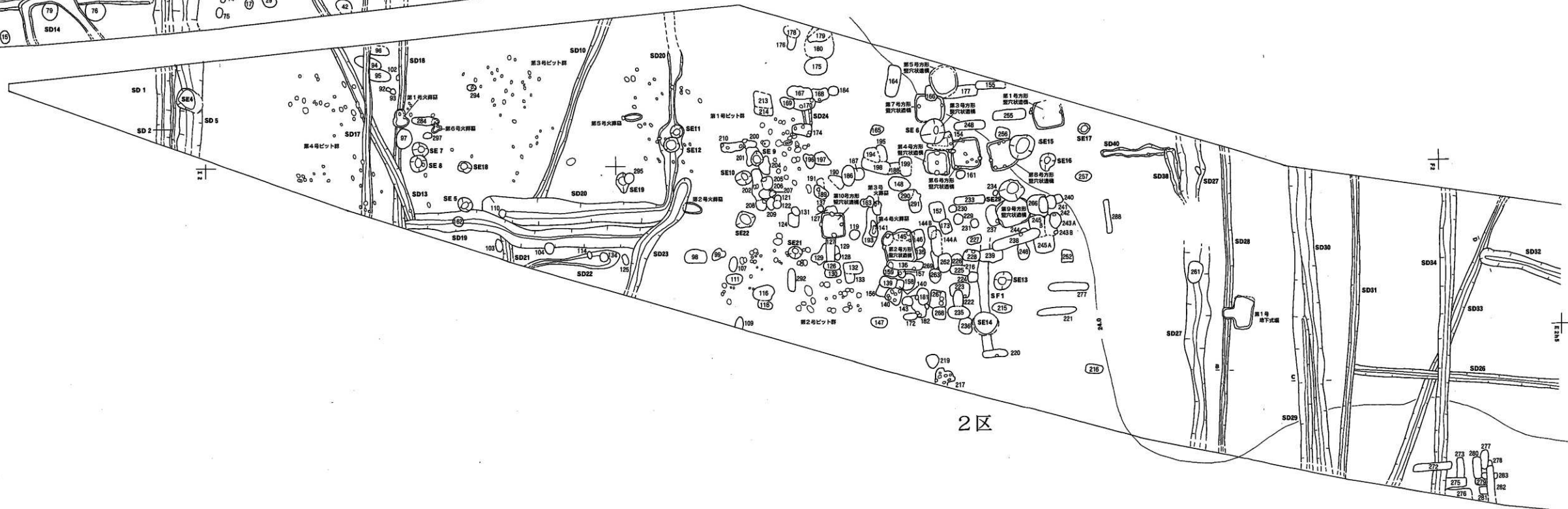
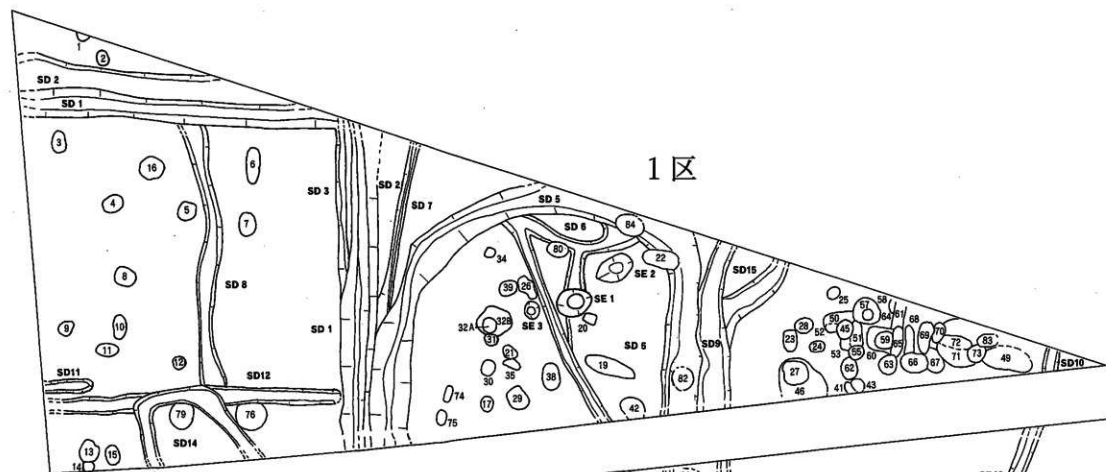
印刷 株式会社 きと印刷所  
〒310-0913 水戸市見川2558番21号  
TEL 029-241-2525



付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第154集

中根十三塚遺跡



付図 中根十三塚遺跡遺構全体図